県道高松志度線緊急整備工事および
県立医療短期大学建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

原中村遺跡

2000.2

香川県教育委員会
㈶香川県埋蔵文化財調査センター

県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

原中村遺跡　正誤表

位置	誤	正
裏表紙	2000.3	2000.2
巻頭図版	上段の遺物番号	480
例言　3.	森川　渉	森川　歩
5P.　第3図	森川　渉	森川　歩
6P.　第3表	森川　渉	森川　歩
7P.33行	条里型地割施工以降後	条里型地割施工以後
39P.12行	下層にレイアウトしているが、	なお、259は下層にレイアウト……
110P.190の材質		砂岩
110P.331の材質		流紋岩
110P.494の材質		流紋岩
110P.680の材質		流紋岩
110P.681の材質		流紋岩
110P.682の材質		砂岩

県道高松志度線緊急整備工事および
県立医療短期大学建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

原中村遺跡

2000.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

遺跡遠景（西南上空から）

東段丘地区　掘削状況（西上空から）

漆工関連遺物（1）

漆工関連遺物（2）

317

484

242

序　　文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など、大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行の業務を、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施いたしております。

このたび「県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　原中村遺跡」として刊行いたしますのは、木田郡牟礼町内で平成８年度に調査を行いました県道高松志度線緊急整備工事に伴う原中村遺跡と平成９年度に調査を行いました県立医療短期大学建設に伴う原中村遺跡についてであります。この遺跡の調査では、弥生時代後期後半を中心に縄文時代晩期から近世にいたる遺構・遺物が出土いたしております。なかでも漆が付着した弥生時代の土器片が多数出土しており、漆工を行っていたことが確認されたことは、当時の生活や文化を究明するうえで貴重なものと考えられます。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心を一層深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間、香川県土木部、健康福祉部及び関係諸機関並びに地元関係各位には多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申しあげます。

平成12年２月

香川県教育委員会
教育長　折原　守

例　　言

1．本報告書は、県道高松志度線緊急整備工事及び県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告で、木田郡牟礼町原に所在する原中村遺跡（はらなかむらいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部道路建設課及び香川県健康福祉部医療短期大学準備室より依頼を受け、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

県道高松志度線緊急整備工事

期間　平成８年４月１日～６月30日

担当　北山健一郎、吉田智、森川　渉

県立医療短期大学建設

期間　平成９年４月１日～６月30日

担当　猶本清輝、香西　亮、糸山　晋

4．調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県土木部道路建設課、香川県高松土木事務所、香川県健康福祉部医務福祉総務課、香川県健康福祉部医療短期大学準備室、牟礼町福祉課、牟礼町教育委員会、地元自治会、地元水利組合、畑田勝太郎

5．本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆、編集は木下晴一が担当した。

6．本報告書の作成にあたり、下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。

六車恵一、石川県羽咋市教育委員会（順不同、敬称略）

7．本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

ＳＨ　竪穴住居跡　　ＳＰ　ピット　　ＳＫ　土坑　　ＳＤ　溝状遺構

ＳＲ　自然河川　　ＳＸ　不明遺構

8．本報告書の作成にあり、国立歴史民俗博物館　永嶋正春氏に漆の分析を、奈良国立文化財研究所佐藤昌憲氏、高妻洋成氏に繊維製品の分析・保存処理を依頼した。

9．挿図の一部に建設省国土地理院作成の1/50,000地形図「高松」「高松南部」、1/25,000地形図「志度」、

1/5,000国土基本図「Ⅳ－ＦＦ－04、05、14、15」、1/10,000空中写真「ＳＩ－62－４　Ｃ６Ｂ－16～18」を用いた。

10. 遺物実測図のうち、土器実測図中の網目は漆の付着を示す。石器実測図中の網目は磨滅痕を、輪郭線の回りの点線は潰れ痕、実線は磨滅痕および研磨痕をそれぞれ示す。また、現代の折損は剥離面を黒で塗りつぶしている。

本 文 目 次

序　文
例　言
第１章　調査の経緯と経過……1
　第１節　調査にいたる経緯……1
　第２節　調査の経過……3
　　１．調査の経過……3
　　２．発掘調査及び整理作業の体制……6
第２章　遺跡の立地と環境……7
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……10
第３章　調査の成果……13
　第１節　調査区……13
　第２節　層序……13
　第３節　遺構・遺物……19
　　１．縄文時代晩期……19
　　２．弥生時代後期～終末期……20
　　３．古代……66
　　４．中世……66
　　５．近世……68
　　６．包含層および出土位置不明の遺物……73
第４章　まとめ……76
　第１節　遺構の変遷……76
　第２節　漆の付着する土器……77
土器観察表……84
石器観察表……110
写真図版
報告書抄録
付図３枚
　１．原中村遺跡　東段丘地区　遺構配置図（1/100）
　２．原中村遺跡　東谷地区、西段丘地区①、②　遺構配置図（1/200）
　３．原中村遺跡　西段丘地区③　西谷地区　遺構配置図（1/200）

挿 図 目 次

第１図　文化行政課　試掘トレンチ配置図
第２図　調査位置図
第３図　調査区制図
第４図　遺跡位置図
第５図　微地形分類予察図
第６図　周辺の遺跡地図
第７図　原遺跡　出土遺物実測図
第８図　周辺の条里型地割
第９図　「東段丘地区」遺構配置図(1/200)
第10図　「東谷地区」遺構配置図(1/200)
第11図　「西段丘地区」遺構配置図(1/200)
第12図　「西谷地区」遺構配置図(1/200)
第13図　ＳＲ01　出土遺物実測図(1)
第14図　ＳＨ01　平・断面図(1/50)
第15図　ＳＨ01　出土遺物実測図
第16図　ＳＨ02　平・断面図(1/50)
第17図　ＳＨ02　出土遺物実測図
第18図　ＳＨ03　平・断面図(1/50)、出土遺物実測図
第19図　ＳＨ04　平・断面図(1/50)
第20図　ＳＨ04　出土遺物実測図
第21図　ＳＨ05　平・断面図(1/80)
第22図　ＳＨ05　出土遺物実測図(1)
第23図　ＳＨ05　出土遺物実測図(2)
第24図　ＳＨ06　平・断面図(1/80)
第25図　ＳＨ06　出土遺物実測図(上・中層)
第26図　ＳＨ06　出土遺物実測図（下層・床面）
第27図　ＳＨ07・08　平・断面図(1/50)
第28図　ＳＨ09　平・断面図(1/50)
第29図　ＳＨ09　出土遺物実測図
第30図　ＳＨ10　平・断面図(1/50)
第31図　ＳＨ10　出土遺物実測図
第32図　ＳＨ11　平・断面図(1/50)
第33図　ＳＨ11　出土遺物実測図(1)
第34図　ＳＨ11　出土遺物実測図(2)
第35図　東段丘地区　ＳＰ　断面図(1/50)
第36図　東段丘地区　ＳＰ　出土遺物実測図
第37図　ＳＲ01　断面(1)(1/50)
第38図　ＳＲ01　断面(2)(1/50)
第39図　ＳＲ01　出土遺物実測図(2)（上層）
第40図　ＳＲ01　出土遺物実測図(3)(上層)
第41図　ＳＲ01　出土遺物実測図(4)(下層)
第42図　ＳＲ01　出土遺物実測図(5)(下層)
第43図　ＳＲ01　出土遺物実測図(6)(下層)
第44図　ＳＲ01　出土遺物実測図(7)(下層)
第45図　ＳＲ01　出土遺物実測図(8)
第46図　ＳＲ01　断面(3)(1/50)
第47図　ＳＲ01　出土遺物実測図(9)
第48図　ＳＲ01　出土遺物実測図(10)
第49図　ＳＲ01　出土遺物実測図(11)
第50図　ＳＲ01　出土遺物実測図(12)
第51図　ＳＲ01　出土遺物実測図(13)
第52図　ＳＲ01　出土遺物実測図(14)
第53図　ＳＲ01　出土遺物実測図(15)
第54図　ＳＲ01　出土遺物実測図(16)
第55図　ＳＲ02　断面(1/50)
第56図　ＳＲ02　出土遺物実測図(1)(Ⅴ層)
第57図　ＳＲ02　出土遺物実測図(2)(Ⅵ層)
第58図　ＳＲ02　出土遺物実測図(3)(Ⅵ層)
第59図　ＳＲ02　出土遺物実測図(4)(Ⅵ層)
第60図　ＳＲ02　出土遺物実測図(5)(Ⅵ層)
第61図　ＳＲ02　出土遺物実測図(6)(Ⅵ層)
第62図　ＳＫ01　平・断面図(1/50)、出土遺物実測図
第63図　ＳＤ01～03　断面図(1/50)
第64図　ＳＤ03　出土遺物実測図
第65図　ＳＫ02、03　平・断面図(1/50)
第66図　ＳＸ01　平・断面図(1/50)、出土遺物実測図
第67図　ＳＤ04　平・断面図(1/50)
第68図　ＳＤ04、05　出土遺物実測図
第69図　ＳＸ02　平・断面図(1/50)
第70図　東段丘地区　出土遺物実測図
第71図　東谷地区　出土遺物実測図
第72図　西段丘地区　出土遺物実測図
第73図　西谷地区　出土遺物実測図
第74図　包含層遺物実測図
第75図　漆工関連遺物実測図(1)(1/3)
第76図　漆工関連遺物実測図(2)(1/3)
第77図　漆工関連遺物実測図(3)(1/3)

表　目　次

第１表　医療短大　試掘トレンチの概要
第２表　調査工程表
第３表　発掘調査および整理調査の体制
第４表　原遺跡　出土遺物観察表
第５表　調査区　対照表
第６表　ＳＲ01　層位対照表および出土遺物対照表
上器観察表１～26
石器観察表

巻　頭　図　版

遺跡遠景（西南上空から）
東段丘地区　掘削状況（西上空から）
漆工関連遺物（1）
漆工関連遺物（2）
漆工関連遺物（3）

図　　版

図版１　遺跡付近空中写真（縮尺約１/5,000）
（左が北、ステレオ、昭和37年撮影）
図版２　遺跡付近空中写真（縮尺約１/5,000）
（左が北、ステレオ、昭和37年撮影）
図版３　東段丘地区　掘削状況（西北上空から）
東谷地区　掘削状況（東北上空から）
図版４　西谷地区　掘削状況（西南上空から）
西段丘地区　掘削状況（西上空から）
図版５　ＳＨ01　掘削状況（西南から）
ＳＨ01　掘削状況（東北から）
図版６　ＳＨ01　完掘状況（西南から）
ＳＨ02　完掘状況（西北から）
図版７　ＳＨ03　完掘状況（西北から）
ＳＨ05　掘削状況（西から）
図版８　ＳＨ05　完掘状況（南から）
ＳＨ05　炉等断面（東から）
図版９　ＳＨ06　掘削状況（東から）
ＳＨ06　掘削状況（東南から）
図版10　ＳＨ06　完掘状況（北から）
東段丘地区　掘削状況（東から）
図版11　東段丘地区　掘削状況（北から）
ＳＨ07、08　完掘状況（東北から）
図版12　ＳＨ08　完掘状況（東北から）
ＳＨ09　掘削状況（東北から）
図版13　ＳＨ10　掘削状況（東南から）
ＳＨ10　完掘状況（西南から）
図版14　ＳＨ11　掘削状況（南から）
ＳＨ11　完掘状況（東南から）
図版15　ＳＲ01　（平成９年度）完掘状況（東北から）
ＳＲ01　（平成９年度）完掘状況（西南から）
図版16　ＳＲ01　遺物出土状況
ＳＲ01　遺物出土状況
図版17　ＳＲ01　（平成８年度）完掘状況（東北から）
ＳＲ01　（平成８年度）断面（南から）
図版18　ＳＲ01　遺物出土状況
ＳＲ02　完掘状況（西北から）
図版19　ＳＲ02　断面（西北から）
ＳＲ02　断面（東北から）
図版20　ＳＲ02　遺物出土状況（北から）
ＳＲ02　遺物出土状況（西北から）
図版21　ＳＲ02　遺物出土状況（東北から）
ＳＲ02　遺物出土状況（東北から）
図版22　ＳＫ01　掘削状況（東南から）
ＳＫ01　断面（東南から）
図版23　ＳＤ03　断面（北から）
西段丘地区①　完掘状況（東北から）
図版24　西段丘地区②　完掘状況（北から）
西段丘地区③　完掘状況（西北から）
図版25　ＳＫ02　断面（南東から）
ＳＫ03　断面（南から）
図版26　ＳＸ01　掘削状況（北から）
ＳＸ01　断面（西から）
図版27　ＳＸ02　断面（南東から）
ＳＸ02　断面（西南から）
図版28　遺物写真
～43

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査にいたる経緯

１．県道高松志度線

県都高松市と東讃地域とを結ぶ主要幹線である国道11号線は渋滞が頻発し、その緩和のための道路整備が香川県にとって大きな課題とされてきた。県道高松志度線建設はその一環として計画された路線で、県政の重要施策の一つとして整備が急がれているものである。 香川県教育委員会は、全長6.5km の建設予定地について分布・試掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護を図っている。本田郡牟礼町内については、延長約1.3km の範囲について試掘調査が必要と判断され、用地買収の進捗に合わせて平成６年10月25、26日と平成７年１月20日および９月26日に調査をおこなった。トレンチ配置は第１図に示すとおりである。

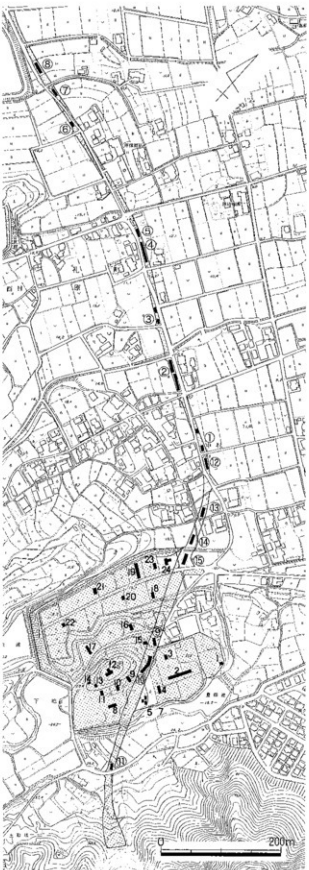
平成６年度の試掘調査では、①トレンチでは床土直下に地山を確認し、削平が著しいことが確認された。②トレンチでは５～15cm 程度の厚さの弥生土器包含層下からピット、溝、土坑等を検出。③トレンチは谷部に相当し、中世以降の遺物が少量出土したのみで遺構は検出されなかった。④トレンチでは弥生土器を多量に包含する小規模な流路とともにピット群を検出した。⑤トレンチは削平されていた。⑥～⑧トレンチでは土師器片が少量出土したのみで遺構は検出されなかった（文献１）。平成７年１月20日の試掘調査は、前回調査地の東でおこなわれた。設定した⑨～⑪トレンチからは、いずれも遺構・遺物は検出されなかった。

以上の調査結果から、②および④トレンチを設定した水田２筆約600㎡ について文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断され、平成７年１月17日から２月10日までの期間で文化行政課直営による発掘調査がおこなわれた。調査成果は文献２に報告されている。

平成７年度の試掘調査では、⑬～⑮トレンチで遺構、遺物が検出された。特に⑮トレンチでは上層に中世・近世を主体とする遺物包含層、下層に弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器片を多量に含む旧河道を検出した。このため⑬～⑮トレンチを設定した地筆を中心に1,500㎡ について保護措置が必要と判断され、平成８年度に(財)香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として調査を実施することとなった。（文献３）

２．県立医療短期大学

近年の人口の急速な高齢化等により保健医療系高等教育機関の設置が必要とされ、平成８年２月に「県立医療短期大学整備基本構想」が策定されて以後、県政の重要施策の一つに位置付けられ急ピッチで整備が進められた事業である。建設地は牟礼町原の県道高松志度線の南北にまたがる地域に計画された。県教育委員会は平成８年４月に照会をうけ、直ちに分布調査を実施し試掘調査が必要と判断、３回延べ5.5日間を費やし24ヶ所のトレンチ調査をおこなった。各トレンチの内容は第１表に示すとおりである。調査の結果、遺構・遺物が検出されたのは事業地東部の２筆の桃畑と県道高松志度線の東端調査区の弥生時代後期の土器を多量に包含する旧河道の延長部の２地点である。前者は桃の木の間に人力による小規模なトレンチしか掘削できなかったため遺構の内容は確認できなかったが、弥生時代後期の土器が多量に出土した。この北側の畑地に設定した４トレンチは耕作土直下に地山が現れ遺構・遺物は認められなかった。南側の畑地とは50cm 程の段差があり削平をうけているものと考えられた。後者の旧河道は、



第１図　文化行政課　試掘トレンチ配置図

番号	規模	遺構	遺物	調査所見
1	4.0×1.5	なし	なし	表土直下に地山
2	38.0×2.0	なし	なし	表土直下に地山
3	6.0×1.5	なし	なし	表土直下に地山
4	12.0×1.0	なし	なし	表土直下に地山
5	4.2×0.8	なし	弥生土器	厚10cmの遺物包含層あり
6	4.6×0.8	なし	弥生土器	厚10cmの遺物包含層あり
7	1.8×1.0	なし	弥生土器	厚10cmの遺物包含層あり
8	12.0×0.8	なし	なし	表土直下に地山
9	9.6×1.0	なし	なし	表土直下に地山
10	7.0×1.0	なし	なし	表土直下に地山
11	6.4×1.0	なし	なし	表土直下に地山
12	12.8×1.6	なし	なし	表土直下に地山
13	6.2×0.5	なし	なし	表土直下に地山
14	3.0×0.5	なし	なし	表土直下に地山
15	6.0×1.2	なし	なし	表土直下に地山
16	8.4×1.0	なし	なし	表土直下に地山
17	12.5×1.6	なし	なし	表土直下に地山
18	7.5×0.9	旧河川	なし	深3.3mの旧河川
19	21.8×1.6	旧河川	なし	深2.6mの旧河川。噴砂あり
20	5.0×0.9	旧河川	なし	深3.2m以上の旧河川
21	8.0×0.9	旧河川	なし	深3.0m以上の旧河川
22	6.0×0.9	旧河川	なし	深2.7m以上の旧河川
23	5.5×0.5	溝状遺構	弥生土器	暗茶色砂質土の包含層、遺物多量
24	21.0×1.4	旧河川、溝	中世土器、弥生土器	中世土器の包含層、弥生土器を多量に含む旧河川

第１表　医療短大　試掘トレンチの概要

試掘調査によって後代に開析された谷により大半が浸食され、一部残存していることが判明したため、2筆に旧河道が遺存するものと判断できた。以上の2地点、2,000㎡について保護措置が必要と判断され、平成9年度の早い時期に(財)香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として調査を実施することとなった（文献4）。なお、遺跡の内容や位置関係から、県道高松志度線で調査された遺跡と同一の内容の遺跡であると判断し、「原中村遺跡」と呼称することとした。

（文献1） 香川県教育委員会『埋蔵文化財試掘調査報告Ⅷ　国道バイパス・県道予定地及び県営ほ場整備事業予定地内等の調査』1995
（文献2） 香川県教育委員会『県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報集　福万遺跡　原中村遺跡』1995
（文献3） 香川県教育委員会『埋蔵文化財試掘調査報告Ⅸ　国道バイパス等事業予定地内の調査』1996
（文献4） 香川県教育委員会『埋蔵文化財試掘調査報告Ⅹ　香川県内遺跡発掘調査』1997

第2節　調査の経過

1．調査の経過

(1) 県道高松志度線

県道高松志度線緊急整備工事に伴う原中村遺跡の発掘調査は、平成8年4月1日から6月30日までの3ヶ月間で実施した。調査区割図および工程表を第2図、第2表に示す。また、年度末に調査成果の概要を報告している（文献1、2）。なお、用地買収等の事情で、Ⅱ区とⅢ区の間の地筆（約200㎡）の調査は、平成9年2月24日～3月3日の期間で文化行政課が直営で実施した。

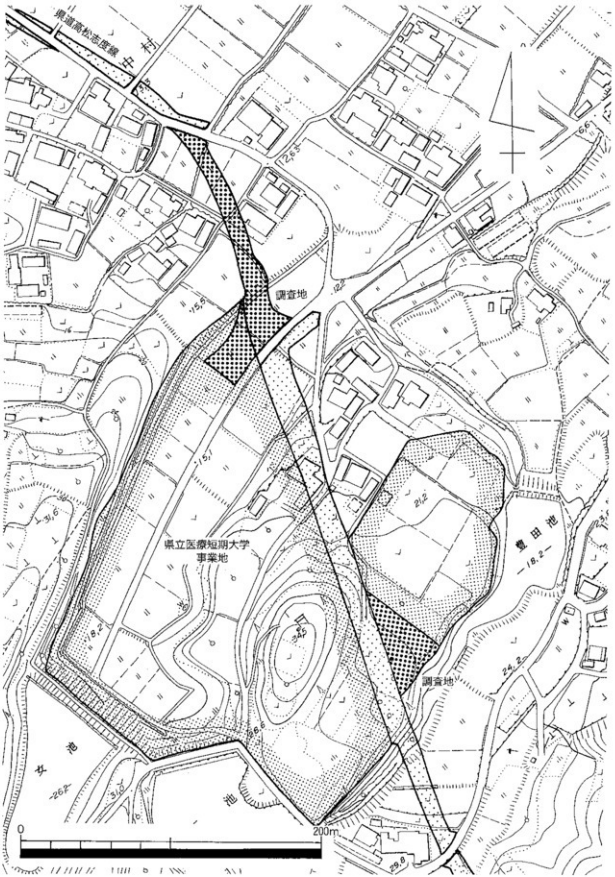
(2) 県立医療短期大学

県立医療短期大学建設に伴う原中村遺跡の発掘調査は、平成9年4月1日から6月30日までの3ヶ月間で実施した。調査区割および工程は第2図、第2表に示すとおりである。年度末に調査成果の概要を報告している（文献3、4）。なお、用地買収等の事情で、Ⅱ区南側の地筆（約70㎡）の調査は、平成10年1月19日～21日の期間で文化行政課が直営で実施した。

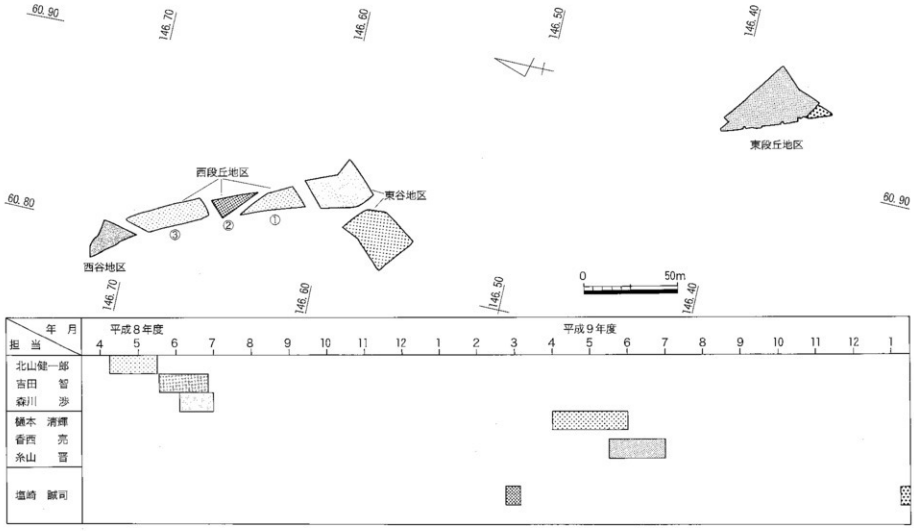
(3) 整理調査

県道高松志度線部分の整理調査は、平成11年4月1日に開始し6月30日に終了した。県立医療短期大学部分の整理調査は、平成11年7月1日に開始し9月30日に終了した。

（文献1） 香川県教育委員会、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成8年度』1997
（文献2） 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成8年度』1997
（文献3） 香川県教育委員会、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　原中村遺跡』1998
（文献4） 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成9年度』1999



第２図　調査位置図



第3図　調査区割図・第2表　調査工程表

2．発掘調査および整理調査の体制

発掘調査および整理調査の体制は、第３表のとおりである。

香川県教育委員会文化行政課			
	平成８年度	平成９年度	平成11年度
総括	課長　藤原　章夫	課長　菅原　良弘	課長　小原　克己
	課長補佐　高木　一義	課長補佐　北原和利	課長補佐　小国　史郎
	課長補佐　北原　和利	副主幹　渡部明夫	副主幹　廣瀬　常雄
	副主幹　渡部　明夫		
総務	係長　山崎　　隆	係長　山崎　隆	係長　中村　禎伸
	主査　星加　宏明	主査　星加　宏明（～5.31）	主査　三宅　陽子
	主事　國方　秀子（～5.31）	主査　松村　崇史（6.1～）	主査　松村　崇史
	主事　打越　和美（6.1～）	主事　打越　和美	係長　西村　尋文
埋蔵文化財	文化財専門員　木下　晴一	文化財専門員　木下　晴一	文化財専門員　森　格也
	技師　塩崎　誠司	技師　塩崎　誠司	主任技師　塩崎　誠司
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
	所長　大森　忠彦	所長　大森　忠彦	所長　菅原　良弘
総括	次長　小野　善範	次長　小野　善範	次長　川原　裕章
	係長　前田　和也	副主幹　田中　秀文（6.1～）	副主幹　田中　秀文
総務	主査　西村　厚二（～5.31）	係長　前田　和也（～5.31）	係長　新　一郎
	主任主事　西川　大	主事　佐々木隆司	主査　山本　和代（6.1～）
	主事　佐々木隆司（6.1～）		
	参事　近藤　和史	参事　近藤　和史	
調査	主任文化財専門員　廣瀬　常雄	主任文化財専門員　大山　真充	主任文化財専門員　大山真充
	主任文化財専門員　大山真充	主任文化財専門員　藤好　史郎	文化財専門員　木下　晴一
	文化財専門員　北山健一郎	文化財専門員　獅本　清輝	
	主任技師　吉田　智	技師　香西　亮	
	調査技術員　森川　渉	調査技術員　糸山　晋	

第３表　発掘調査および整理調査の体制

県道高松志度線（平成８年度）の調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員　飯間高子

普通作業員　山田馨、八十川登、多田勝、三宅強、高木輝男、中川恒夫、松本一郎、岡村好美、上西弘、吉田実、多田敏夫

軽作業員　百生享子、土居智江子、串田光子、高本マス子、中川真理子、十河美枝子、上西キミ子、村尾重子、高橋美佐子、横山貞子

県立医療短期大学（平成９年度）の調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員　木村真由美

普通作業員　篠原密夫、森澤明義、川野清、富田英三、山地輝吉、三宅強、野崎保、岡村好美、上西弘、吉田実、多田敏夫、佐々木勇、遠藤増雄、富岡晴美、間島健吉、高木輝男

軽作業員　獅田英子、荒木和美、川野弘子、村川充子、多田由美子、芳澤香代、日下澄子、日下千鶴子、上西キミ子、村尾重子、高橋美佐子、横山貞子、中川真理子、高木ミチ子、遠藤トミ子

整理調査（平成11年度）に携わった方々は以下のとおりである。

整理補助員　猪木原美恵子、市川孝子、谷純子

整理作業員　藤川洋代、槍松朋子、福永光恵、門脇範子、佐々木明子、山中宏美

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

１．遺跡の位置

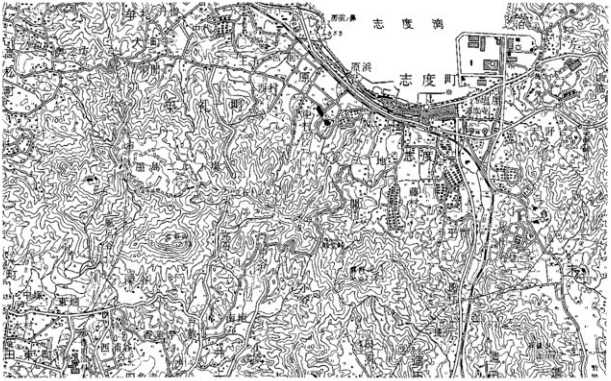
原中村遺跡の所在する木田郡牟礼町原は、標高290ｍ以下の立石山・雲附山・五瀬山山地の北側に拡がる緩傾斜面を中心とする地域で、北側は瀬戸内海に面し、東西は山塊で志度町、牟礼町大町と画される。範囲は東西約 1.2 km 南北約１km を測る。立石山・雲附山・五瀬山山地は新期領家花こう岩類よりなるが、細かくは主として中～粗粒の花こう閃緑岩よりなる。これは香掛ほか(1) によって「志度花こう岩」の一部に分類されている。この山地は著しく開折がすすみ谷密度が高い。浸食された砂礫は山麓に小規模な扇状地や沖積錐を形成している。これらは段丘化している。この地域の地形分類図としては、建設省国土地理院発行の1／25,000土地条件図「高松南部」があるが(2)、遺跡の立地を検討するためには、より大縮尺の微地形分類図の作成が必要と考えられ、第５図に予察図を示す。本図は空中写真判読により地表面の形態的特徴をもとに分類したものである(3)。

微地形分類の結果、土地条件図による地形分類と巨視的には同様に、山地北側の緩傾斜面は扇状地起源の「段丘Ⅰ面」・「段丘Ⅱ面」に、またその前面は「氾濫原面」・「浜堤」に分類される。以下に各地形面の特徴を述べる。

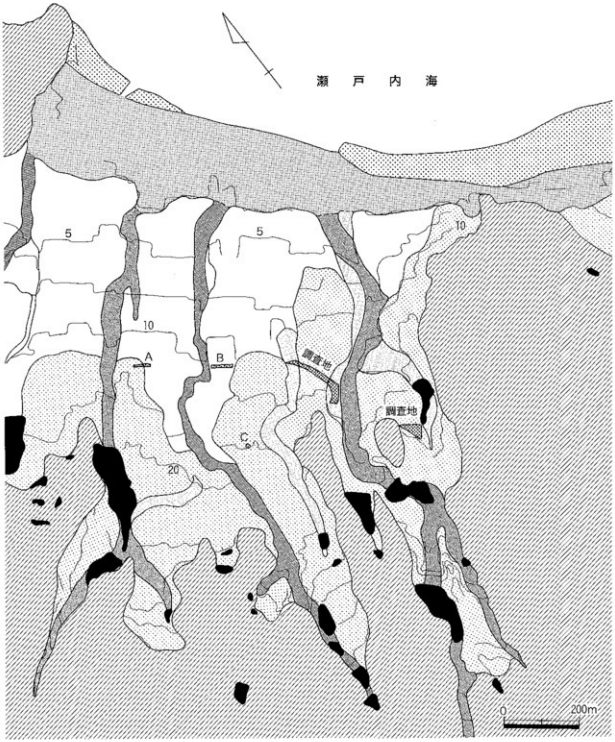
「段丘Ⅰ面」は、山地内の谷底および山地前面に拡がる地形面で、開折されており段丘化しているが、扇状地・沖積錐が成因である。相対的に傾斜が急で、横断方向にも微起伏に富む。海側の一部に条里型地割が認められる。「段丘Ⅱ面」は、段丘Ⅰ面の海側に分布する地形面で、段丘Ⅰ面・氾濫原面とは小崖で画される。段丘Ⅰ面より相対的に傾斜が緩やかであるが、それでも２～３％を測る。この地形面には条里型地割が認められる。主として開折谷Ｂによって段丘化している。「氾濫原面」は、瀬戸内海に面して帯状に分布する「浜堤」と、その背後の低湿地よりなる。浜堤は、西北から東南方向の沿岸流の漂砂が供給源と考えられるが、現状では発達が悪い。低湿地は今のところ成因不明であるが、海岸平野に分類されるものと考えられる。この地域の宅地は、浜堤および讃岐街道沿いと段丘Ⅰ面を中心に立地している。

当地域には開折谷が発達しているが、相対的に浅い谷（開折谷Ａ）と深い谷（開折谷Ｂ）の２種に分類できる。医療短大事業地南側では、「下池」上流で２筋の谷が合流しているが、東側の谷は元々は「豊田池」に向かう谷であった。これが開折（谷頭浸食）の進行によって河川争奪がおこり、「上池」の所在する谷と合流している。「下池」下流には開折を免れた開折谷Ａの谷底面が断片的に分布している。弥生時代後期の土器を多量に包含する「東谷地区」（後述）旧河道（ＳＲ01）は、開折谷Ａの谷底面に遺存する。一方、「西谷地区」の旧河道（ＳＲ02）には開折谷Ｂの浸食が及んでいない。このことから開折谷Ｂが形成されたのは弥生時代後期以降ということになるが、第４図の西側の３筋の開折谷Ｂは、条里型地割の坪界線にほぼ合致するか、方向を揃えているようで、条里に伴う水路が後に開折されて谷を形成した可能性がある。そうであれば開折谷Ｂは条里型地割施工以降後に形成されたことになり高橋学によって指摘される瀬戸内海沿岸を中心にみられる「完新世段丘Ⅱ面」を形成した微地形変化に対応する可能性がある(4)。いずれにしても原中村遺跡の中心をなす弥生時代後期の景観を復原しようとする場

合、開折谷Ｂを除外したものをイメージする必要がある。



第４図　遺跡位置図（１/50,000「高松南部」）



山地　段丘Ⅰ面　段丘Ⅱ面　氾濫原面（海岸平野）　浜堤

ため池　開折谷A　開折谷B　調査地

A, B　平成６年度調査　原中村遺跡　　C　原遺跡

第５図　微地形分類予察図

第２節　歴史的環境

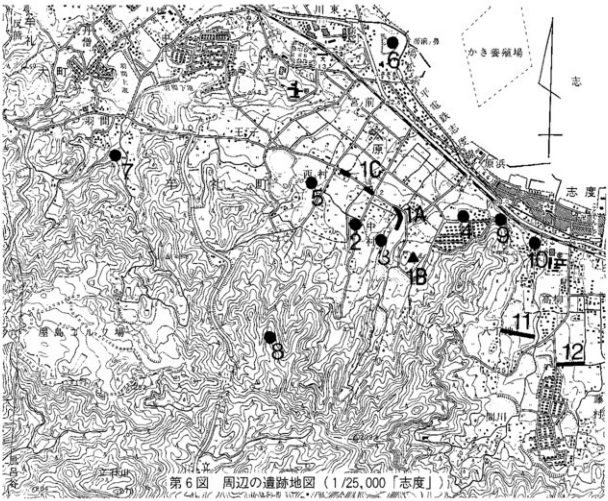
１．旧石器・縄文時代

町内には旧石器時代の遺構・遺物は、今のところ発見されていない。縄文時代の遺構・遺物は、平成６年度調査の原中村遺跡で土器片が少量出土している(5)。また、本書に報告するように、旧河道から縄文時代晩期の刻み目突帯文の深鉢片や浅鉢片が若干量出土している。

２．弥生時代

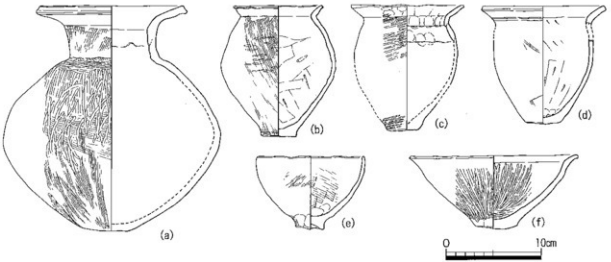
弥生時代になるといくつかの遺跡が知られている。羽間西の谷の羽間遺跡からは明治15、６年ころに開墾中細形銅剣が弥生土器片とともに出土している。全長27㎝、幅３㎝ を測るものである(6)。原遺跡（原1995-1ほか）は、本県における弥生時代後期後半の標式資料とされてきた著名な遺跡である。1954年にブドウ畑として開墾中に多量の土器破片が出土したもので、遺構の内容はよくわからない。出土土器は完形もしくは完形に近いものが多く、壺、甕、鉢、高杯、小型丸底土器などよりなる(7)。第６図は遺物保管者である牟礼中学校および畑田勝太郎氏より借用した土器の実測図である。

この他に平成６年度調査の原中村遺跡で、弥生時代後期後半から終末にかけての土器が多量に包含される、幅1.5～２ｍ、深さ75㎝ の小規模な流路が検出されている(5)ほか、志度町の八丁地遺跡では弥生



第６図　周辺の遺跡地図（１/25,000「志度」）

１Ａ～Ｃ．原中村遺跡　２．原遺跡　３．石塚古墳　４．丸山古墳　５．茶臼山経塚古墳　６．房崎出城跡
７．羽間遺跡　８．幡薗城跡　９．多和神社古墳　10．越窓古墳　11．八丁地遺跡　12．花池尻遺跡



第７図　原遺跡　出土遺物実測図

番号	種類	器種	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
a	弥生土器	壺	8/8		ニス状のもの塗布、不明	口縁部から頸部ヨコナデ、体部　ハケ？	口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、体部上半ハケのちヘラミガキ、下半ハケ	『弥生土器集成』3
b	弥生土器	甕	6/8	長石・石英中少	不明	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリのち板ナデ	口縁部ヨコナデ、体部タタキのちハケ	『弥生土器集成』22
c	弥生土器	甕	5/8	長石・石英小少	不明	口縁部板ナデのちヨコナデ、体部指押さえのちナデ	口縁部ヨコナデ、体部タタキ	『弥生土器集成』23
d	弥生土器	甕	2/8	長石・石英小少	不明	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部マメツ	『弥生土器集成』26 口縁部外面下半に沈線２条
e	弥生土器	鉢	4/8	長石・石英中少	不明	口縁部ヨコナデ、体部指押さえのちハケ	口縁部ヨコナデ、体部ハケ、底部指押さえ	『弥生土器集成』10
f	弥生土器	鉢	6/8	長石・石英中普	不明	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	『弥生土器集成』13

第４表　原遺跡　出土遺物観察表

時代後期の遺物を包含する溝状遺構が検出されている(8)。

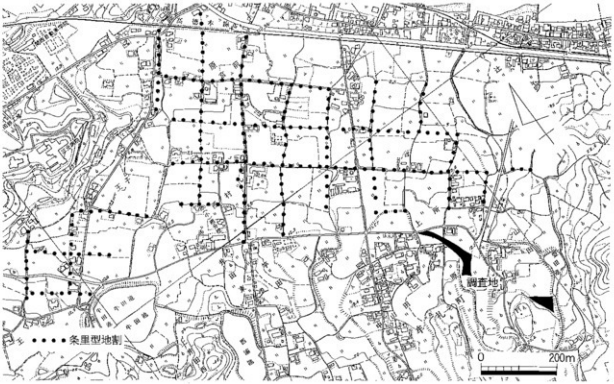
３．古墳時代

周囲の古墳として、丸山古墳（原丸山）、石塚古墳（原1800-1）、茶臼山経塚古墳（原2499-14）、多和神社古墳（志度町志度）、越窓古墳（志度町志度新町）などが知られているが、実態不明なものが多い(9)。

４．古代、中世

古代の遺構・遺物として、平成６年度調査の原中村遺跡から50cm 程の掘り方をもつ奈良時代の掘立柱建物が検出されている(10)。また、周辺には圃場整備以前に条里型地割が認められたが、施工年代等を検討する資料は得られていない。第７図は、原中村遺跡周辺の条里型地割（一町方格の地割）を抽出したものである。一町方格内部の地割は雑然としている。

中世の遺跡として、南側山中に幡薙城跡の所在が伝えられているが、縄張りの詳細は不明である。この北側山麓には「城一」という小字があり平地城館の所在を暗示する可能性が考えられるが詳細は不明



第８図　周辺の条里型地割

である。

なお、当地周辺を指す史料として承安五（1175）年の東大寺庄園文書注文（東大寺文書）に「原保」の記載があり、至徳四（1387）年の天龍寺領土貢注文（天龍寺文書）に「原郷」の記載がある。

(1) 香掛俊夫・端山好和・木岡弘次・政岡邦夫・宮川邦彦・仲井豊・山田哲雄・吉田勝「小豆島および讃岐東部の領家帯」『地質学論集』17、1979

(2) 建設省国土地理院『土地条件調査報告書（高松地区）』1986、地形分類は高桑礼が担当した。

(3) 建設省国土地理院昭和37年撮影の空中写真を用いた。

(4) 高橋学「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院　1995

(5) 香川県教育委員会『県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報集　福万遺跡　原中村遺跡』1995

(6) 牟礼町史編集委員会『牟礼町史』1993
瀬戸内海歴史民俗資料館『讃岐青銅器図録』1983

(7) 六車恵一「香川県木田郡牟礼村原遺跡の土器」小林行雄、杉原荘介編『弥生式土器集成２』1961

(8) 山元素子「八丁地遺跡」(財)香川県埋蔵文化財調査センターほか『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成７年度』1996

(9) 注５文献に、出土遺物等の記載がある。

(10) 注４文献

第３章　調査の成果

第１節　調査区

今回調査を実施したのは、西南から東北方向の約400ｍの範囲で、大きく２つの地区に分かれる。東側の調査区は段丘上にあたることから「東段丘地区」と呼称することとする。ここでは弥生時代終末期の竪穴住居跡10棟のほか、奈良時代の土坑、中世の溝跡などを検出した。

西側の調査区は段丘を挟んで両側に谷が所在することから「西段丘地区」、「東谷地区」、「西谷地区」の３調査区に細分し、さらに「西段丘地区」は調査前の地筆から①～③の小区に細分した。「西段丘地区」からは、弥生時代終末期の竪穴住居跡１棟のほか近世の遺構を検出した。「東谷地区」は県道高松志度線（平成８年度）と医療短期大学（平成９年度）の２回に分けて調査をおこない、弥生時代後期後半から終末期の遺物を多量に包含する旧河道を検出している。「西谷地区」も同様に弥生時代後期後半から終末期の遺物を多量に包含する旧河道を検出した。これらの地区名は第３図に、調査時の地区名との対照を第５表に示す。

第２節　層序

「東段丘地区」は、調査着手前は桃畑となっていた。標高は約24ｍである。表土直下に風化の進んだいわゆる花崗岩マサが現れ、この上面が遺構面となる。段丘上の大半が後世の削平をうけていることが試掘調査によって確認されており、一部に遺構が残存している状況である。

「東谷地区」は、段丘に挟まれた幅約80ｍの谷の一部分にあたる。調査着手前の標高は約13ｍを測る。この谷は「西谷地区」の調査成果から古代以降に大規模な開折をうけたと推定され、開折を免れた地域に弥生時代後期を中心とする遺物を包含する旧河道が残存している状況である。旧河道の層序についてはＳＲ01の項に記述する。なお、この地区は昭和50年代に大規模な圃場整備が行われ、景観が一変している。調査前は水田であった。

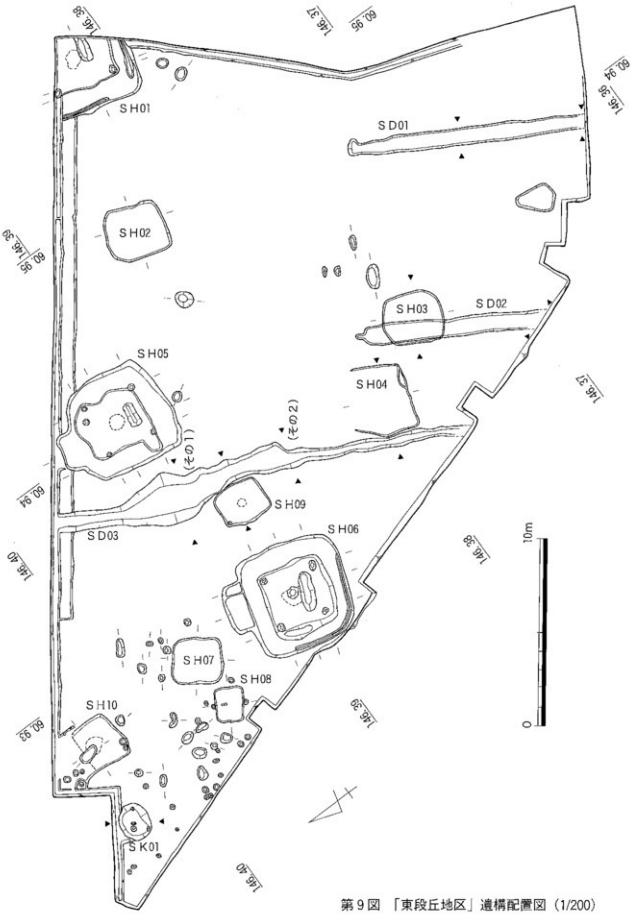
「西段丘地区」は、調査着手前は宅地および水田であった。標高は約13～14ｍである。ここでも表土直下に風化の進んだ花崗岩マサが現れる。水田造成のため削平をうけており、表土を除去すると地山が段状にカットされている状況が観察された。

弥生時代後期から古代の遺物を包含する旧河道が検出された「西谷地区」は「東谷地区」の谷のように大規模な開折をうけていない。調査着手前の標高は12ｍ。層序についてはＳＲ02の項で記述する。

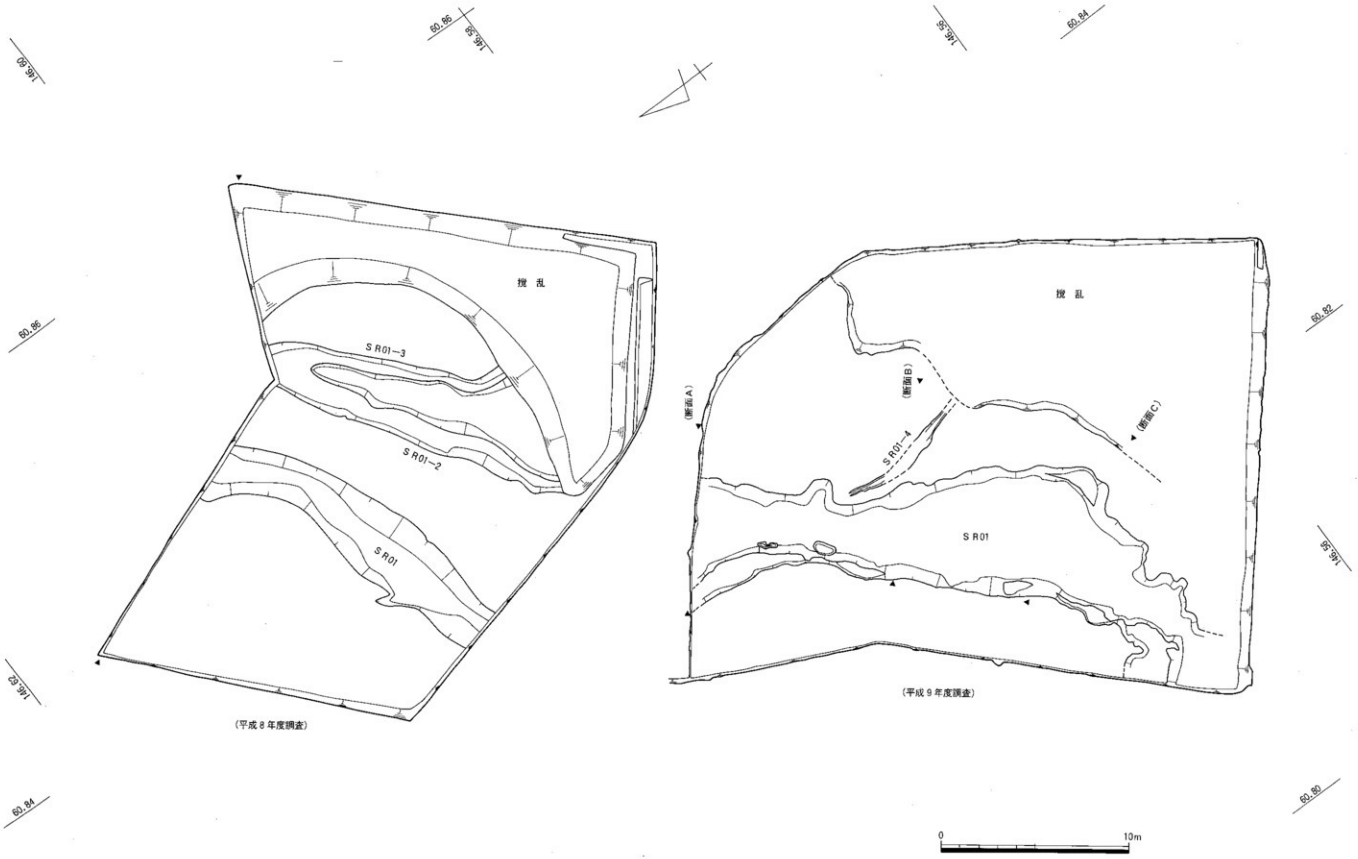
調査時地区名	報告書地区名
県道　Ⅰ区	西谷地区
県道　Ⅱ区	西段丘地区③
県道　Ⅲ区	西段丘地区①
県道　Ⅳ区	東谷地区

調査時地区名	報告書地区名
文化行政課（H.８）	西段丘地区②
医短　Ⅰ区	東谷地区
医短　Ⅱ区	東段丘地区

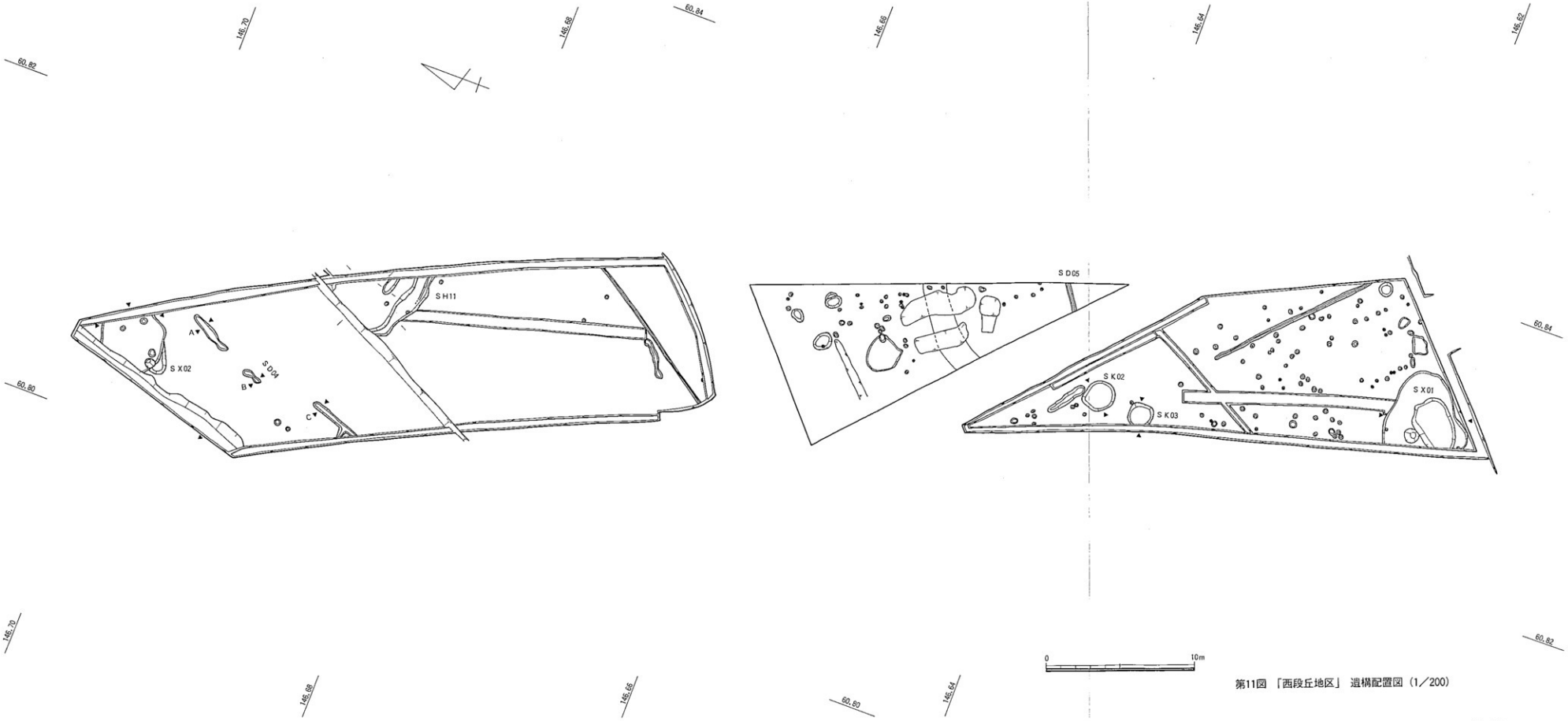
第５表　調査区　対照表



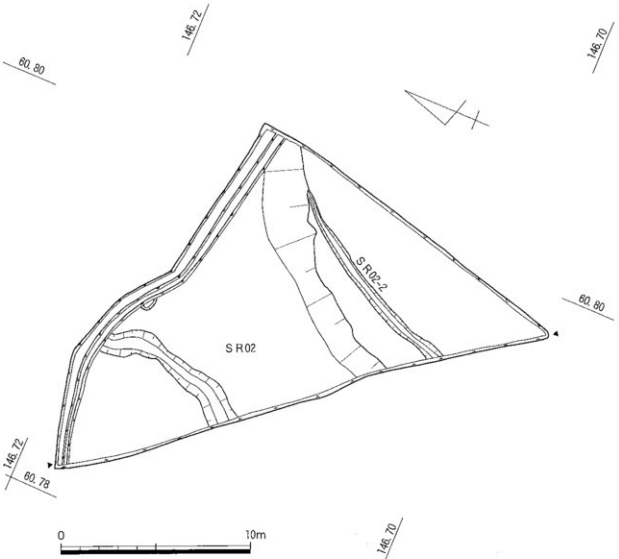
第９図 「東段丘地区」遺構配置図（1/200）



第10図 「東谷地区」 遺構配置図 (1／200)



第11図 「西段丘地区」 遺構配置図（1／200）

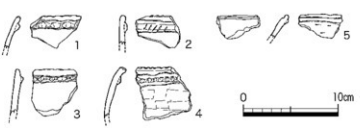


第12図 「西谷地区」遺構配置図（1/200）

第３節　遺構・遺物

１．縄文時代晩期

「東谷地区」のＳＲ01および上面精査中に縄文時代晩期の土器片数点を検出している。第13図１～４は深鉢、５は浅鉢である。１～４はいずれも口縁部直下（６mm～１cm）の外面に突帯を貼り付け刻み目を施している。また、口縁端部上面にも刻み目を施している。１、４の刻み目は突帯部が「Ｄ」字形、口縁端部が「Ｏ」字形、２は線状の刻み目である。３の刻み目は粗雑なものである。５の浅鉢は口縁部直下の外面に突帯を貼り付け、内面に１条の沈線を施している。波状口縁の浅鉢（657）については後述する。



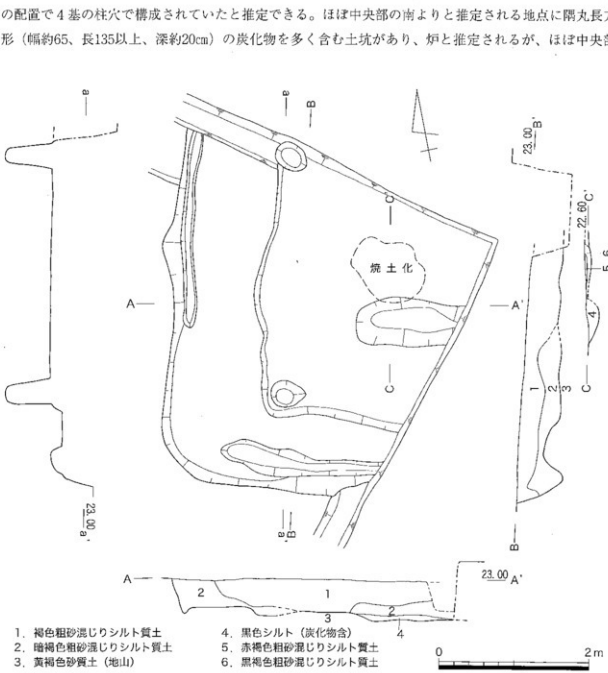
第13図　ＳＲ01　出土遺物実測図（1）

2．弥生時代後期～終末期

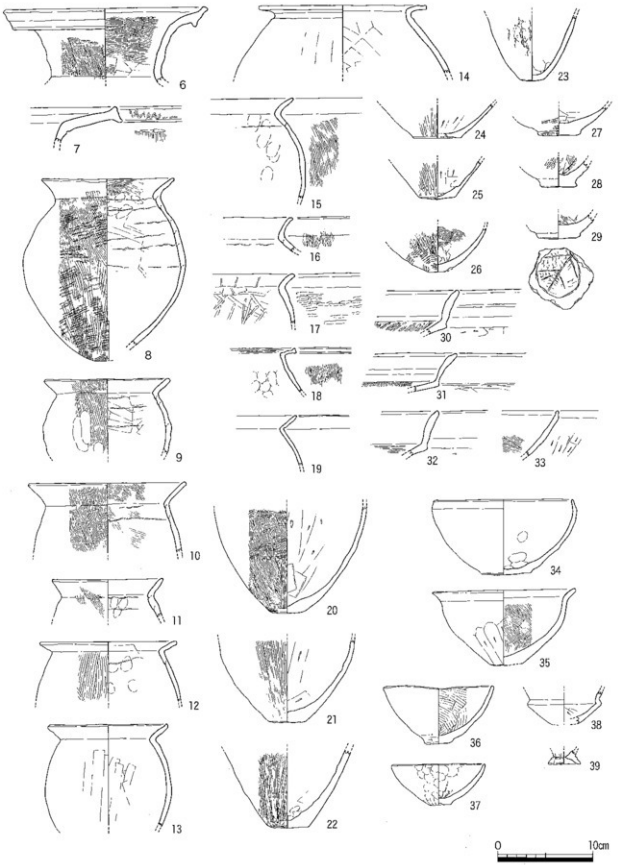
「東段丘地区」で当該期の10棟の竪穴住居跡、「西段丘地区」で１棟の竪穴住居跡を検出した。また、「東谷地区」および「西谷地区」で旧河道を検出している。

ＳＨ01

東段丘地区の東北隅で検出した竪穴住居跡である。東側は池に面した急斜面で発掘区の拡張には限界があったため全体像を明らかにできなかった。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は南北5.0m以上、東西2.8m以上、検出面からの深さ0.4mを測る。主柱穴は２基検出し，調査区外とあわせてほぼ正方形の配置で４基の柱穴で構成されていたと推定できる。ほぼ中央部の南よりと推定される地点に隅丸長方形（幅約65、長135以上、深約20cm）の炭化物を多く含む土坑があり、炉と推定されるが、ほぼ中央部



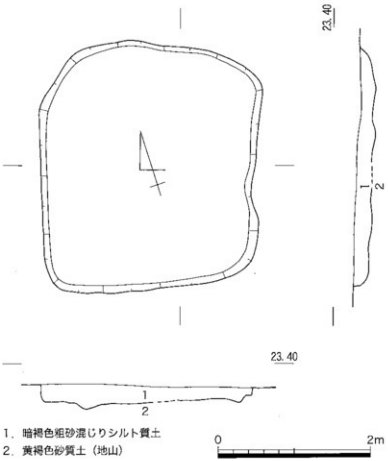
第14図　ＳＨ01　平・断面図（1/50）



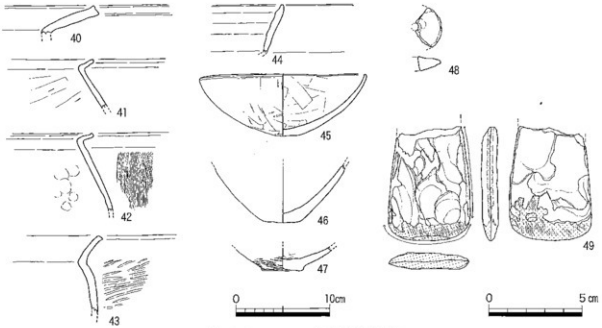
第15図　ＳＨ01　出土遺物実測図

と推定される位置にも焼土が見られる。周囲には、地山削り出しによるベット状遺構が設けられ、南壁際と東壁際に壁溝（幅約25、検出面から深約10cm）が見られる。

28㌔入りコンテナ2.5箱分の土器片が出土した。遺物は埋土上層、埋土下層、床面に分離しているが、3者間で接合できる事例が多く混在していると判断されるため第15図に一括して図示した。6の壺はベッド状遺構内側の床面に伏せ置かれた状態で出土した。7の壺小片は下川津B類土器。口縁端部に波状文が施される。8～11の甕は「く」字状に外反する口縁を有し、口縁部外面にハケ調整が認



第16図　ＳＨ02　平・断面図（1/50）



第17図　ＳＨ02　出土遺物実測図

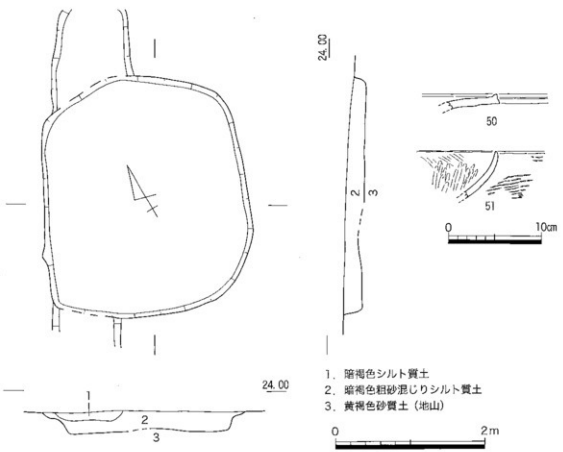
められる。14の甕は下川津B類土器に形態が類似するが、胎土がやや異なり器壁も厚いものである。18の甕、25の底部、30～32は下川津B類土器である。30～32は破片のため高杯か鉢か不明である。29の底部外面には木葉圧痕が認められる。34の鉢は口縁部に強いヨコナデを施し、端部がやや内湾している。35の鉢の外面下半は幅広のヘラケズリを連続して施している。

ＳＨ02

東段丘地区の東北隅近く、ＳＨ01とＳＨ05の間で検出した。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は南北3.3m、東西2.8m、検出面からの深さ0.2mを測る。炉跡や柱穴跡は検出されなかった。遺物は、埋土中より緑泥片岩製の石斧片、土器片が28㌘入コンテナ½箱出土した。細片が多く接合できる資料は少ない。第17図41、42の甕、44の高杯か鉢は下川津B類土器である。45の鉢は完形に近い状態に復原できた。49は緑泥片岩製の打製石斧である。基部は欠損している。先端部や側縁部に使用痕が見られる。

ＳＨ03

東段丘地区の南部の中央よりで、ＳＨ04と並んで検出した。中世のＳＤ02と重複する。平面形はやや楕円形に近い隅丸方形で、規模は南北3.2m、東西2.7m、検出面からの深さ0.3mを測る。炉跡や柱穴

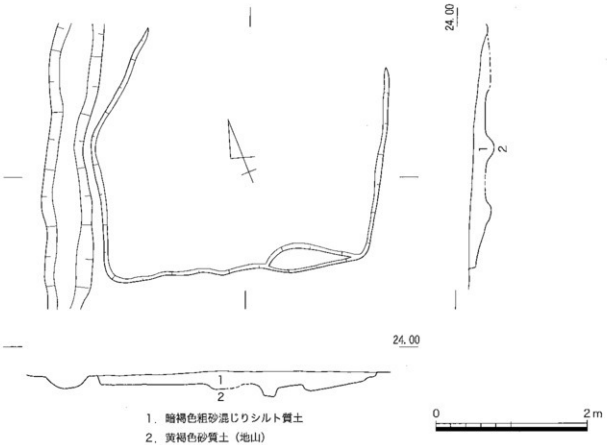


第18図　ＳＨ03　平・断面図（1/50）、出土遺物実測図

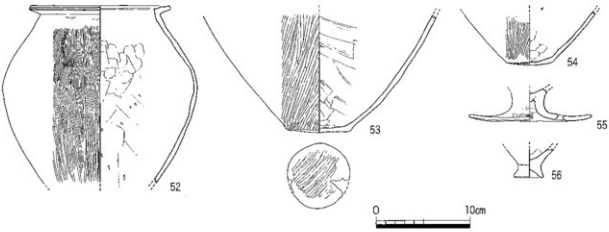
跡は検出されなかった。遺物は土器片が28㌘入りコンテナ1/4箱出土した。第18図50は壺口縁部の小片である。端部に沈線が1条巡っている。51は鉢の小片、内面はハケの後ヘラミガキをしている。

SH04

東段丘地区の南部の中央よりで、SH03と並んで検出した竪穴住居跡である。平面形は北壁は検出できず、また、西壁に歪みはあるものの基本的には隅丸方形と考えられる。規模は南北3.4m以上、東西



第19図　SH04　平・断面図（1/50）

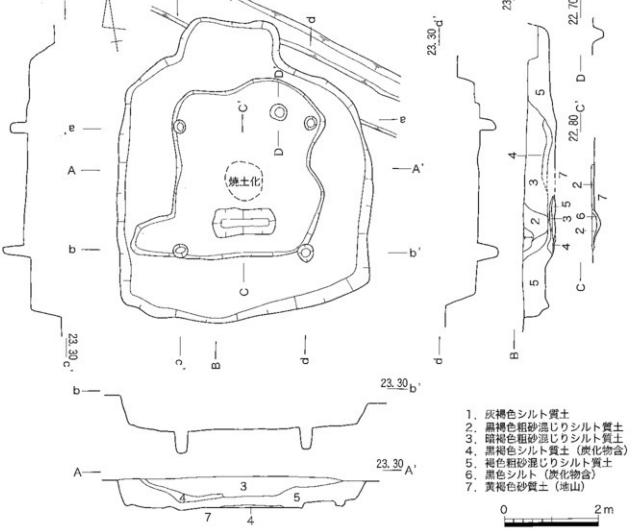


第20図　SH04　出土遺物実測図

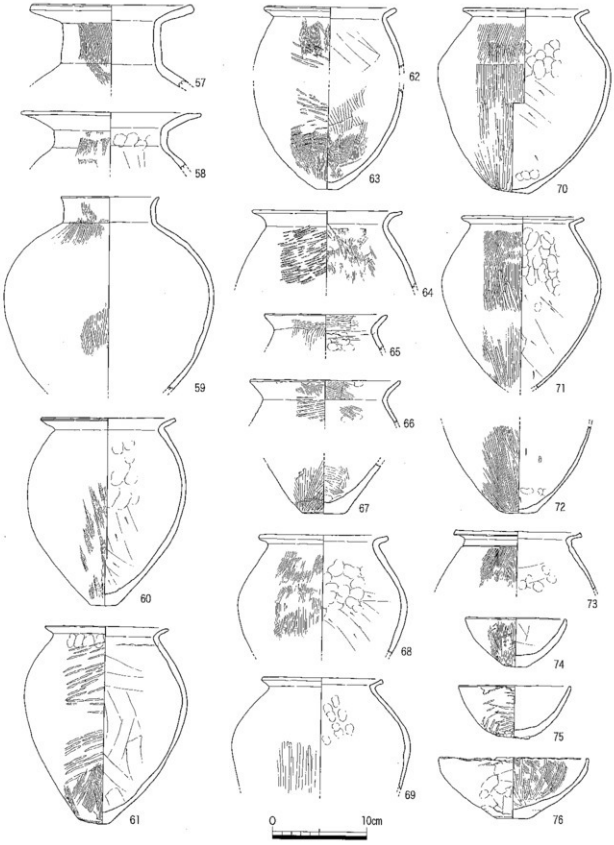
3.8m、検出面からの深さ0.2mを測る。炉跡や柱穴跡は検出できなかった。遺物は土器片が28㌔入コンテナ㌘箱出土した。第20図の52～54は下川津B類土器である。53の底部には丁寧なヘラミガキが認められる。55は高杯脚部、56は製塩土器底部である。

SH05

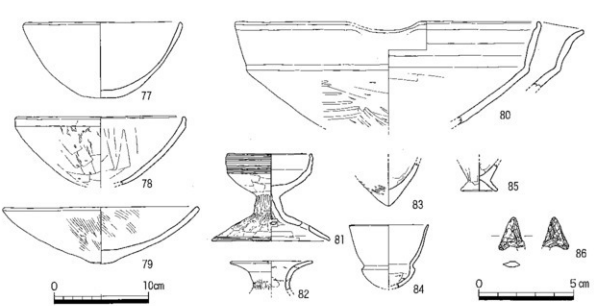
調査区のほぼ中央部で北壁に接するように検出した竪穴住居跡である。平面形は北に突出部を持つ隅丸方形を呈しており、規模は南北5.4m、東西5.4m、突出部幅2.2m、突出長0.8m、検出面からの深さ0.6mを測る。主柱穴は、ほぼ正方形の配置で4基の柱穴で構成されていたと推定できる。住居内の中央部南よりに多量の炭化物を含む隅丸長方形（幅約55、長約135、深20cm）の土坑を検出した。この北側



第21図　SH05　平・断面図（1/80）



第22図　ＳＨ05　出土遺物実測図（1）



第23図　ＳＨ05　出土遺物実測図（2）

の住居中央部にも被熱をうけて赤色化した部分が存在し、土坑を炉跡とするべきか焦土部分を炉跡とするべきか判断できない。四周には地山削り出しのベット状遺構が存在する。

遺物は、28㌔ 入りコンテナ4.5箱分の土器、石器片が出土した。完形に近い状態で出土したものも多い。上層、中層、下層、床面上に分離して遺物の取り上げをおこなっているが、相互に接合できる資料が多いため、第22、23図では一括して図示した。59は直口壺である。マメツしている。60、61の甕はほぼ完形に接合できた。58の壺、70～73の甕、80の片口鉢、85の製塩土器は下川津Ｂ類土器である。68、69の甕は下川津Ｂ類土器に形態が似るが、器壁が厚く胎土も異なる。62と63、71と72は接合できなかったが同一個体と考えられる。74～77は、77がかなり丸底化が進んでいるものの平底の鉢である。75は底部に粘土紐を高台状に貼り付けている。81の高杯は吉備系と考えられる。短脚で屈曲部をもち、四つの円孔があり、杯部外面には横方向のヘラ描き沈線文が施されている。82は小型の壺口縁部、83は底部が尖るやや特異な形態である。内面は板ナデ、外面はタタキ後ナデである。

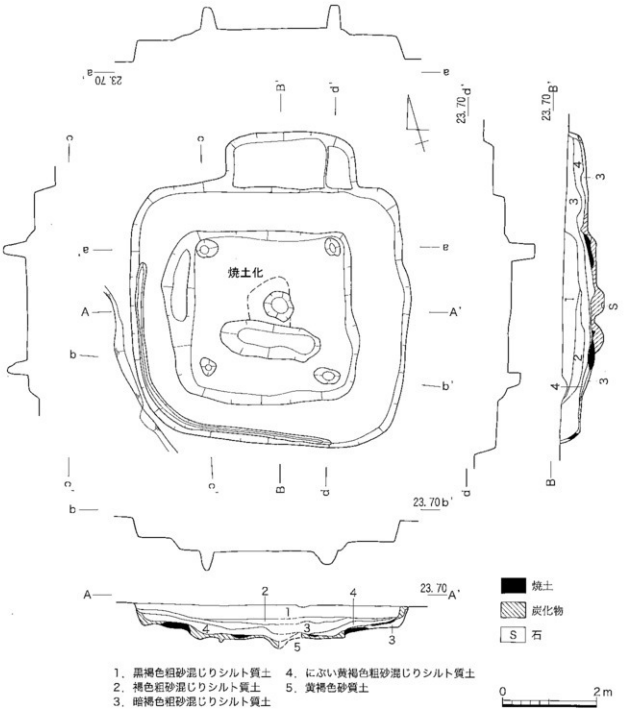
ＳＨ06

東段丘地区のほぼ中央部で調査区西壁に接して検出した竪穴住居跡である。平面形は北に突出部を持つ隅丸方形を呈しており、規模は南北5.6m、東西5.8m、突出部幅2.8m、突出長0.6m、検出面からの深さ0.7mを測る。主柱穴は、ほぼ正方形の配置で４基の柱穴で構成されている。ＳＨ01やＳＨ05と同じく、住居中央部やや南に多量の炭化物を含む隅丸長方形（幅約75、長約210、深約７㎝）の土坑と中央部に被熱により床面が赤色化した部分がみられる。赤色化した床面の下から、石が入った円形の土坑（径約60、深約８㎝）を検出したが、その性格については不明である。四周には地山削り出しによるベット状遺構があり、南壁際から西壁際かけて壁溝（幅10～15、深数㎝）が存在する。ＳＨ06は、床面直上と主柱穴の１つから炭化した木材が出土し、消失した家屋と考えられる。

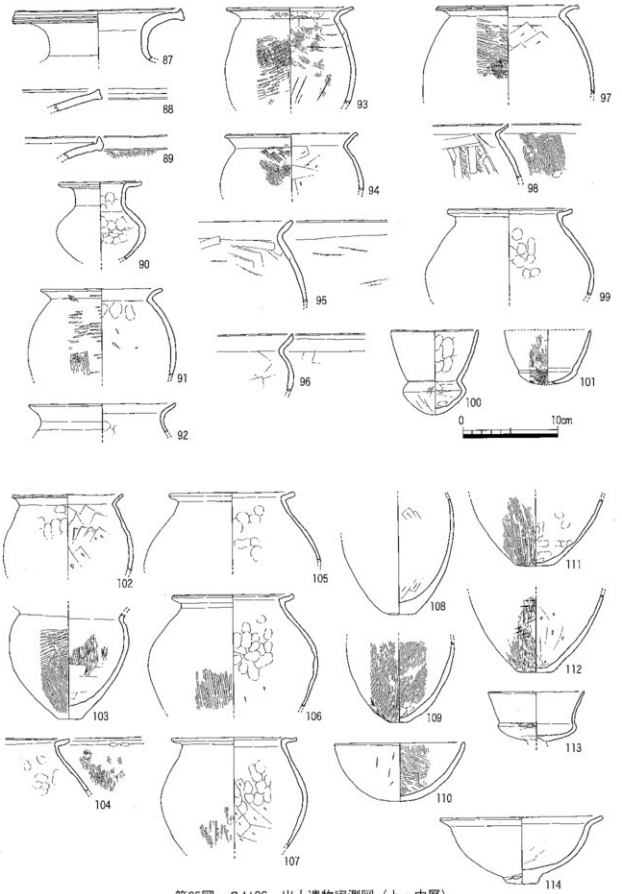
遺物は、埋土中より小型丸底土器をはじめとして、甕・壺・高坏などの土器片が28㌔入りコンテナ６箱分出土した。また、住居跡のほぼ中央部の上層部分に土器が集中した場所があり、住居廃絶後に人為

的に投棄されたものと考えられる。第25、26図では上層出土・中層出土・下層、床面直上および土坑出土遺物に分けて図示した。87～101は上層出土遺物である。88、94、96の３点以外は中央部分の土器溜まりから出土したものである。87の壺の口縁端部には３条の沈線が認められる。88～90の壺、99の甕、101の小型丸底土器は下川津Ｂ類土器である。90は器高９cm ほどの小型のものである。101の小型丸底土器は本遺跡出土のもののなかでは新しい様相を呈する。

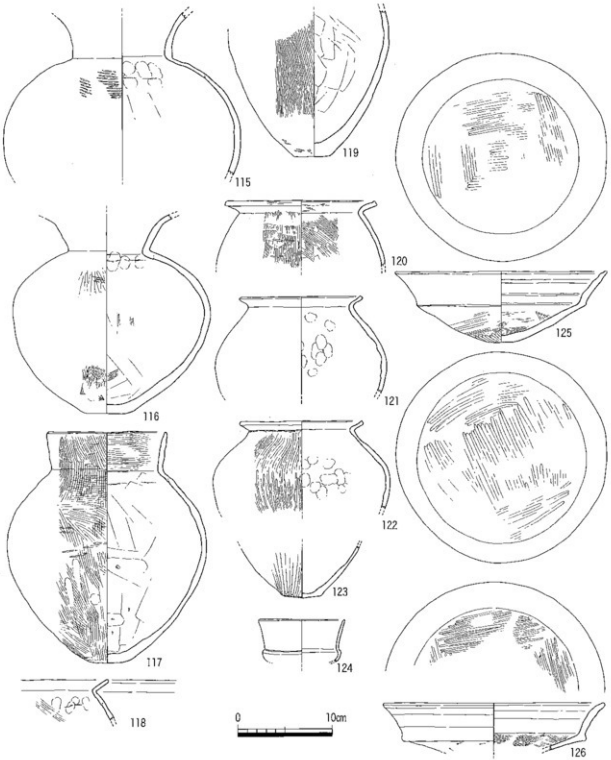
102～114は中層出土の遺物である。104～107の甕、111の底部は下川津Ｂ類土器である。114の鉢は外



第24図　ＳＨ06　平・断面図（1/80）



第25図　ＳＨ06　出土遺物実測図（上・中層）



第26図　ＳＨ06　出土遺物実測図（下層・床面）

反する口縁と突出する底部を有する。

115～126は下層、床面直上および土坑出土の遺物である。115、120、123は中央部の床面が赤色化した部分から、116～118、121、122、124、125は床面直上、126は下層出土のものである。117は直口壺、

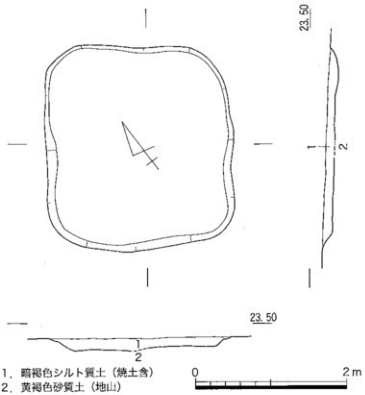
完形に近い状態に復原できた。121は形態は下川津B類土器に似るが、胎土には砂粒を多く含むものである。122の甕、125、126の鉢は下川津B類土器である。125の鉢は内外面に四方向のヘラミガキが施されている。126は内面が四方向のヘラミガキ、外面はヘラケズリが施されている。

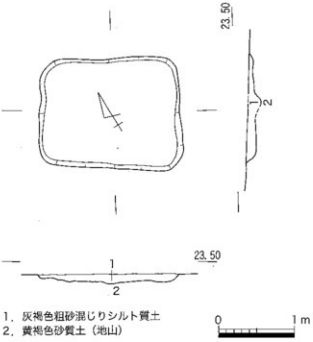
SH07

東段丘地区の西部の中央よりで検出した竪穴住居跡である。平面形は、隅丸方形を呈しており、規模は南北2.7m、東西2.4m、検出面からの深さ0.2mを測り、底面はほぼフラットである。炉跡や柱穴跡は検出されなかった。埋土は焼土塊を含む暗褐色シルト質土で、出土土器片は数点であるが上層から高台のついた碗と推定される土師器小片と須恵器小片（いずれも図化不能）が出土している。混入と考えられる。

SH08

東段丘地区の西壁近くで検出した竪穴住居跡である。平面形は、隅丸方形を呈しており、規模は南北1.5m、東西1.8m、検出面からの深さ0.2mを測り、底面はほぼフラットである。炉跡や柱穴跡は検出されなかった。埋土は焼土塊を含む灰褐色粗砂混じりシルト質土で、土器片少量が出土した。土器片のなかには格子目のタタキをもつ土師質土器片があるが混入と考えられる。

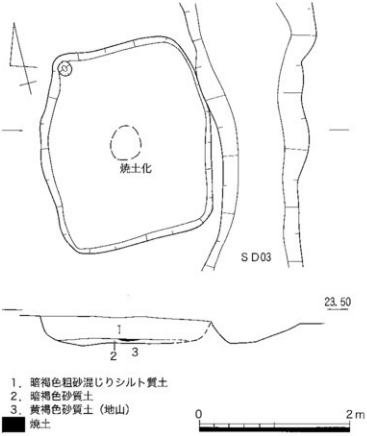




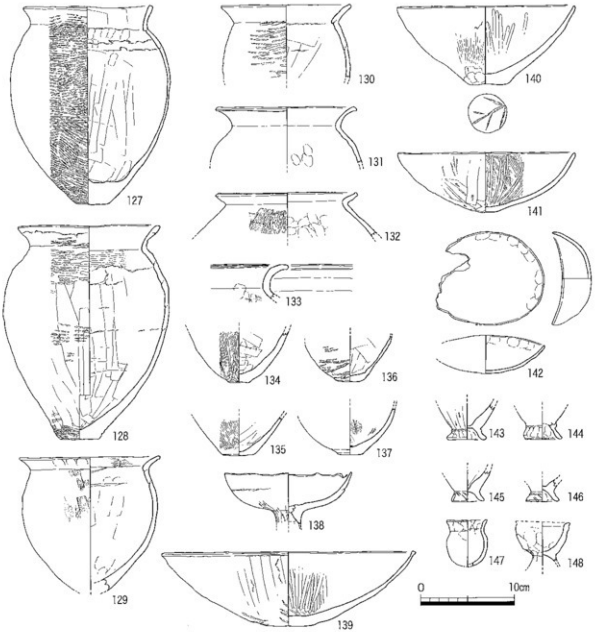
第27図　SH07・08　平・断面図（1/50）

ＳＨ09

東段丘地区のほぼ中央部で検出した竪穴住居跡である。平面形は、やや胴丸であるが基本的には隅丸方形を呈する。規模は南北2.6m、東西2.2m、検出面からの深さ0.3mを測り、床面はほぼフラットである。ただし、東側の中世遺物を包含するＳＤ03によって埋土が変色しており、ＳＤ03との切り合いに関しては明確に把握できていない。したがって、規模についてはやや不正確な要素がある。ほぼ中央部に焼土がみられ、炉の可能性が考えられる。ＳＨ09は暗褐色粗砂混じりシルト質土層の上層と暗褐色砂質土の下層よりなるが、焼土は下層の上面に存在するから暗褐色砂質土層は貼り床である可能性がある。柱穴跡は検出されなかった。遺物は、28㌔入りコンテナ½箱分の土器片が出土した。第29図127～148はＳＨ09出土の遺物実測図である。121、122の甕はほぼ完形で出土した。「く」字甕で、口縁部外面にもタタキの痕跡が認められる。132の甕は下川津Ｂ類土器である。138は高杯の杯部。口縁端部はきわめて薄い形状である。脚部外面はヘラケズリされている。139の鉢は小片のため図の傾きには検討の余地がある。140の鉢の底部には木葉圧痕が認められる。142は異形の土器であるが鉢とした。薄手のつくりで歪んだ形状である。145、146の製塩土器底部外面には板状工具による圧痕が認められる。147、148はミニュチア土器である。



第28図　ＳＨ09　平・断面図（1/50）

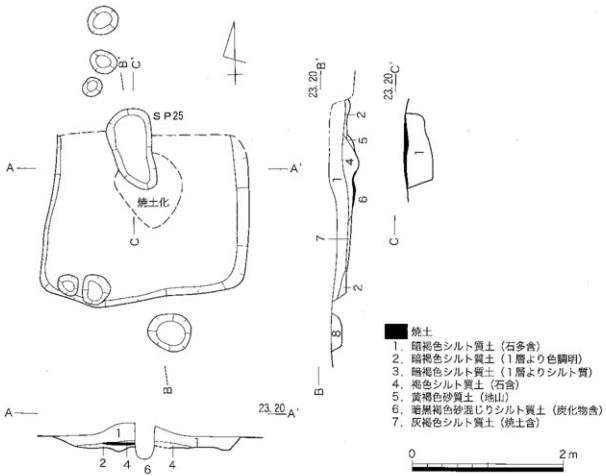


第29図　ＳＨ09　出土遺物実測図

ＳＨ10

東段丘地区の西部の北壁よりで検出した南北2.3m、東西2.5mの方形の落ち込み遺構である。中央部に炭化物や焼土が集中した箇所があり、炉跡ではないかと考えられる。このことより、本来の掘り方は後世の土壌化の進行によって検出できず、竪穴住居跡のベット状遺構の内側を検出したものと推定できる。また、柱穴数基を検出したが、どれがＳＨ10に帰属するのか明確でない。

遺物は、埋土中より完形に近い甕など28㌔入りコンテナ２箱分の土器片が出土した。150、151の「く」字甕は、口縁部内面にハケ調整が認められる。152は上層および底面から出土した破片が完形に近い状態に接合できた。灰白色を呈し、輪状高台を付すもので他地域から搬入されたものと考えられる。

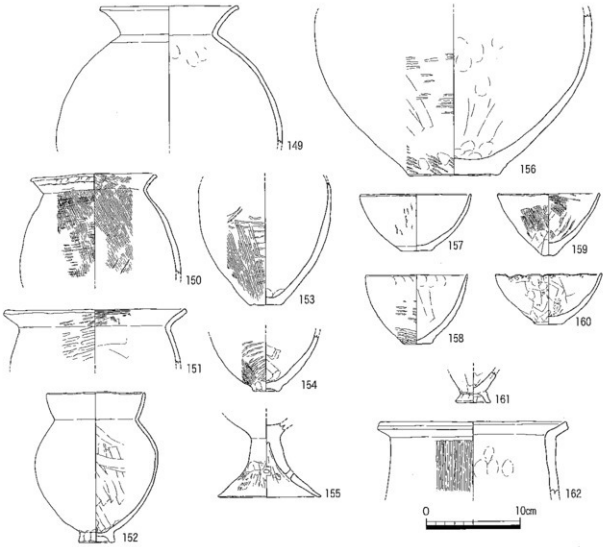


第30図　ＳＨ10　平・断面図（1/50）

157～160の小型の鉢は明瞭な平底をもつ。160の鉢には漆と思われる物質がわずかに付着している。162の土師器甕は奈良時代のものである。混入したものであろう。

これまでに述べた「東段丘地区」の竪穴住居は、床面積30㎡ほどのＳＨ01・05・06と床面積６～８㎡ほどのＳＨ02・03・04・07～09の２者に分けられる。前者は方形で北側に張り出しをもち、ほぼ正方形の４本の主柱穴、南側に長方形もしくは長楕円形の土坑を有するという共通点があり、後者は柱穴などが検出されないなど共通点が多い。また、建物主軸も巨視的には揃っていると考えられ、出土遺物にも大きな時期差は認められないことから同時期のものと考えられる。なお、長方形もしくは長楕円形の内部に炭化物が含まれる土坑と住居中央部の床面に被熱赤変が見られたり炭化物を含むピットが共存する事例は、観音寺市の一の谷遺跡群大12号竪穴住居跡や坂出市の川津一ノ又遺跡Ⅳ区ＳＨ29などでも類型が知られる。しかし、その機能については明確ではない。

(49)　西岡達哉ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第７冊　一の谷遺跡群』1990　香川県教育委員会ほか　古野徳久『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第30冊　川津一ノ又遺跡Ⅱ』1998　香川県教育委員会ほか



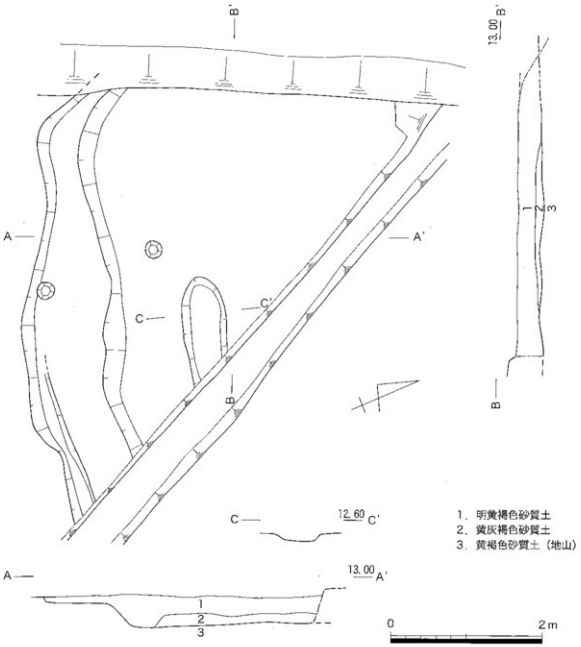
第31図　ＳＨ10　出土遺物実測図

ＳＨ11

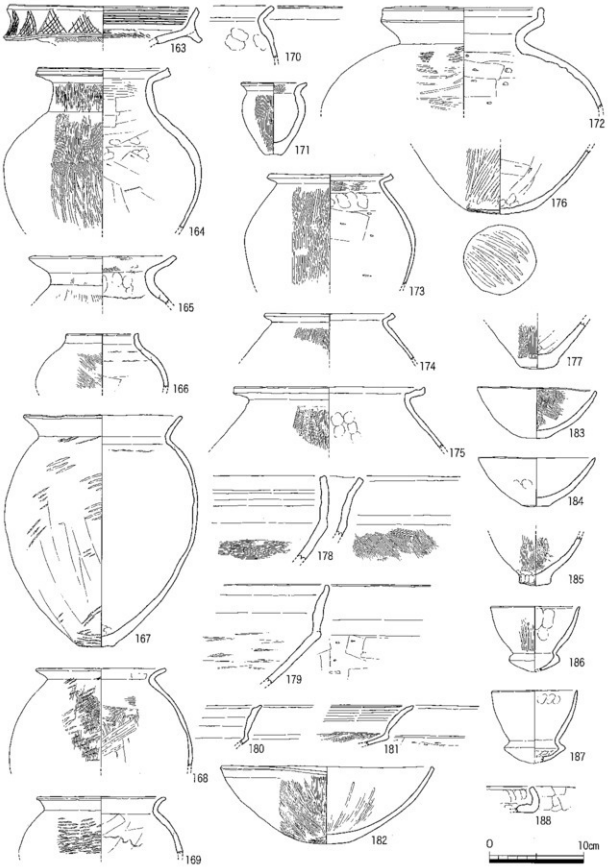
西段丘地区③区で検出した竪穴住居跡である。西側は後世の造成によって削平され、北側は調査区外に延びるため、本来の形状・規模は不明であるが、西南隅の形状から隅丸方形の平面形をなすものと考えられる。地山削り出しのベッド状遺構を有し南辺には壁溝（幅36、深３㎝）が検出された。柱穴は2穴検出したが、柱の配置は不明である。ベッド状遺構内部の南よりに炭化物を多く含む埋土の東西方向に長い土坑（幅58、長120以上、深10㎝）を検出している。炉と考えられる。

28 ⅓ 入りコンテナ２箱分の遺物を検出した。遺物は炉の埋土と住居埋土として取り上げているが、両者間で接合できる事例が多く、取り上げの日付などから検討すると若干の混乱が想定されるため、一括して第33・34図に図示する。163の壺は口縁端部を上下に拡張し、内面に６条のヘラ描き沈線、外面に山形文を施している。164、165の壺は下川津Ｂ類土器である。166の胎土も下川津Ｂ類土器と類似する。171の小型の甕も下川津Ｂ類土器と類似する胎土である。この甕に漆は付着していないが、本遺跡で数多く出土した漆付着土器と類似する大きさ・形態のものである。容量は93ccである。172は、体部

から「く」の字形に屈曲し口縁部が上方に立ち上がる吉備系の甕である。内面はくびれ部以下までヘラケズリをしている。173は典型的な下川津B類土器の胎土は若干異なり金雲母を多く含むもの。174、175の甕、178、179の大型の鉢、180、181の高杯か鉢、187の小型丸底土器、188のミニチュアは下川津B類土器である。182の鉢の胎土も下川津B類土器に類似する。ほぼ丸底のものである。190は凹み石とした。一面に敲打痕が認められる。



第32図　ＳＨ11　平・断面図（1/50）

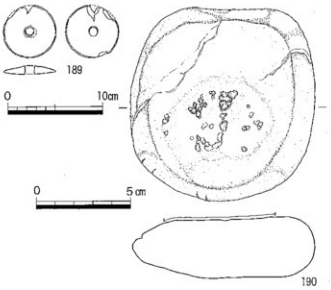


第33図　ＳＨ11　出土遺物実測図（1）

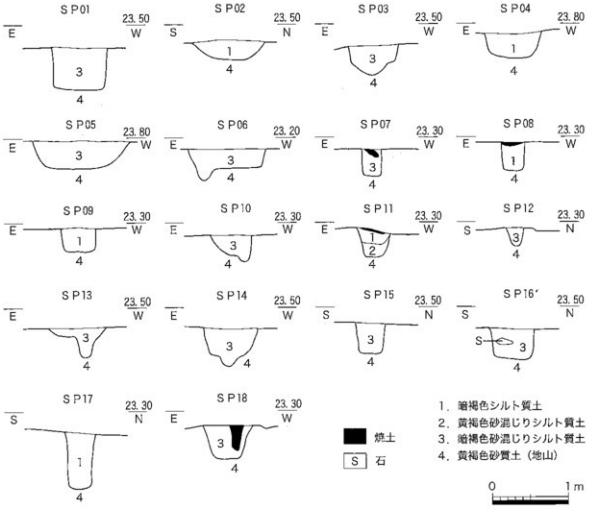
ＳＰ

東段丘地区では竪穴住居跡のほかに多くの柱穴を検出した。第34図はＳＰ出土のもので、191～193はＳＰ02出土、194はＳＰ25出土のものである。192は下川津Ｂ類土器である。このほかＳＰ06、08、10、13、17、18、19、20、21、22、23、24から図化不能であるが弥生土器片が出土している。

西段丘地区で検出された柱穴のうちには、ＳＨ11と同一埋土をもつものがあり、弥生時代に属するものがある可能性が高いが、遺物が検出されていないため詳細不明である。



第34図　ＳＨ11　出土遺物実測図（2）



第35図　東段丘地区　ＳＰ　断面図（1/50）

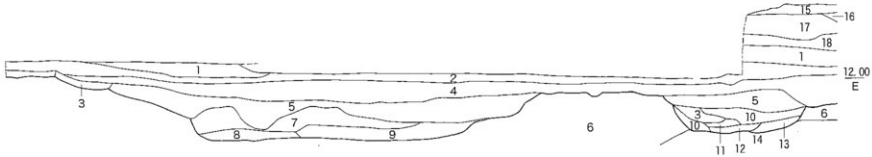
第36図　東段丘地区　ＳＰ　出土遺物実測図

ＳＲ01（平成９年度調査）

東谷地区の西段丘地区よりで検出した旧河道である。河幅約3.2～7.0m、深さ約0.9～1.1mを測る。東側は後世に大規模な開折をうけている。埋土はシルトや細砂のラミナを挟在する粗砂を主体とし、巨視的には短期間で埋没し、上層が黒色を呈することから埋没後しばらく湿地状の環境にあったものと考えられる。この埋土中に散在するような状況で多量の弥生時代後期の土器片が包含されており、出土量は平成8年度調査時が28箱入りコンテナ41箱、平成９年度調査時には40箱である。平成８年度調査時には一括して土器の取り上げをおこなったが、平成９年度調査時には大きく５層に分けて遺物を取り上げており、平成９年度調査の資料を先に掲載する。第39～45図は平成９年度調査によるＳＲ01出土の遺物実測図である。上層、下層に区分して図示しているが、第６表に示す１～３層を上層、４～６層を下層と便宜的に分類したもので、層相など層を分ける根拠があるわけではない。それぞれの遺物の出土層位は第６表に示すとおりである（複数層にまたがる場合は各層に番号を記し、上下層に出土層がまたがる場合は上層にレイアウトしている。下層にレイアウトしているが上層出土のものである）。

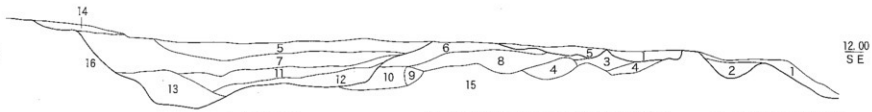
第39～40図は上層出土の遺物である。195～210は壺である。196の壺頸部には刺突文が認められるが、途中で途切れ連続しない。200は口縁端部を上方に摘み上げ、外面に波状文と山形文を描いている。202～206は下川津Ｂ類土器である。207と208の細頸壺は接合できないが同一個体と考えられる。209は類例に乏しいが、複合口縁の壺とした。口縁部外面に稚拙な線刻がある。210の直口壺は口縁部内外面に絞り目が認められる。211～226は甕である。211、212は接合できないが同一個体である。219は下川津Ｂ類土器の模倣形態の甕、220～222は下川津Ｂ類土器である。227の底部は粘土紐を板状工具で押圧した後にナデ、指オサエで脚台を付している。229～231は高杯脚部、232、233は漆の付着する甕である。234～236の高杯か鉢、244の小型丸底土器、252～254の製塩土器は下川津Ｂ類土器、241、242は漆の付着する鉢である。243の鉢は高台状の底部をもち、口縁の外反する形態である。247～254の製塩土器の体部外面はすべてヘラケズリか板ナデ調整である。255は製塩土器底部と考えた。256は最も上層の赤褐色砂質土から出土した土師質土器杯である。混入であろう。

第41～44図は下層出土の遺物実測図である。257、262の壺の口縁端部には3条の沈線が施されている。263～267は下川津Ｂ類土器である。263、265は口縁端部に、267は頸部に２条の沈線が施されている。268の細頸壺の頸部は直線的な形状を呈する。269、270は漆の付着する壺である。272～274の甕はほぼ完形で出土した。273の体部には線刻による文様が描かれているが、何を意匠したものか不明である。274は2種類のハケを使い分けている。280もほぼ完形で出土した。283～285は下川津Ｂ類土器を模倣したもので、286は下川津Ｂ類土器である。ほぼ完形で出土した。289の土器底部には底部のやや上方が穿孔されている。290～292は甑である。293～298、304は高杯である。293、294は同一個体と考えられる。278～304は下川津Ｂ類土器である。298には２孔一対の穿孔が合計６孔認められる。299～303は302が鉢



断面　A

1．うすい褐灰色粗砂
2．黒灰色シルト（粗砂混じり）
3．赤褐色粗砂
4．黒色シルト（粗砂混じり）
5．黒灰色細砂（粗砂混じり）
6．赤褐色細砂（粗砂混じり）
7．黄褐色粗砂（拳大石含）
8．灰黒色粗砂
9．黄灰色粗砂（細砂混じり）
10．黒灰色シルト質土
11．灰黒色細砂
12．灰黒色シルト
13．黒灰色細砂
14．灰褐色細砂
15．耕作土
16．花崗土
17．うすい褐灰色シルト質土（石多含）
18．赤褐色シルト質土

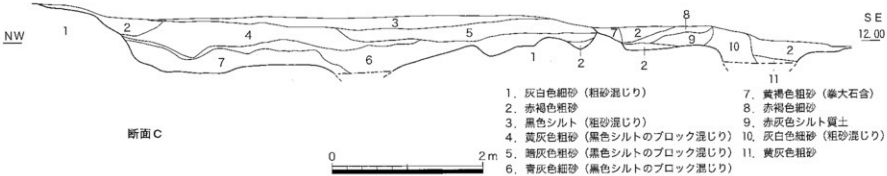


断面　B

1．灰褐色細砂
2．褐灰色粗砂
3．褐灰色細砂（粗砂混じり）
4．灰白色細砂（粗砂混じり）
5．黒色シルト（粗砂混じり）
6．灰白色細砂
7．暗青灰色粗砂（黒色シルトのブロック混じり）
8．赤褐色細砂（黒色シルトのブロック混じり）
9．赤褐色細砂
10．灰白色細砂
11．黄灰色粗砂
12．青灰色細砂（黒色シルトのブロック混じり）
13．黄褐色粗砂（拳大石含）
14．赤褐色粗砂
15．赤褐色粗砂
16．黒色粘質土

0　2m

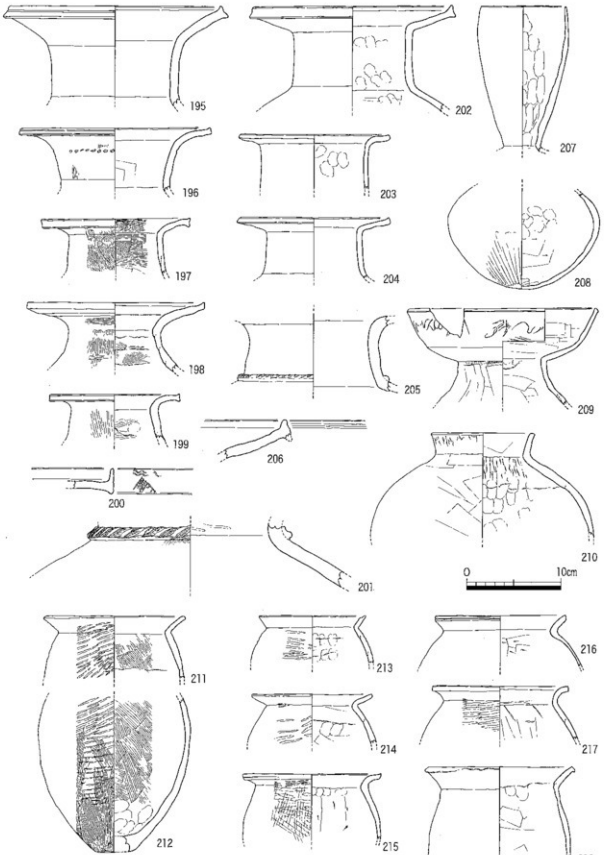
第37図　ＳＲ01　断面（1）（1/50）



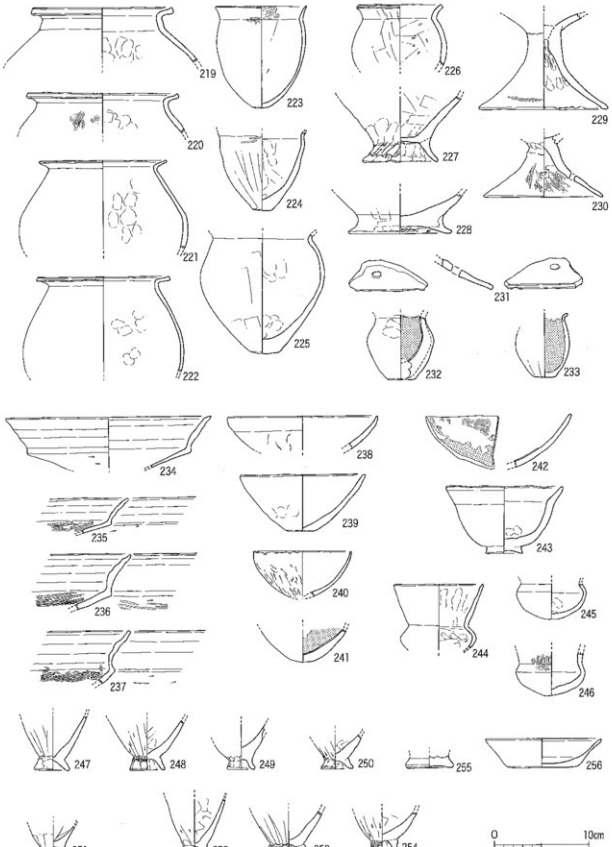
第38図　ＳＲ01　断面（2）（1/50）

	断面A	断面B	断面C	出土遺物
1	赤褐色粗砂			206、211、212、246、252、255、256
2	黒色シルト（粗砂混じり）	黒色シルト（粗砂混じり）	黒色シルト（粗砂混じり）	205、211、212、224、243、253
3	暗青灰色粗砂（黒色シルトのブロック混じり）	暗青灰色粗砂（黒色シルトのブロック混じり）	黒灰色細砂（粗砂混じり）	195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、207、208、209、210、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、225、226、227、228、229、230、231、212、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、244、245、247、247、249、250、251、254、259、261
4	黄灰色粗砂（黒色シルトのブロック混じり）	黄灰色粗砂	黄褐色粗砂（拳大石混じり）	201、261、265、267、269、273、278、282、289、291、293、294、295、296、302、308、309、313、314、316、323、324、326、327、331
5	青灰色細砂（黒色シルトのブロック混じり）	青灰色細砂（黒色シルトのブロック混じり）		195、265、268、276、277、284、301、304、319
6	黄褐色粗砂	黄褐色粗砂	黄灰色粗砂（灰黒色細砂混じり）	202、223、257、258、260、261、262、263、264、266、271、272、273、274、275、279、280、281、283、285、286、287、288、290、292、297、298、299、300、303、305、306、307、310、311、312、315、317、318、320、321、322、325、328、329、330
7			灰黒色粗砂	
	出土層位不明			328、332、333、334、335、336、337

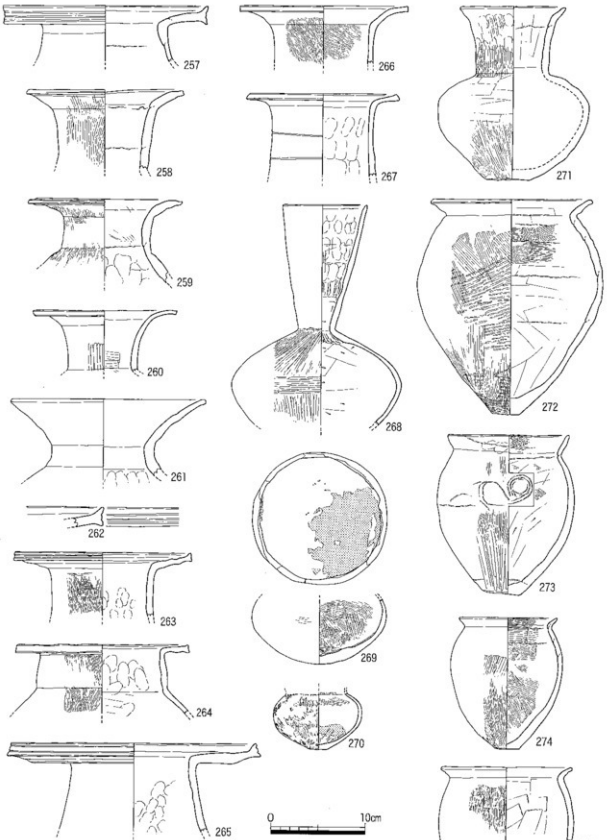
第6表　ＳＲ01層位対照表および遺物出土層位



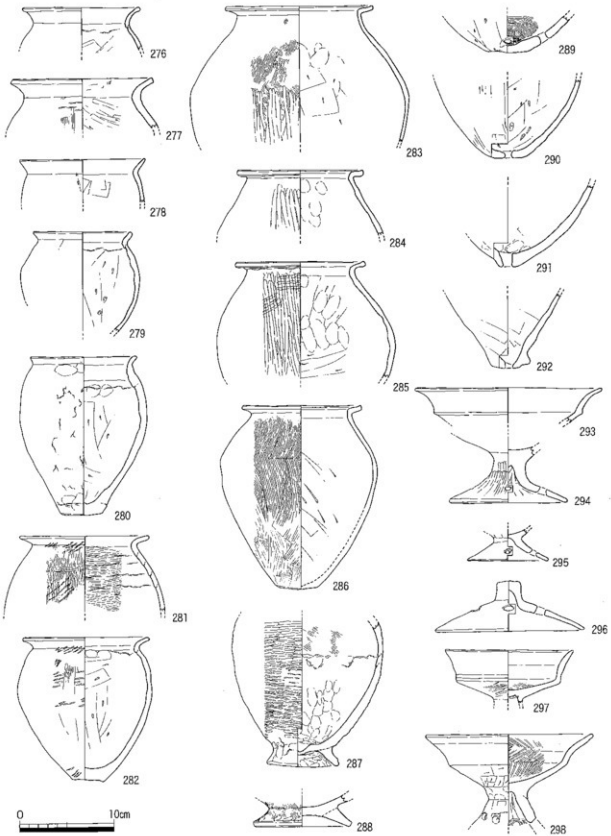
第39図　ＳＲ01　出土遺物実測図（2）（上層）



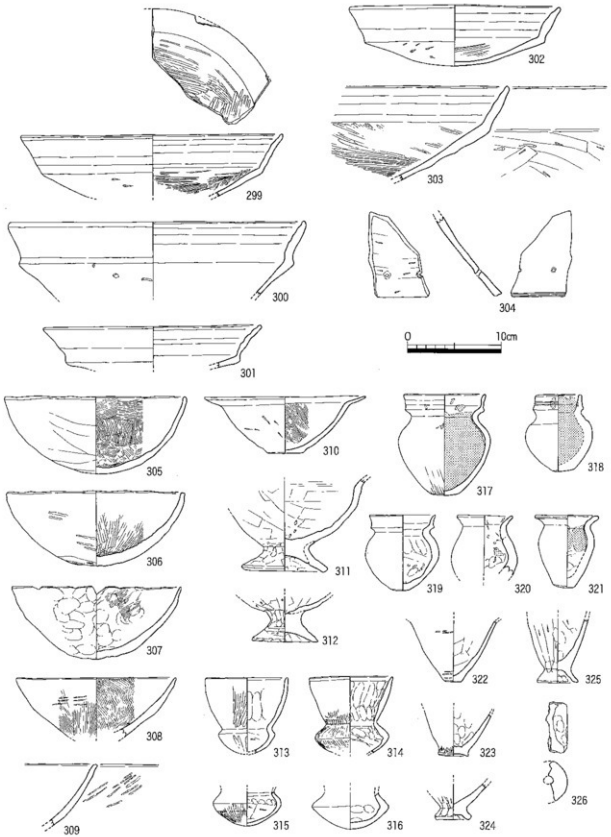
第40図　ＳＲ01　出土遺物実測図（3）（上層）



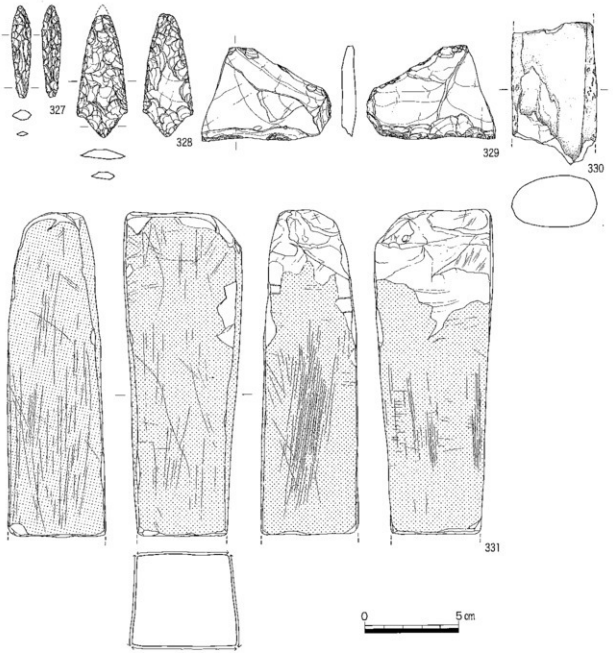
第41図　ＳＲ01　出土遺物実測図（4）（下層）



第42図　ＳＲ01　出土遺物実測図（5）（下層）



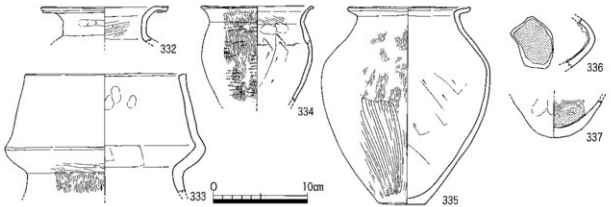
第43図　ＳＲ01　出土遺物実測図（6）（下層）



第44図　ＳＲ01　出土遺物実測図（7）（下層）

であるほかは高杯か鉢か断定できない。305、306の鉢は丸底、ほぼ完形で出土した。307もほぼ丸底のものである。310、313～316は下川津Ｂ類土器、317～321は漆の付着する甕、326は管状土錘である。327～329の石材はサヌカイト、327は石鏃、328は有舌尖頭器である。328は磨滅している。329はスクレイパー、330は緑泥片岩製の太型蛤刃石斧とした。331は砥石である。４面に擦痕が認められる。

第45図332～337は出土層位不明のＳＲ01出土遺物である。333の内傾する二次口縁部を有する壺は下川津Ｂ類土器である。328は形態は下川津Ｂ類土器に類似するが胎土は異なるものである。336、337は漆の付着する土器片である。336は壺の体部と考えられる。



第45図　ＳＲ01　出土遺物実測図（8）

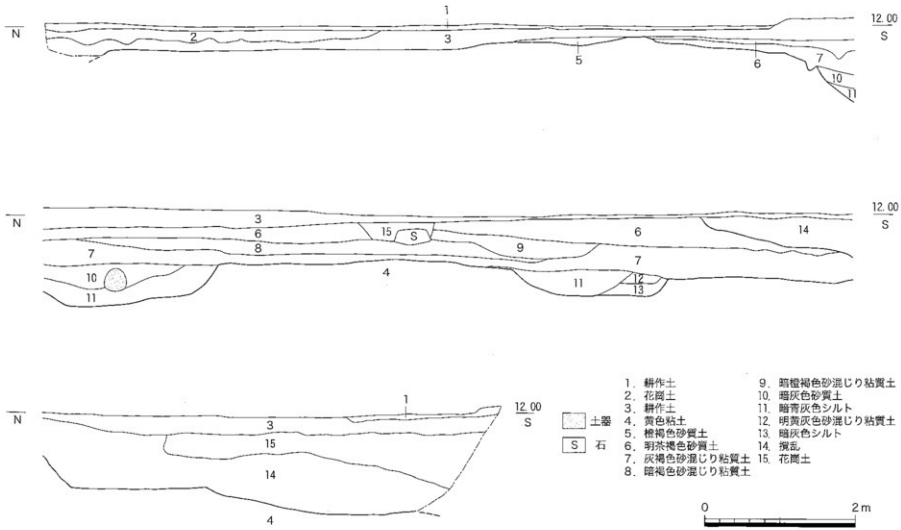
ＳＲ01（平成８年度調査）

第46図は、平成８年度に調査されたＳＲ01北壁の断面図である。堆積層の色調や粒度などの記載は平成９年度調査の記録とは異なるが、断面写真を比較すると、ほぼ同一の堆積状況であると判断され、両者は同一の河道である。平成８年度調査では遺物を一括して取り上げているので、第47～54図に実測図を掲げる。

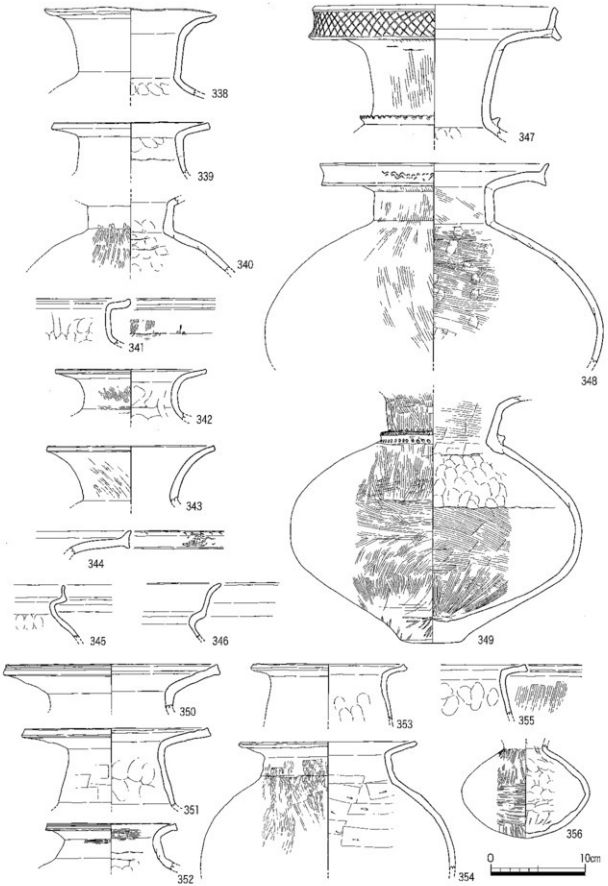
338～362は壺である。このうち350～355、357～361は下川津Ｂ類土器である。344は不明瞭であるが口縁端部に波状文が施されている。347の壺口縁部は上下に拡張し、外面に斜格子文を描く。また、頸部と体部境界に刻み目突帯を貼り付ける。348の口縁部外面には複線波状文が描かれている。349の頸部と体部の境界には上下に列点文を配した刻み目突帯を貼り付けている。345、363～398は甕である。365、368、372はほぼ完形に近い状態で出土した。378、379は粗雑な造りのもので厚い底部を有する。381は下川津Ｂ類土器を模倣したもの、388、389は口縁端部を上方に摘み上げ、やや特異な形態を有する。390は下川津Ｂ類土器を模倣したもの、391～398は下川津Ｂ類土器である。399～402の底部には木葉圧痕が認められる。403～405は甑。405は２孔の穿孔がなされている。407～420は高杯である。408～412の杯部のみの破片の場合、下川津Ｂ類土器では高杯なのか鉢なのか判断できない場合が多いが、下川津Ｂ類土器でない場合は高杯とした。ただし411、412は下川津Ｂ類模倣形態の可能性がある。409には赤色顔料が付着している。417～428は下川津Ｂ類土器である。417は杯部と脚部が円盤充填されている。419の脚部には２孔一対の穿孔がある。423の鉢は下川津Ｂ類土器の胎土と思われるが２mm近い砂粒を多く含んでいる。426～428の鉢は口縁部が大きく外反する形態である。

429～436は明瞭な平底をもつ鉢、437～440の鉢は不明瞭ながら平底をもつもの、441～449はほぼ丸底の鉢である。このうち433、434、445は、内面をハケ調整した後に口縁部をヨコナデして整形するものが多いなかで、口縁部を整形した後に内面をハケ調整している。453～461は小型丸底土器である。このうち453～457は下川津Ｂ類胎土である。462～472は製塩土器。このうち462～469は下川津Ｂ類胎土である。472は外面にタタキ目を有するもので、ヘラケズリされたものが多数を占める本遺跡出土の製塩土器のなかでは新しい様相をもつ。

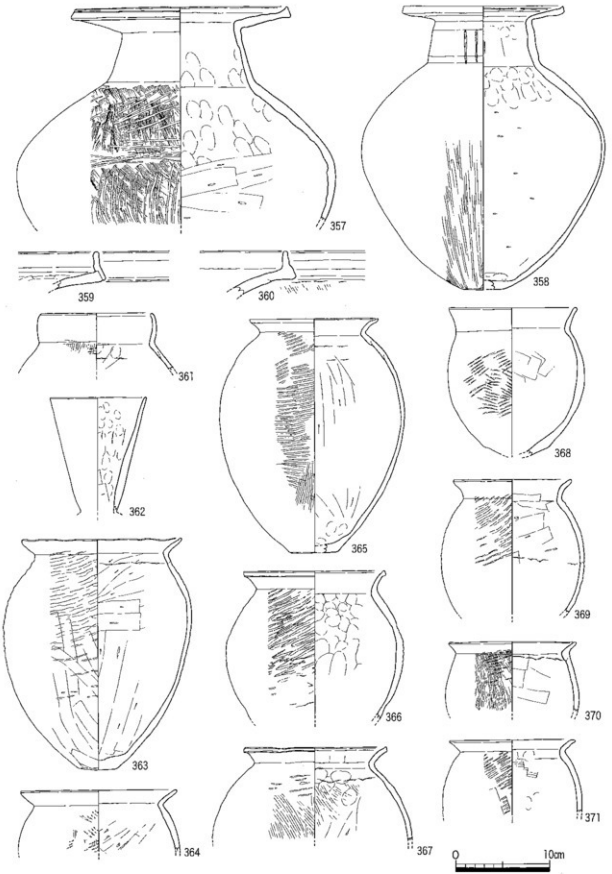
473～475はミニチュアである。475は器種不明である。476も器種不明で図の天地も不明であるが、外



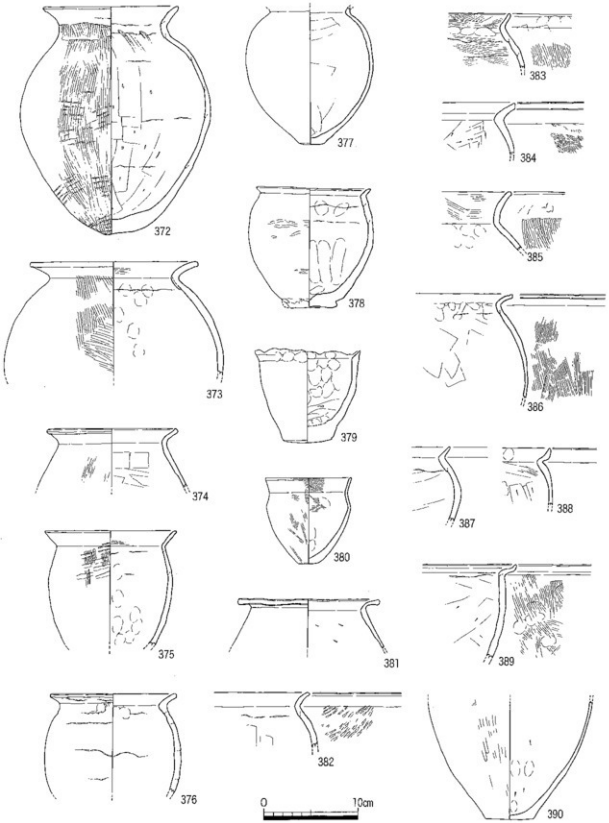
第46図　ＳＲ01　断面（3）（1/50）



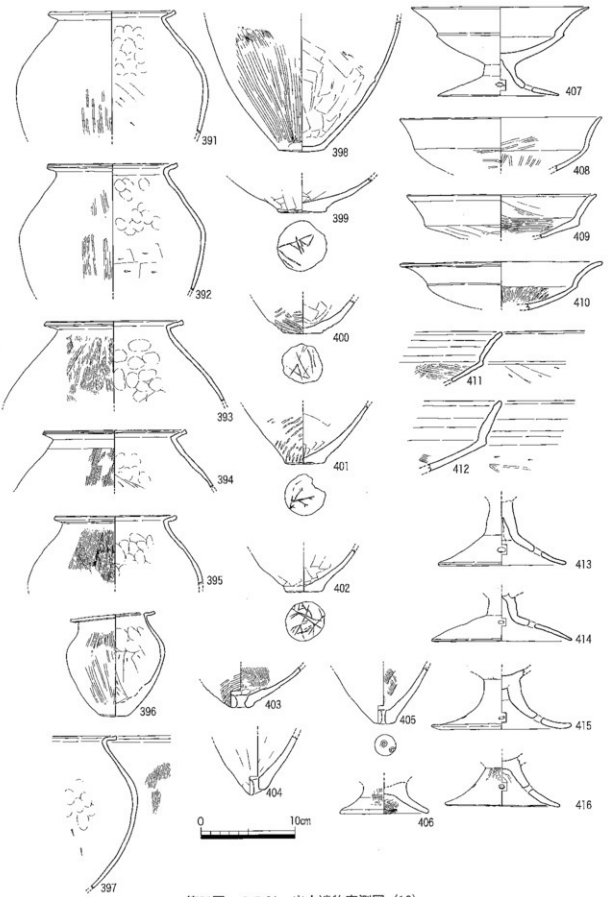
第47図　ＳＲ01　出土遺物実測図（9）



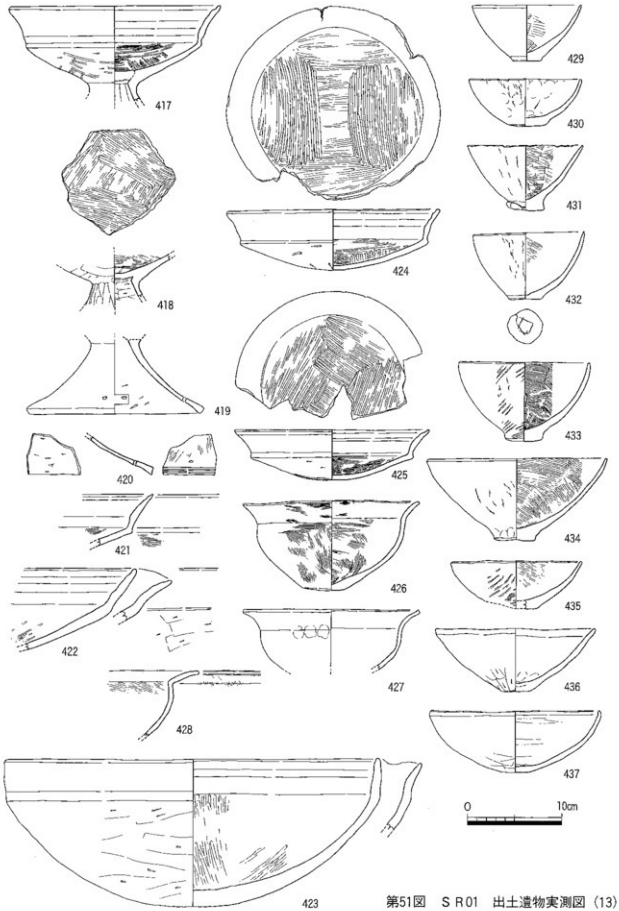
第48図　ＳＲ01　出土遺物実測図（10）



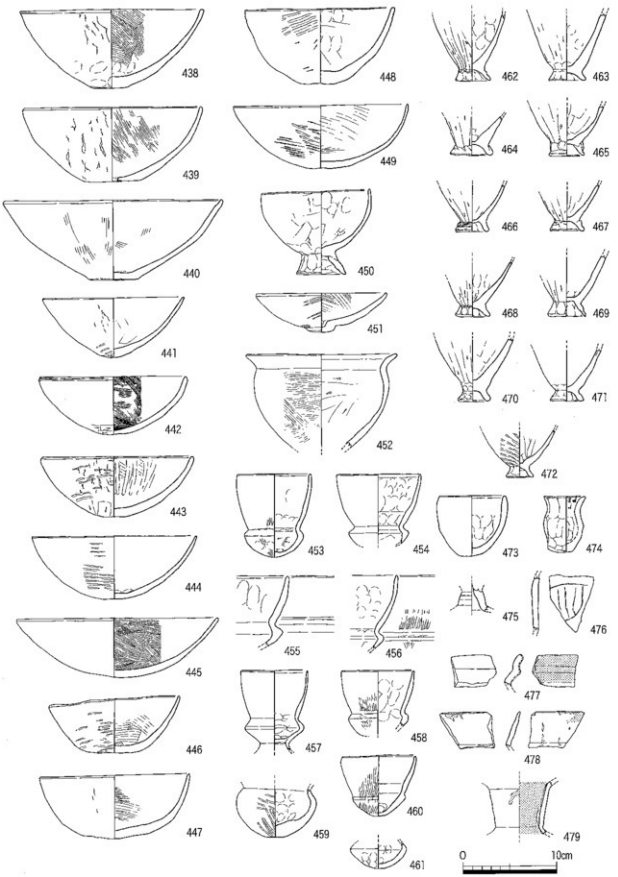
第49図　ＳＲ01　出土遺物実測図（11）



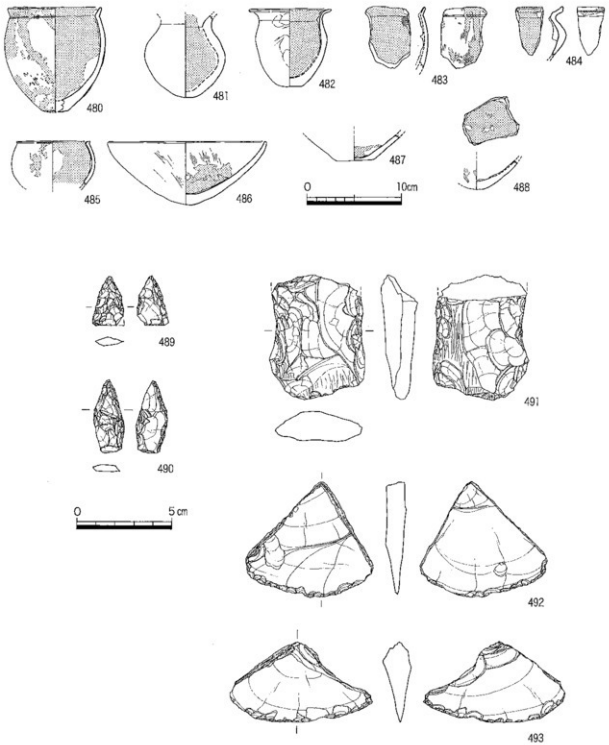
第50図　ＳＲ01　出土遺物実測図（12）



第51図　ＳＲ01　出土遺物実測図（13）



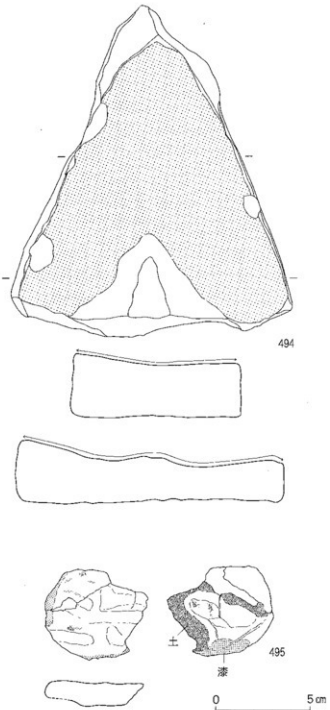
第52図　ＳＲ01　出土遺物実測図（14）



第53図　ＳＲ01　出土遺物実測図（15）

面に線刻が認められる。477～488は漆の付着するものである。477は外面に漆状のものを塗布している可能性がある壺の口縁部である。本遺跡出土の漆付着土器は、漆製品を生産する用具の性格を持つと思われるが、これが漆であるとすれば唯一の製品となる。480と483は接合できないが同一個体である可能性がある。489、490はサヌカイト製の石鏃、490は細部調整が不十分なため未製品である可能性がある。491は打製石斧。使用痕が認められる。492、493はスクレイパーとした。494は砥石である。一面が窪むほど磨滅している。

また、ＳＲ01埋土から繊維製品が出土している。これは土器の水洗い中に見出されたもので出土層位や出土状況は不明である。495は繊維製品の略測図で、繊維の織り目の方向などは図化していない。側縁に漆が付着し、一部には土がこびりついている。繊維の同定については調査中である。



第54図　ＳＲ01　出土遺物実測図（16）

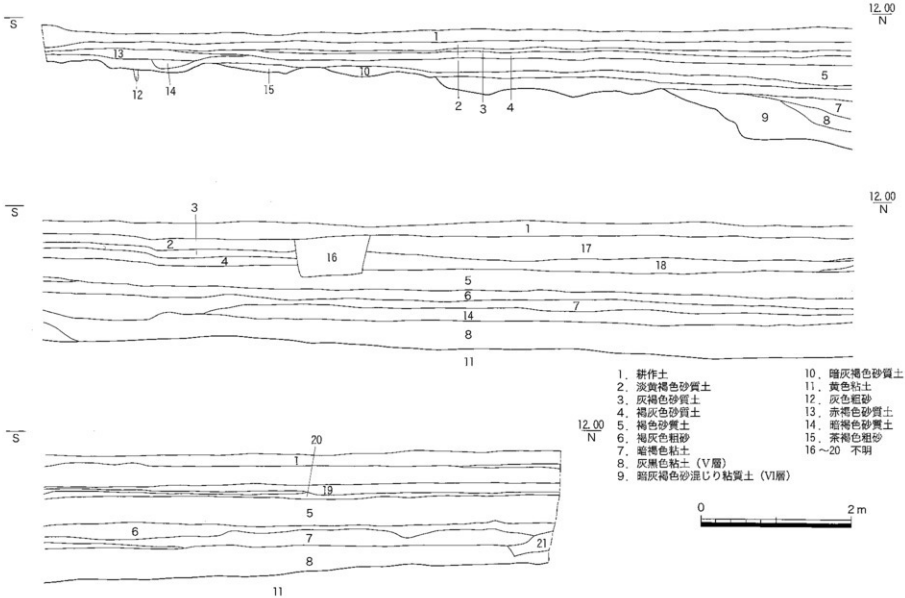
ＳＲ02

西谷地区で検出した旧河道である。西側の岸が調査区外になるため河川の規模は不明であるが、幅17m以上、深さ約0.9～1.0mを測る。ＳＲ02は、東谷地区のＳＲ01が拳大の礫が混じったり、粗砂を中心とする堆積物で埋没していたのに対し、最下層は粘土層を中心とする細粒堆積物で埋没し、堆積層も水平に堆積している。ＳＲ01に対し静穏な環境のもとで埋没していたことが伺われる。この河川の東側斜面に多量の弥生時代後期の土器片が堆積していた。出土量は28㎥入りコンテナ31箱である。また、第55図第８層（Ⅴ層）は、多量の土器片が包含されていた堆積層を開折して形成された層であるが、調査時の所見ではこの層には古代～弥生時代の遺物が包含されていた。(整理調査時には第Ⅴ層出土土器中に古代の土器は見出されなかったが、調査担当者の記憶ではトレンチ出土の墨書土器（677）が本層出土のものとのことである。)

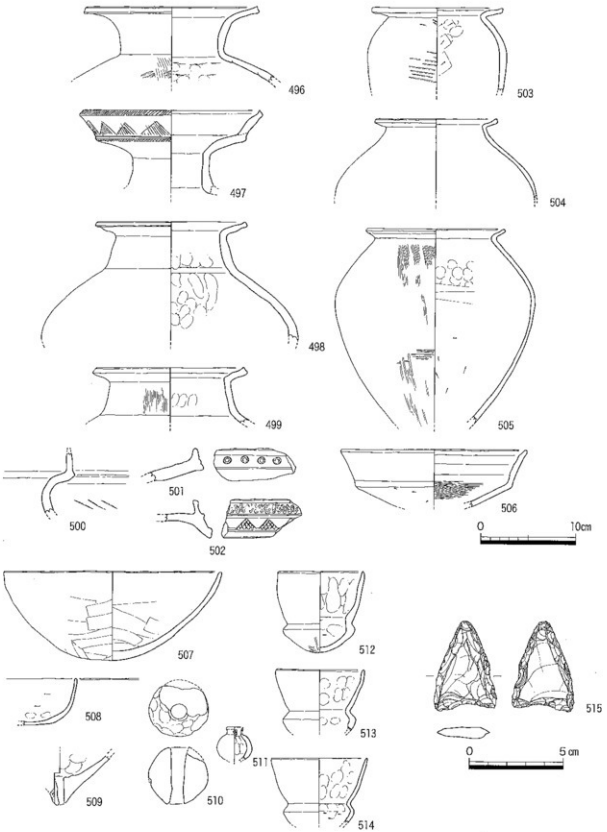
河川東側斜面で検出された弥生時代後期の土器は、詳細に観察すると東側斜面からズリ落ちるように堆積しており、土器片の重なりも斜面に平行するように重なっている。従って南からの水流の影響をほとんど受けておらず、東側の岸から投棄された状態で検出されたものと考えられる。なお、河底に幅約1.2m、深約0.2mの小流が、東側河岸に幅0.5m、深さ不明の溝状遺構があるが、埋土や遺物の包含の状況については記録がないため不明である。

第56図はⅤ層出土の遺物実測図である。497の壺は二次口縁部に刻み目、山形文が施されている。498～502は下川津Ｂ類土器である。501は口縁端部を上方に拡張し竹管文、502は口縁端部を上下に拡張し、櫛描きの波状文と山形文を描いている。504の甕は下川津Ｂ類を模倣したもの、505の甕、506の高杯か鉢は下川津Ｂ類土器である。507の鉢は丸底のもので内外面を板ナデしている。509は甑、510は土錘、511は土鈴とした。512～514の小型丸底土器は下川津Ｂ類土器である。

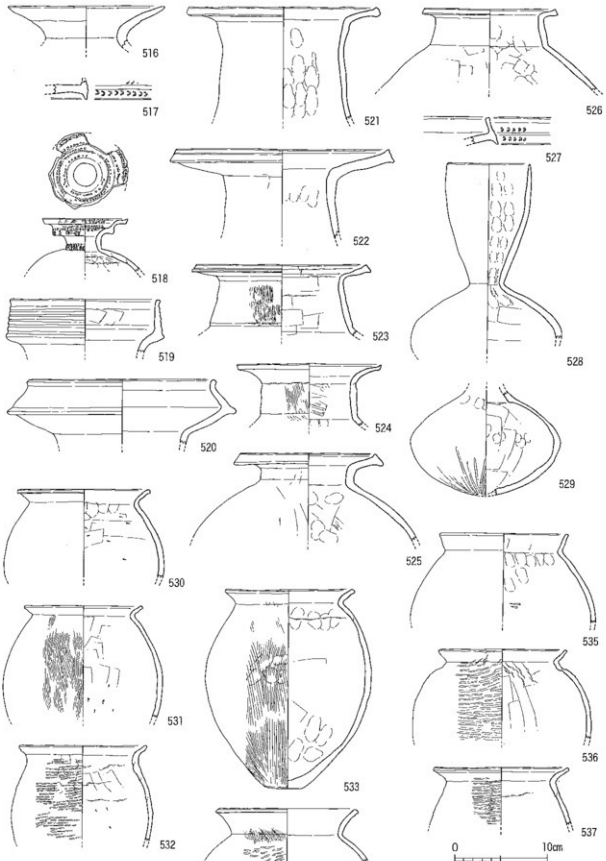
第57～61図はⅥ層出土の遺物実測図である。516～529は壺、このうち521～529は下川津Ｂ類土器である。517は口縁端部を上下に拡張し半裁竹管文を施す。518は竹管文、半裁竹管文、山形文、波状文などで加飾したものである。519の二重口縁壺は外面に凹線文が６条施される。520は西部瀬戸内系の二重口縁壺である。マメツしている。521はやや長い頸部であることから、ＳＲ02出土遺物の中では古い様相を呈すると思われる。527は口縁端部を上下に拡張し半裁竹管文を施文している。530～560は甕である。540は口縁端部を上下に拡張し３条の沈線が見られる。546～548、570は下川津Ｂ類模倣形態、549～560、571、572は下川津Ｂ類土器である。541は口縁部外面のみハケ調整が見られ、体部外面はタタキの後ナデている。544は突出する底部をもつもので、内面をハケ調整している。575、576の底部には木葉圧痕が認められる。577～582は高杯、583～599は鉢もしくは高杯である。このうち578～595は下川津Ｂ類土器である。596～599は下川津Ｂ類模倣形態と考えられる。579と582の高杯の杯部には２個１単位の穿孔が見られる。593～595は鉢であることが明確であるが、口縁部の破片のみが出土すると鉢か高杯か判断できない。600～611の鉢は平底のものと丸底のものがある。607～611の鉢は口縁部が内側に湾曲し鉄鉢状の形状を呈する。本遺跡の当該期の遺物を通観するとＳＲ02以外では認められない。613は鉢と考えたが小片のため傾きは不明確である。614、615は漆の付着する土器である。615は内面に凹凸が見られることから鉢ではなく壺か甕であろう。616～621は小型丸底土器で、616～619は下川津Ｂ類土器である。622～626は製塩土器で、622～625は下川津Ｂ類土器である。



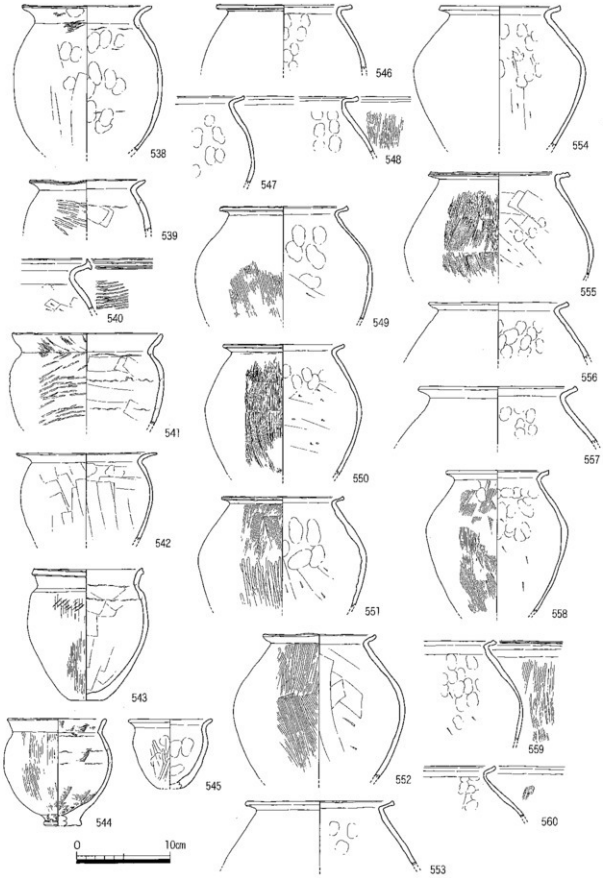
第55図　ＳＲ02　断面（1/50）



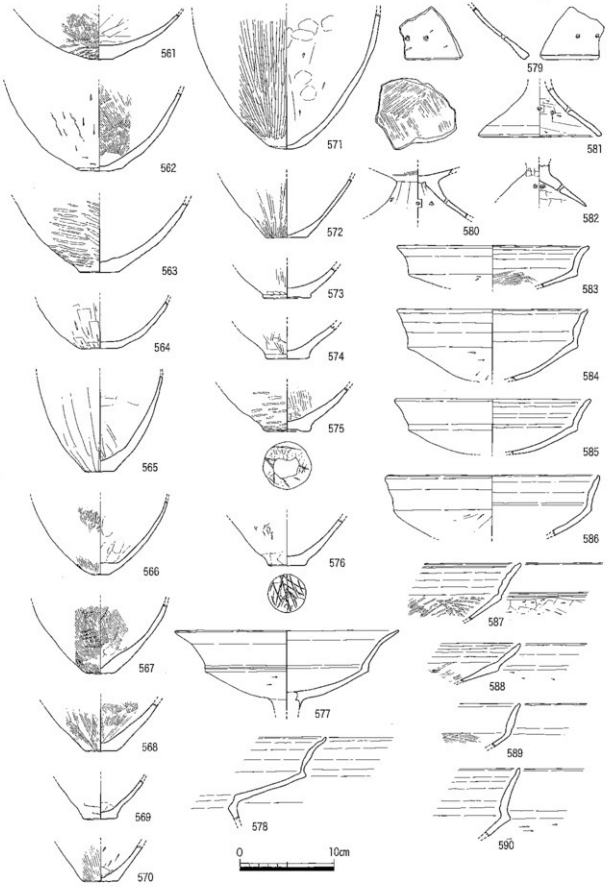
第56図　ＳＲ02　出土遺物実測図（1）（Ⅴ層）



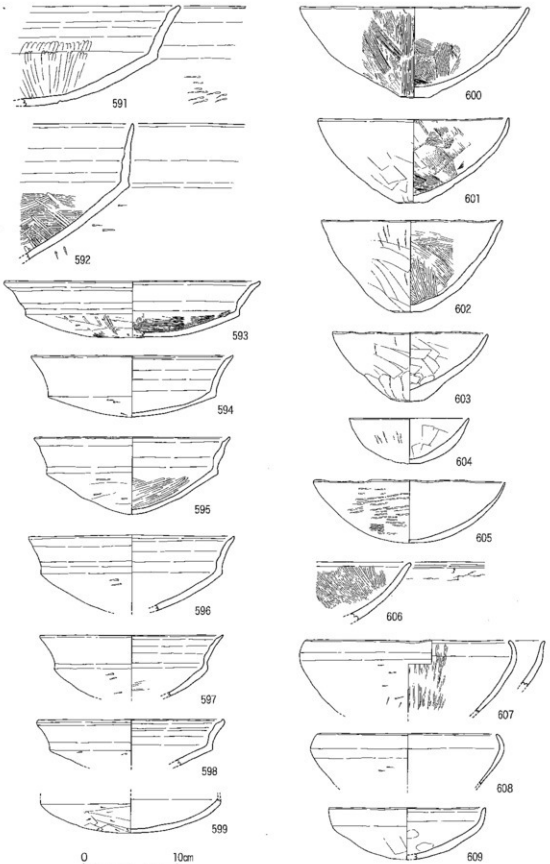
第57図　ＳＲ02　出土遺物実測図（2）（Ⅵ層）



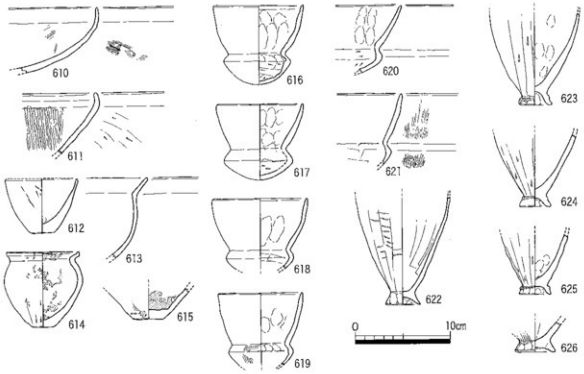
第58図　ＳＲ02　出土遺物実測図（3）（Ⅵ層）



第59図　ＳＲ02　出土遺物実測図（4）（Ⅵ層）



第60図　ＳＲ02　出土遺物実測図（5）（Ⅵ層）



第61図　ＳＲ02　出土遺物実測図（6）（Ⅵ層）

古　代

東段丘地区で土坑１基を検出したほか、西谷地区の包含層中から墨書土器（677）を検出している。

ＳＫ01

東段丘地区の北西部で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈しており、規模は南北1.7m、東西1.9m、最も深いところで0.7mを測る。底部には４個の小ピットを検出した。第62図627は土師器皿、628は土師器甕、629は須恵器蓋杯、630、631は須恵器皿である。このほか埋土中より須恵器の大甕片が出土している。時期的には８世紀のものと考えられる。なお、調査区の端で単独で検出されたため土坑としたが、土坑底面から柱穴を検出していることから掘立柱建物の柱穴である可能性も考えられる。

中　世

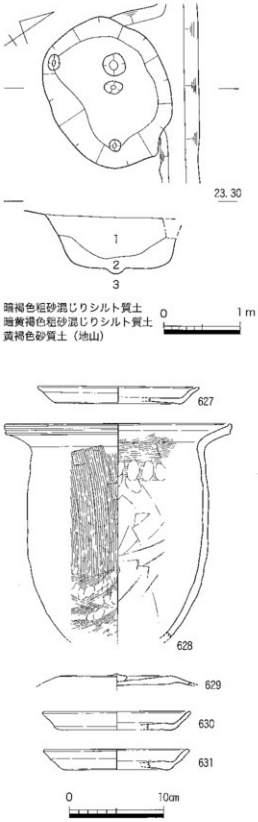
東段丘地区で溝状遺構３条を検出したほか、東谷地区・西段丘地区・西谷地区の包含層中から中世土器片を検出している。

ＳＤ01

調査区の東部で検出した南北にのびる溝跡である。規模は検出長約12.8m、幅0.9m前後、深さ0.2～0.1mであった。南は南壁から調査区外へのびていると考えられ、北は後世の耕作に伴って削平を受けていると考えられる。遺物は、少量の土器細片が出土したのみである。遺物が少量で細片であるので時期決定は難しいが、ＳＤ03と同時期のものと考えられる。

ＳＤ02

調査区のほぼ中央で検出した南北にのびる溝跡である。規模は検出長約10.5m、幅1.0m前後、深さ0.1m前後であった。南は南壁から調査区外へのびていると考えられ、北は後世の耕作に伴って削平を

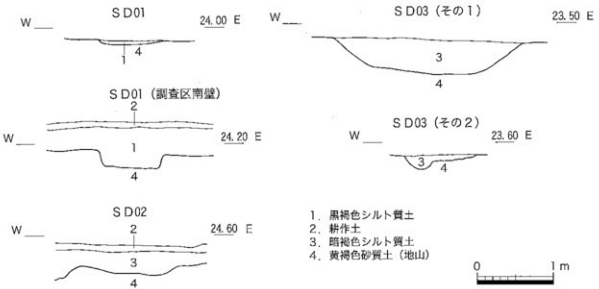


第62図　ＳＫ01　平・断面図（1/50）、出土遺物実測図

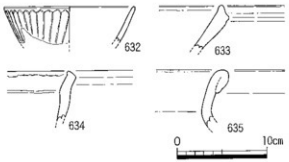
受けていると考えられる。遺物は少量の土器細片が出土したのみである。遺物が少量で細片であるので時期決定は難しいが、ＳＤ03と同時期のものと考えられる。

ＳＤ03

調査区のほぼ中央で検出した調査区を南北に横切る溝跡である。規模は検出長約23m、幅0.5～2.8m、深さは最も深いところで0.45mであった。南北とも調査区外へのびていると考えられる。第64図はＳＤ03出土遺物の実測図である。632は青磁椀。633は土師器鉢、634は土師器土鍋、635は備前焼甕の口縁部破片である。



第63図　ＳＤ01～03　断面図（1/50）



第64図　ＳＤ03　出土遺物実測図

近　世

西段丘地区では、弥生時代後期の竪穴住居跡ＳＨ11のほか多くの溝状遺構、土坑、柱穴、性格不明遺構を検出している。これらのうち遺物を包含しているものはＳＨ11以外は近世のものが多い。また、遺物を包含していなかった遺構についても、包含層中に弥生時代後期や中世の遺物片が含まれるため、弥生時代や中世に遡るものが含まれる可能性があるが、大半は近世に属すると考えられる。なお、柱穴の配置には建物を復原しうるような企画性は認められない。

ＳＫ02

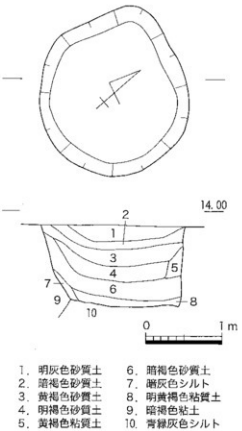
西段丘地区①で検出した土坑である。平面形は円形を呈し径約2～2.2m、断面形は台形を呈し深さ1.1mを測る。土坑下面の地山がグライ化していることから水溜的な性格をもつものと考えられる。陶磁器片など数点の近世遺物が出土している。

ＳＫ03

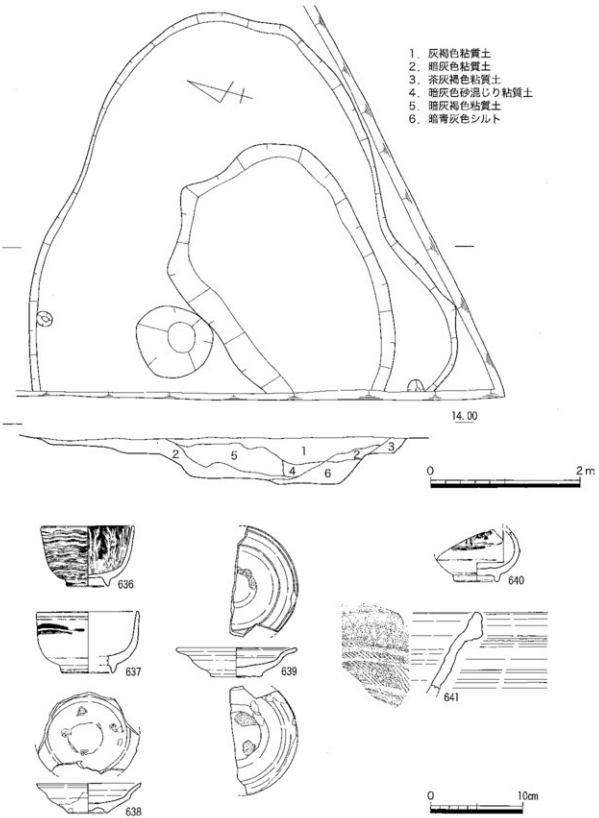
西段丘地区①で検出した土坑である。西側が調査区外に延びるが、一辺約1.6mの隅丸方形を呈すると考えられる。断面は台形を呈し深さ約0.75mを測る。陶磁器片など数点の近世遺物が出土している。

ＳＸ01

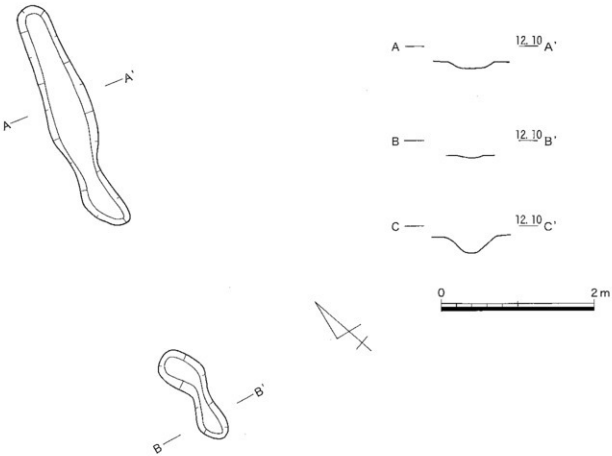
西段丘地区①の南端付近で検出した落ち込みである。西南側は遺構が調査区外に延びるため規模は不明であるが、東西径約5m以上、南北径約5.75m以上の規模で、断面は二段に落ち込み、深さ約0.65mを測る。断面の状況から一度埋没したのちに再び掘り直された状況が観察され、第66図の断面図の暗青灰色シルト層（６層）と暗灰色粘質土層（２層）が最初の埋没時の層で、それ以外の１、４、５層が再掘後の堆積層である。底面は地山の風化花崗岩層であるため井戸のような湧水は考えられず、水溜的な性格をもつ遺構と考えられる。　遺物は主に６層から検出された。636は肥前の刷毛目椀、637は陶胎染め付け椀、638、639は唐津皿、見込みに砂目が認められる。640は形態から髪油



第65図　ＳＫ02、03　平・断面図（1/50）



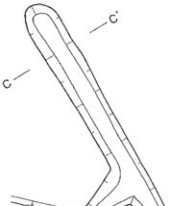
第66図　ＳＸ01　平・断面図（1/50）、出土遺物実測図



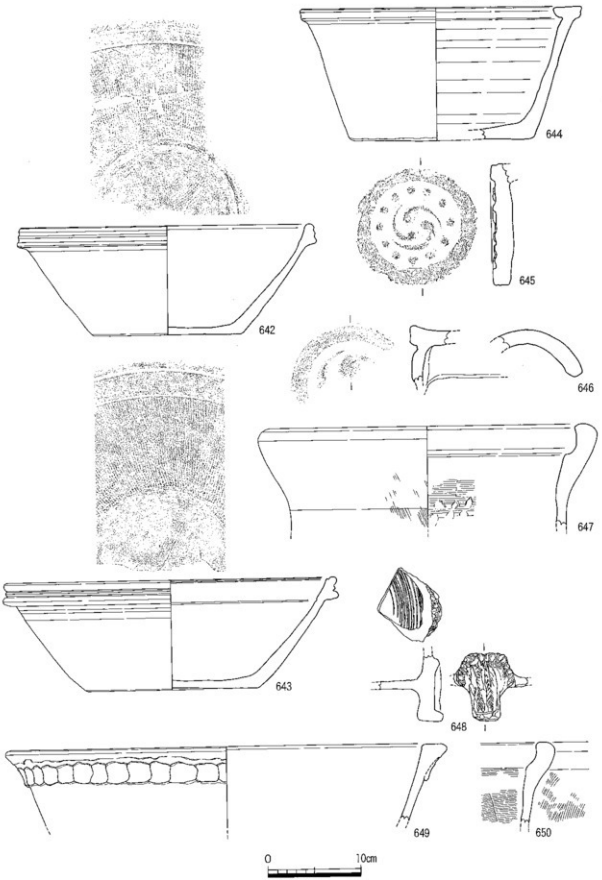
壺と考えた。641は備前スリ鉢の口縁部である。重ね焼きされている。

ＳＤ04

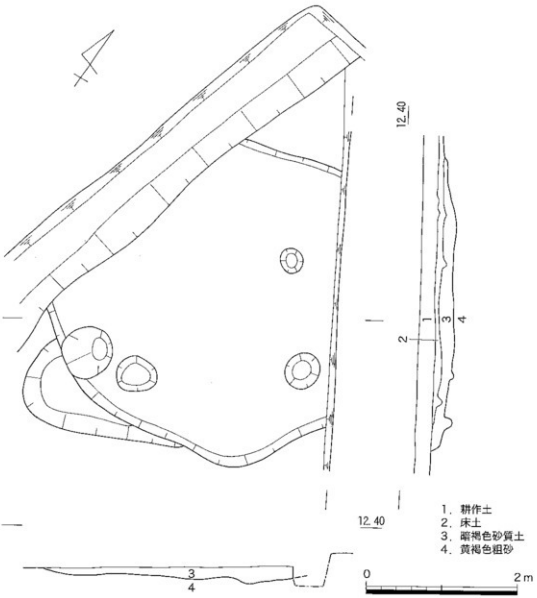
西段丘地区③北部で検出した南北方向の溝状遺構である。第67図に示すように溝状遺構が連続しており、三者が連続するものである可能性が高い。幅約40cm、深さは南側で深く北側の二者は浅い。前者は約30cm、後者は5～10cm ほどである。南端の溝から遺物が出土している。642、643はスリ鉢である。見込み部の卸目は中心から弧状に配されており明石焼の特徴を示している。644は鉢。645、646は軒丸瓦である。645は巴文と連珠文よりなり、646は巴文である。647は後述する666から見て土管と考えた。648は水盤などの脚部と思われる。



第67図　ＳＤ04　平・断面図（1/50）



第68図　ＳＤ04、05　出土遺物実測図



第69図　ＳＸ02　平・断面図（1/50）

ＳＤ05

西段丘地区②南端で検出した溝状遺構である。幅25cm、深さ10cm ほどの規模である。第68図650はＳＤ05出土の遺物である。土管と考えられる。

ＳＸ02

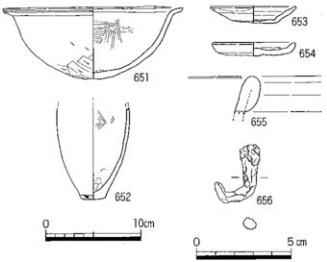
西段丘地区②南端で検出した落ち込み状遺構である。調査時は竪穴住居跡の可能性が考えられたが、出土遺物は近世陶磁器片、須恵器片、弥生土器片が混在する状況で近世の遺構と判断される。西側はＳＤ06にこわされ、東側は調査区外に延びるため平面形は不明で、遺構の性格も不明である。

包含層および出土位置不明の遺物

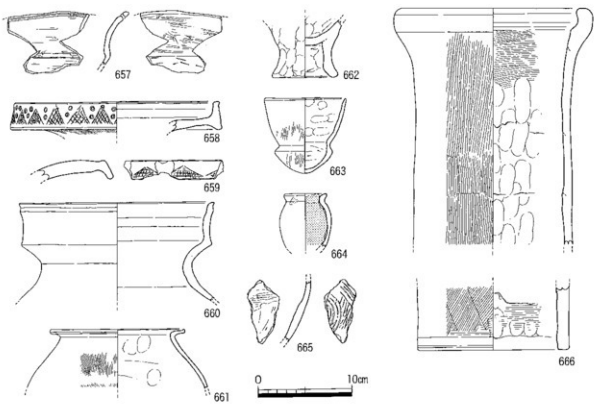
包含層および出土位置不明の遺物を以下に掲げる。

第70図は東段丘地区で出土した遺物で、すべて上面精査中に出土したものである。651は弥生土器鉢、口縁部が外反し、外面底部にヘラケズリが認められる。653、654は土師器小皿、655は備前焼の甕である。

第71図は東谷地区で出土した遺物である。657は縄文時代晩期の浅鉢である。波状口縁で口縁部内面に一条の沈線が巡り、波状の頂部付近で沈線上から穿孔している。内面はヘラミガキ、外面は口縁部がヘラミガキ、体部は貝殻条痕が認められる。上面精査中に出土したものである。658～665は調査区の排水溝の掘削中などに出土したものであるが、ＳＲ01に関連する遺物と考えられる。658、659は弥生土器の壺の口縁部である。658は口縁端部を上下に拡張し山形文と竹管文を、659は口縁端部を下方に拡張し山形文を描いている。660は西部瀬戸内系の複合口縁壺である。661、663は下川津Ｂ類土器である。664は漆の付着する甕、665にはヘラ描きによる線刻の認められる破片である（図の傾き、天地不明）。666は攪乱層中から出土した土管である。同様のものが18世紀後半以降の遺物



第70図　東段丘地区　出土遺物実測図

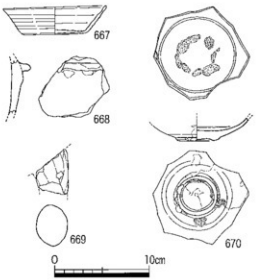


第71図　東谷地区　出土遺物実測図

と共伴している。

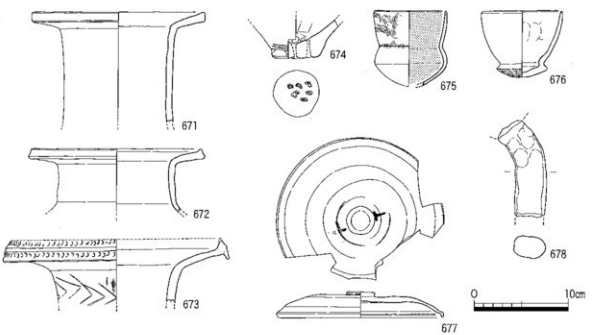
第72図は、西段丘地区で出土したもの、すべて上面精査中の出土である。667は西段丘地区①出土の土師器杯、底部は回転ヘラ切りされている。668～670は②出土のもので、668は形骸化した鍔の付く土釜口縁部付近の破片、669は土釜脚部の破片である。670は唐津皿である。

第73図は、西谷地区出土の遺物である。671～677はトレンチ出土のものが中心で、出土層位不明であるがＳＲ02に関連するものである。671～673は弥生時代後期の壺、673は口縁端部に竹管文と沈線、頸部にヘラ描きの文様が認められる。674の甑は底部に６孔の穿孔が認められる。675の小型丸底土器は他例のように明瞭に識別できないものの漆状の物質が付着している。676の小型丸底土器は下川津Ｂ類土器である。677は須恵器蓋杯である。つまみの両側に「十」と判読される墨書が認められる。678は包含層中から出土したもので中世土釜の脚部破片である。

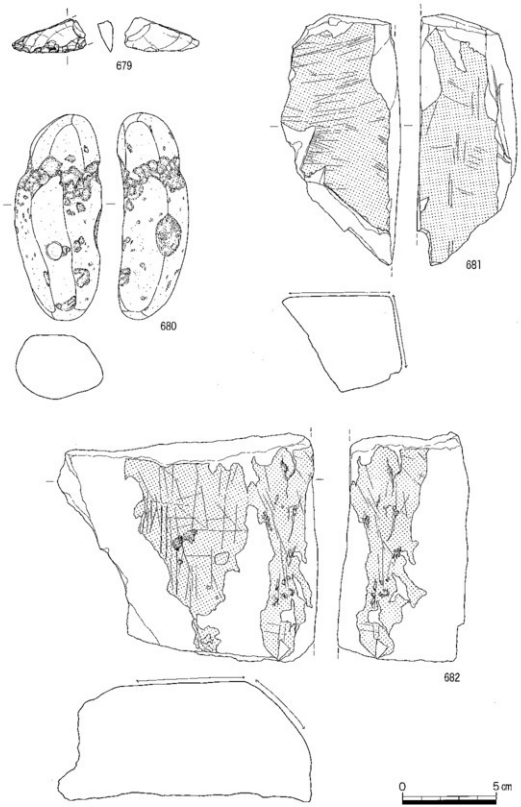


第72図　西段丘地区　出土遺物実測図

第74図679は東谷地区包含層中から出土したサヌカイト製のスクレイパー、680は西谷地区のトレンチから出土した石錘、681は西谷地区で出土した砥石、682は西段丘地区で出土した砥石である。



第73図　西谷地区　出土遺物実測図



第74図　包含層遺物実測図

第４章　まとめ

第１節　遺構の変遷

１．縄文時代晩期

東谷地区SR01および包含層から縄文時代晩期の突帯文土器数点が出土している。

２．弥生時代後期～終末期

原中村遺跡の中心となる時期である。東段丘地区と西段丘地区で集落、東谷地区と西谷地区で遺物を多量に包含する旧河道を検出している。

東段丘地区では10棟の竪穴住居跡を検出した。この調査区の東南側は谷が所在するため東南に集落が拡がっている可能性は無いが、北・西・西南側は後代の削平によって消滅しているものの、本来はさらに拡がっていたと推定される。この集落は、一辺５～６ｍの隅丸方形でベッド状遺構をもち、中央部に炉をもつ相対的に大型の竪穴住居と一辺２～４ｍの隅丸方形で炉やベッド状遺構を伴わない相対的に小型の竪穴住居から構成され、１棟の大型住居と複数棟の小型住居がセットになる構造と考えられる。これらの住居は弥生時代後期終末期のもので明瞭な時期差は認めがたく、大型建物の方向が概ね揃うことも合わせて、同時併存の可能性が高い。一方、西段丘地区では１棟の竪穴住居跡が検出された。ここでも後代の削平が著しいため竪穴住居の規模や構造は不明確で、集落としての拡がりを検討する資料に乏しい。ただし、西谷地区ＳＲ02Ⅵ層の土器の出土状況は西段丘地区から投棄された状況を示しており、本来は数棟以上からなる集落が所在していたことを示すものと考える。一方、東谷地区ＳＲ01出土の遺物も位置関係から西段丘地区に関連している可能性が高い。

ＳＲ01とＳＲ02の出土遺物を観察すると弥生時代後期後葉から終末期を中心に後期前葉から終末期の遺物が混在する状況である。しかし、下川津Ｂ類土器の占める割合が相対的にＳＲ01に低くＳＲ02に高い傾向があり、時期差を示す可能性が考えられる。出土土器片のうち比較的明瞭に識別できる甕の口縁部について下川津Ｂ類土器とそれ以外の土器の個体数を数えると、ＳＲ01（平成９年度）では下川津Ｂ類土器の占める割合が22％（個体数418）、ＳＲ01（平成８年度）で24％（個体数551）、ＳＲ02Ⅴ層で38％（個体数216）、Ⅵ層で44％（個体数226）という数値を得た。また、層毎に遺物が取り上げられた平成９年度調査分のＳＲ01では、暗青灰色細砂層で12％（個体数27）、暗青灰色粗砂層で17％（個体数157）、黒色シルト層で26％（個体数39）という割合で、下層から上層に下川津Ｂ類土器の占める割合が漸増することが判明する。また、鉢底部の丸底化の度合いなどの漠然とした印象から下川津Ｂ類土器の漸増傾向は時期差を表している可能性がある。

このように遺跡範囲は時期的に動いている可能性があるが、巨視的には西谷地区の西側段丘上に所在する「原遺跡」や西谷地区北西約400ｍに所在する平成６年度に文化行政課が調査をおこなった「原中村遺跡」の弥生時代後期後半から終末期の遺物を包含する小流路の存在も合わせて、弥生時代後期後半段階に原中村遺跡周辺の集落選地や開発が急速におこなわれたことが指摘できる。この動きの目的としたものを出土遺物から読みとることはできないが、一般的な見解としては遺跡北側に拡がる「段丘Ⅱ面」を中心とする水田開発にあった可能性があろう。今後、周辺地域の発掘調査の進展や広域の遺跡の動向

の検討を進める必要がある。

3. 古代

遺構としては東段丘地区で土坑１基を検出したのみで、西谷地区包含層から墨書土器を検出している。

4. 中世

遺構としては東段丘地区で溝状遺構３条を検出し、東谷地区、西段丘地区、西谷地区の包含層中から遺物片が出土している。

5. 近世

西段丘地区で水溜用と推定される土坑や性格不明遺構を検出している。出土遺物から17世紀代のものと18世紀後半以降ものがある。

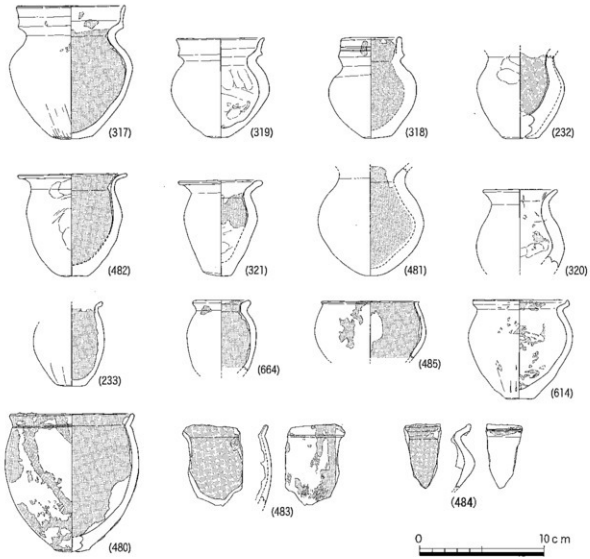
第２節　漆の付着した遺物

原中村遺跡からは、漆の付着した土器片多数と繊維製品が出土している。第75～77図は漆の付着した土器の実測図（縮尺１／３）である。第75、76図は前掲の実測図の再録で、第75図は漆工のために製作された可能性のある土器、第76図は漆工のために転用されたと思われる土器の実測図である。第77図は、細片のため本来の形状が不明の土器の実測図で、図の天地や傾きは不明確である。

1. 漆の付着状況と土器についての記載

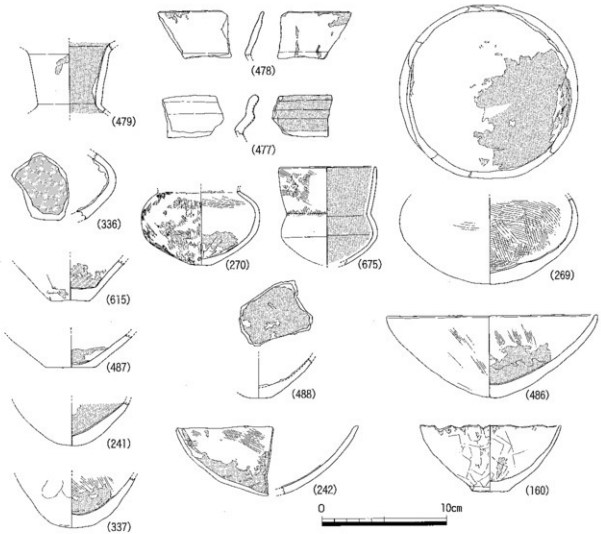
まず、漆の付着状況や土器の特徴について記述する。

317 器高約11cm、容量約380cc。口縁部を上方に拡張する形態の甕である。縦に半裁したような状態で出土し、漆は内面全体と外面にわずかに付着する。また、破損した割れ口の断面にもわずかに付着している。漆の色調は7.5YR1.7/1（黒）～10YR3/2（黒褐）で縮みジワ、光沢が認められる。 319 器高約８cm、容量約138cc。口縁部を上方に拡張する形態の甕。縦方向に半裁したような状況で出土した。漆は内面に斑状にわずかに付着している。 318 ほぼ完形で出土した。器高約８cm、容量約100cc。口縁部を上方に拡張する形態の甕。内面全体に付着し、口縁外面にも水滴状に付着する。漆の色調は10YR4/6（褐）～10YR3/2（黒褐）で縮みジワが認められる。 232 器高７cmほど、容量は頸部以下で56ccを測る。内面全体に薄く付着するが、一部に厚く付着している。漆の色調は5YR1.7/1（黒）で一部に縮みジワ、光沢が認められる。なお、この土器は粘土を貼り足して意図的に分厚い器壁としている点が注目される。 482 器高８cm ほど、容量193ccを測る。口縁端部から胴部最大径付近にかけて斜めに輪切りされたような状態で出土した。内面全体に付着し、外面にもわずかに痕跡がのこる。漆の色調は5YR2/1（黒褐）で縮みジワが認められる。 321 ほぼ完形で出土した。器高約7.5cm、容量63ccを測る。内面の頸部付近と底部に薄い皮膜状に付着する。色調は10YR2/3（黒褐）で縮みジワが見られる。 481 器高９～10cm、容量約170cc（残存部）を測る。ほぼ完形で出土した。内面全体と外面にわずかに付着。破損部の割れ口断面にも付着している。色調10YR2/2（黒褐）で縮みジワ、一部に光沢が見られる。 320 器高７cmほど、容量は90cc程度に復原される。内面にわずかに付着する。色調は10YR3/3（暗褐）。 233 器高７cm、容



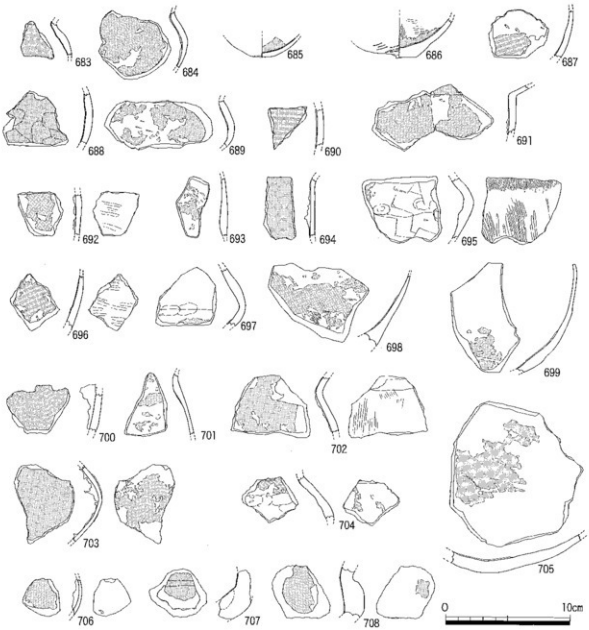
第75図　漆工関連遺物実測図（1）（縮尺1／3）

量72ccほどのわずかに口縁部を摘み出した形態の甕。縦方向に半裁されたような状態で出土した。漆は内面全体に付着する。色調は10YR3/4（暗褐）～10YR2/2（黒褐）、縮みジワが認められる。 664 器高7㎝ほど、容量は74ccほどに復原される。縦方向に半裁されたような状態で出土した。漆の色調は10YR2/3（黒褐）、内面全体に皮膜状に、外面には斑状に付着する。また、破損部の割れ口断面にも付着している。 485 口縁部をわずかに外方に摘み出した形態のもの。残存部の容量は約200ccを測る。漆の色調は10YR3/2（黒褐）で内面全体および外面に水滴状に付着する。縮みジワが認められる。 614 器高約8㎝、容量206ccを測る。口縁端部をわずかに上方に摘み上げる形態の甕。ほぼ完形で出土した。漆は内面全体と外面は口縁部から体部上面にかけて斑状に付着するが、ほとんど剥離している。 480 器高11㎝、容量530ccほどのもの。漆の色調は7.5YR3/2（黒褐）で、内面には1㎝近く盛り上がって付着し、外面にも液体が流れた痕跡として付着している。 483 480とは接合できないが同一個体の可能性がある。付着の状況は480と同一である。 484 器高6～7㎝ほどの甕の小破片。漆の色調は10YR3/2（黒褐）で、内面のほぼ全体に厚く付着し、外面には水滴状に付着する。また、破損した割れ口断面にも付着している。



第76図　漆工関連遺物実測図（2）（縮尺1／3）

479 小型の壺頸部の破片。漆の色調は10YR2/1（黒）で、内面全体と内面から垂れたものが破損した割れ口を伝って外面に達している。縮みジワ、光沢が認められる。 478 壺か甕の口縁部の小破片。内外面にわずかに付着する。色調は10YR1.7/1（黒）で一部に縮みジワ、全体に光沢が認められる。 477 口縁部を上方に拡張させる形態の甕で外面に漆状のものを塗布している。これはくすべられたものかもしれないが、漆を塗ったものであれば本遺跡唯一の製品となる。 336　壺体部か。漆の色調は7.5YR1.7/1（黒）で、内面全体に厚く付着している。縮みジワ、光沢あり。 270 壺体部。内面下半部に断片的に薄い塗膜状に付着する。色調は2.5Y6/1（黄灰）。 675 小型丸底土器。内面のほぼ前面と外面の一部に斑状に付着。色調は10YR2/3（黒褐）。 269 壺体部。内面に皮膜状に付着する。残存状況からみて内面全体に付着していたものと思われる。色調は10YR1.7/1（黒）、縮みジワ、光沢あり。 615 壺か甕の底部。内面のほぼ全面と外面の一部および破損部の割れ口断面にも付着する。漆の色調は10YR3/2(黒褐)で、砂粒が混じる。 487 底部。内面に皮膜状に付着。割れ口断面にも一部付着している。色調は5YR2/1（黒褐）～10YR2/1（黒）で縮みジワが認められる。 241 底部。内面全体に薄い皮膜状に付着する。色調は10YR2/2（黒褐）で縮みジワ、光沢あり。 337 底部。見込み部の比較的丁寧なハケ調整から鉢と思われ



第77図　漆工関連遺物実測図（3）（縮尺1／3）

る。内面に薄く付着する。色調は2.5YR3/2～5YR3/2（暗赤褐）、縮みジワ、光沢あり。 488 底部。内面に薄く付着する。 242 鉢。内面に付着する。幅5mmほどの道具で塗ったような痕跡が認められる。色調は10YR2/2(黒褐)、縮みジワ、光沢あり。486 鉢。内面に付着する。幅4mmほどの道具でなすったような痕跡が認められる。色調は10YR1.7/1(黒）、縮みジワ、光沢あり。 160 鉢。内面にわずかに付着している。

2. 類例

以上のような漆の付着した土器片は、本遺跡のように多量に出土している事例こそ少ないものの時期を問わなければ全国的に類例が知られている[1]。例えば島根県松江市周辺の遺跡からは弥生時代中期に限定される漆塗土器が出土する特異な地域であるが、布田遺跡からは漆工に用いたと推定される漆の付

着した土器片が数点出土している[2]。このうちの1点は壺の口縁部外面の窪みを利用して漆を溜めたものである。また、石川県羽咋市の太田ニシカワダ遺跡からは、古墳時代前期の漆工に関連する土器片100点以上が出土している。太田ニシカワダ遺跡は、邑知潟周辺の微高地に営まれた古墳時代前期の遺跡で、土坑や溝状遺構から木製祭祀具の剣形や杵形模造品、機織りの部材、鹿角製品、石鋼や管玉未製品とともに多量の漆工関連の土器が出土した。この内訳は漆の塗られた土器（壺・高杯・鉢・器台・蓋・甕）75点、パレット（広口壺口縁、長頸・丸底の壺底部片4点）、内蔵（小型壺1点、小型鉢6点）、盛りつけ（高杯3点、鉢2点）に分類される。これらの土器は祭式土器と捉えられ、生漆ではなく「黒色漆」を内蔵したり盛りつけたりしていることから祭祀行為との関連が推定されている[3]。さらに岡山県倉敷市の上東遺跡からは調査直後のため全容は不明であるが、弥生時代後期のミニチュアの壺、鉢2点に生漆を内蔵した事例が知られている[4]。

太田ニシカワダ遺跡の漆工関連遺物は、漆を塗布した土器（製品）、漆を塗布するために土器を転用した道具（パレット）、「黒色漆」を内蔵したり盛りつけたりするといった用途に分類されている。一方、永嶋正春氏は採漆作業や漆工作業に使われた容器を漆液容器と呼称し、ウルシノキからの漆液採取、漆液の貯蔵、漆液の加工、漆液の使用などの用途を想定している[5]。遺跡から出土した漆の付着する土器について検討する場合、製品と製品を製作するために用いた道具は一応分けて検討したほうが良いと思われる。そして、製品を製作するための道具は、永嶋氏の漆液容器の用途の分類のどれに当たるかを検討する必要があろう。なお、漆液は時間の経過とともに固化していく性質のあることなど、漆特有の性質を念頭に置くことも必要である。

3. 原中村遺跡出土の漆付着土器

原中村遺跡の漆付着土器を概観すると、第75図に一括したようにこれまでミニチュア土器として分類されることが多く、祭祀との関連などが推定されてきた精製の小型の甕の一群があることが注目される。これらの土器のうち容量の復原できるものは56～534ccとばらつきがあるが、8割は56～206ccの大きさであり、これは漆の利用にあたり何らかの意味のある数値である可能性がある。これらの土器は完形で出土したものがある一方、半裁もしくは口縁部から体部にかけて斜めに割れて出土したものがある。これらの割れ口断面に漆の付着している事例があることから、何らかの使用時には割れた状態で使用していたことを示している。付着した漆が生漆なのかクロメられたものなのかなど理化学的分析結果を待つ必要があるが、弥生時代の漆製品には生漆の使用が顕著であるとする報告例もある[6]ことから、当初漆液の採取もしくは貯蔵に用いられたものが、パレットとして使用され、漆の固化に対応するため、もしくは漆液を無駄なく使うために意図的に土器を割って利用したことを暗示している。以上のことから、第75図に示した土器は様々な用途のなかに漆工に使用することが含まれており、それを前提に製作されたものである可能性が高い。

第76図の漆付着土器は、転用されて漆工に用いられたと推定されるものを中心に示した。これらは壺、小型丸底土器、鉢などからなる。鉢や土器の底部に漆が付着しているものは、すべて薄い皮膜状に付着しているもので、太田ニシカワダ遺跡で報告されているように盛りつけられたものは存在しない。615、487には割れ口に漆が付着しており、割れた状態で使用されたことを暗示すること、242、486には幅4～5mmほどの工具でなすったような痕跡が認められることから、第76図477～479、336以外のものはパ

レットとして使用されたものである可能性が高い。したがって、原中村遺跡から出土した漆付着土器は、１点の製品の可能性がある土器を除くと大半が漆工に関連する用具として用いられた可能性が高く、祭祀に関わる要素はほとんど無いと見られる。

次にこれらの漆付着土器の出土位置についてみると、56点中52点がＳＲ01、３点がＳＲ02、１点がＳＨ10という内訳になる。93%近いものがＳＲ01から出土している。ＳＲ01から出土したもののうち層位が判明するものについて見ると、各層から出土していることがわかる。先に下川津Ｂ類土器の占める割合の相違から時期差がある可能性を考えたが、漆の付着する土器に微妙な時期差を考慮する必要はないようである。このことから、漆付着土器がＳＲ01に集中することは、漆が使用された空間が限定されることを暗示している。つまり、漆を扱う工房のような施設（区画）がＳＲ01に使用済みの土器を投棄することができる地点に所在していたのではないかという想定である。漆工房のような施設を想定する場合、概ね位置関係から西段丘地区にあったものと思われるが、西段丘地区の弥生時代後期の遺構の多くは削平を受けている可能性が高く、ＳＲ01の存在する東谷地区はＳＲ01の東側が後世の大規模な開折を受けていることもあり、残念ながら詳細を検討できる情報に欠ける。また、漆液の採取は、漆液が時間の経過とともに固化していく性質上、生活地からそう遠くない周辺部の適地に相当数のウルシノキが生育（栽培）しており、そこで漆液を採取していたと推定されている[7]。ウルシノキは日照豊かで適度な水はけのある肥えた土地に好んで生育すると言われるが、原中村遺跡は近辺もしくは遺跡所在地域がいわゆる「里山」的な場所であり、一応そうした条件を満たしている。遺跡選地の理由として前章では遺跡北側に拡がる段丘面の水田開発を想定したが、漆工がどのように関連しているのかも含めて、この点を検討する必要がある。

今回の整理調査では、注記、接合作業中に漆の付着する土器が多数存在することに気づき早急に同定や分析を依頼するなどの対応をしたが、現物を依頼先に預託することとなったため実物を詳細に観察する時間を充分に取れなかった。したがって土器に関する検討をはじめ今後に検討をおこなうべき課題が多い。例えば、317～319の土器は山陰地方の土器に類似すると思われる。先述したように島根県松江市付近では弥生時代中期に漆塗土器が集中的に見られるなど漆工がおこなわれていたことが判明していることから、相互の関連などについて今後の検討に委ねられる点が多い。

１）奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター「漆製品出土遺跡地名表－東日本編－」『埋蔵文化財ニュース』49号　1984、同「漆製品出土遺跡地名表－西日本編－」『同』70号　1991

２）永嶋正春「布田遺跡出土漆塗土器、赤彩土器の塗装技術について」島根県教育委員会ほか『一般国道９号松江道路建設予定地内　埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ　布田遺跡』1991

３）石川県羽咋市教育委員会『太田ニシカワダ遺跡』1999

４）文化庁『発掘された日本列島'99新発見考古速報展』朝日新聞社　1999

５）前掲２）文献

６）島根県教育委員会ほか『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』1990

７）永嶋正春「漆から見た縄文・弥生時代」＜考古学ジャーナル＞401　1996

122の甕、125、126の鉢は下川津B類土器である。125の鉢は内外面に四方向のヘラミガキが施されている。126は内面が四方向のヘラミガキ、外面はヘラケズリが施されている。

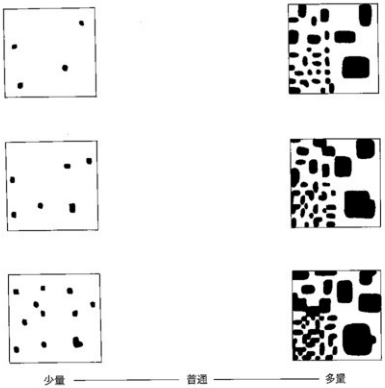
遺物観察表

凡　例

1．残存率は、遺物の図化部分に占める実物の割合を示しており、完形品に対するそれではない。

2．色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1989年版』を参照した。

3．胎土は、雲母・角閃石・長石、石英・その他について観察し、大きさの「大」は径1.1mm以上、「中」は径0.5～1.1mm、「小」は0.5mm未満を示す。また、含有量は下図を目安に「多量」「普通」「少量」で表現した。



番号	掃図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
1	13	28	縄文土器	深鉢	S R01	小片	長石・石英大巻、その他小少	内外：5Y5/1　灰	マメツ	マメツ	□縁端部に刻み目、刻み目突帯
2	13		縄文土器	深鉢	S R01	小片	長石・石英大多	内外：10Y R4/1 褐灰	マメツ	マメツ	□縁部に刻み目、刻み目突帯
3	13	28	縄文土器	深鉢	S R01	小片	長石・石英大多	内外：2.5Y6/2　灰黄	ナデ	ヘラケズリ	□縁端部に刻み目、刻み目突帯
4	13		縄文土器	深鉢	S R01	小片	雲母中少、長石・石英大巻	内：10Y R6/2　灰黄褐 外：10Y R5/2　灰黄褐	ヘラケズリ	ヘラケズリ	□縁端部に刻み目、刻み目突帯
5	13		縄文土器	浅鉢	S R01	小片	角閃石小少、長石・石英大多	内外：2.5Y6/2　灰黄	マメツ	ヘラケズリ	内面沈線1条、外面貼り付け突帯
6	15	28	弥生土器	甕	S H01	8/8	雲母小多、長石・石英中少、その他大少	内外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
7	15		弥生土器	壺	S H01	小片	雲母小巻、角閃石中少、長石・石英中巻	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	波状文
8	15	28	弥生土器	甕	S H01	8/8	長石・石英大少、その他大巻	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
9	15		弥生土器	甕	S H01	3/8	長石・石英大巻	内：10Y R6/6　明黄褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部・体部ハケ	
10	15		弥生土器	甕	S H01	2/8	雲母小少、長石・石英大巻	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部・体部ハケ	□縁部・体部ハケ	
11	15		弥生土器	甕	S H01	3/8	雲母小少、長石・石英大巻	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ、ハケ　体部ハケ	
12	15		弥生土器	甕	S H01	3/8	雲母小巻、角閃石小少、長石・石英中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部板ナデ後ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
13	15		弥生土器	甕	S H01	3/8	雲母小少、長石・石英小少、その他小少	内外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
14	15		弥生土器	甕	S H01	3/8	雲母小巻、長石・石英中少、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
15	15		弥生土器	甕	S H01	小片	雲母中少、長石・石英中巻	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
16	15		弥生土器	甕	S H01	小片	雲母中少、角閃石小少、長石・石英中少、その他大少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
17	15		弥生土器	甕	S H01	小片	長石・石英小少、その他中多	内：10Y R5/2　灰黄褐 外：10Y R6/6　明黄褐	□縁部ヨコナデ、板ナデ　体部板ナデ後ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	
18	15		弥生土器	甕	S H01	小片	雲母小少、長石・石英小少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部ヨコナデ、指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
19	15		弥生土器	甕	S H01	小片	雲母小少、長石・石英大巻、その他大少	内：7.5Y R7/4　にぶい橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	マメツ	マメツ	
20	15		弥生土器	底部	S H01	4/8	雲母小少、長石・石英中少、その他大少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	ヘラケズリ	タタキ後ハケ	
21	15		弥生土器	底部	S H01	7/8	雲母小少、長石・石英大巻	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：2.5Y R5/3　にぶい赤褐	ヘラケズリ	ハケ	
22	15		弥生土器	底部	S H01	6/8	雲母小少、長石・石英大巻	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	指オサエ、板ナデ	ハケ	
23	15		弥生土器	底部	S H01	5/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大少	内：10Y R4/1　褐灰 外：10Y R5/4　にぶい黄褐	指オサエ	ナデ	
24	15		弥生土器	底部	S H01	3/8	雲母小少、長石・石英中巻、その他小少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R5/3　にぶい黄褐	ヘラケズリ	ヘラミガキ	
25	15		弥生土器	底部	S H01	5/8	雲母小巻、長石・石英大巻	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：10Y R5/4　にぶい黄褐	ヘラケズリ、指オサエ	ヘラミガキ	

土器観察表1

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
26	15		弥生土器	底部	S H01	8/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中普	内外：5Y R6/6　橙	ハケ、板ナデ	タタキ後ハケ	
27	15		弥生土器	底部	S H01	8/8	雲母小少、長石・石英大少、その他大少	内外：7.5Y R6/6　橙	板ナデ	タタキ	
28	15		弥生土器	底部	S H01	8/8	雲母中少、長石・石英大少	内：5Y R6/4　にぶい橙 外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	タタキ	
29	15	28	弥生土器	底部	S H01	8/8	長石・石英大多	内：2.5Y 4/1　黄灰 外：5Y R3/6　明赤褐	底部ハケ	不明	木葉圧痕
30	15		弥生土器	高杯か鉢	S H01	小片	雲母中普、角閃石小少、長石・石英中普、その他大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
31	15		弥生土器	高杯か鉢	S H01	小片	雲母中普、角閃石小少、長石・石英中少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
32	15		弥生土器	高杯か鉢	S H01	小片	雲母小普、角閃石小少、長石・石英中少、その他小少	内：7.5Y R5/4　にぶい橙 外：10Y R5/4　にぶい黄褐	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
33	15		弥生土器	鉢	S H01	小片	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中普、その他中少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R5/4　にぶい黄褐	口縁部ヨコナデ　以下ハケ	口縁部ヨコナデ　以下ヘラケズリ	
34	15	28	弥生土器	鉢	S H01	7/8	雲母小少、長石・石英大少、その他大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部ナデ、指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ナデ	
35	15	28	弥生土器	鉢	S H01	8/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヨコナデ、ヘラケズリ	
36	15		弥生土器	鉢	S H01	6/8	雲母小少、長石・石英中少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	ハケ	ナデ、板ナデ	
37	15		弥生土器	鉢	S H01	6/8	雲母小普、長石・石英中普	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	板ナデ、指オサエ	指オサエ、ナデ	
38	15		弥生土器	小型丸底土器	S H01	2/8	雲母小少、長石・石英小少	内：5Y R　5/6　明赤褐 外：7.5Y R6/6　橙	ヘラケズリ	ナデ	
39	15		弥生土器	製塩土器	S H01	4/8	角閃石小少、長石・石英中少	内：7.5Y R4/1　褐灰 外：7.5Y R3/2　灰褐	不明	指オサエ	
40	17		弥生土器	壺	S H02	小片	雲母小少、長石・石英大普、その他大少	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：2.5Y R6/8　橙	マメツ	マメツ	
41	17		弥生土器	甕	S H02	小片	雲母小少、長石・石英中少	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	ヨコナデ	
42	17		弥生土器	甕	S H02	小片	角閃石小普、長石・石英中普	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
43	17		弥生土器	甕	S H02	小片	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ、板ナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ	
44	17		弥生土器	高杯か鉢	S H02	小片	雲母小少、長石・石英大少、その他小少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ	
45	17	29	弥生土器	鉢	S H02	7/8	雲母小少、長石・石英中少	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R6/6　橙	板ナデ	板ナデ、ナデ	
46	17		弥生土器	底部	S H02	4/8	雲母小少、長石・石英大少	内：5Y R6/8　橙 外：5Y R5/8　明赤褐	マメツ	マメツ	
47	17		弥生土器	底部	S H02	8/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	板ナデ	タタキ	
48	17		弥生土器	鈍縁車	S H02	3/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：10Y R5/2　灰黄褐	ナデ	ナデ	
50	18		弥生土器	壺	S H03	小片	雲母小少、角閃石中少、長石・石英小少	内外：7.5Y R5/6　明褐	ヨコナデ	ヨコナデ	沈線1条
51	18		弥生土器	鉢	S H03	小片	雲母小少、長石・石英中普	内：5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ハケ後ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ	
52	20		弥生土器	甕	S H04	2/8	雲母中普、角閃石小少、長石・石英中普、その他中普	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	

土器観察表 2

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
53	20		弥生土器	底部	S H04	5/8	雲母小少、長石・石英普、その他小少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R5/6　明褐	ヘラケズリ	ヘラミガキ	
54	20		弥生土器	底部	S H04	5/8	雲母小普、長石・石英中少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R4/2　灰褐	指オサエ	ヘラミガキ	
55	20		弥生土器	高杯	S H04	5/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：5Y R6/6　橙	ナデ	ハケ	穿孔１孔
56	20		弥生土器	製塩土器	S H04	6/8	長石・石英大普	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：2.5Y R5/6　明赤褐	マメツ	マメツ	
57	22		弥生土器	壺	S H05	3/8	雲母小少、長石・石英大多、その他大少	内：7.5Y R6/8　橙 外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	口縁部ヨコナデ　頸部・体部ハケ	
58	22		弥生土器	壺	S H05	4/8	雲母小多、長石・石英大少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ 体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部・体部ハケ	
59	22		弥生土器	壺	S H05	3/8	長石・石英大普、その他大少	内：10Y R5/8　黄褐 外：7.5Y R5/8　明褐	マメツ	ハケ	
60	22	29	弥生土器	甕	S H05	7/8	雲母小普、長石・石英大多	内：5Y R6/6　橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
61	22	29	弥生土器	甕	S H05	7/8	長石・石英大少、その他大少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：5Y R5/6　明褐色	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
62	22		弥生土器	甕	S H05	1月8日	雲母小少、長石・石英小少	内外：10Y R6/4　にぶい黄褐	口縁部ヨコナデ　体部ハケ?	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
63	22		弥生土器	甕	S H05	5/8	雲母小少、長石・石英大少、その他小少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/6　明黄褐	ハケ(2種)	タタキ後ハケ	
64	22		弥生土器	甕	S H05	2/8	雲母小普、長石・石英中普、その他中少	内：5Y R6/6　橙 外：5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ	
65	22		弥生土器	甕	S H05	1/8	長石・石英大少、その他中少	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ハケ　体部指オサエ、ハケ	口縁部ヨコナデ、ハケ　体部ハケ	
66	22		弥生土器	甕	S H05	2/8	雲母小少、その他中普	内：10Y R7/6　明黄褐 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部・体部ハケ、指オサエ	口縁部ハケ　体部タタキ	
67	22		弥生土器	底部	S H05	6/8	長石・石英中少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R4/1　褐灰	ハケ	タタキ後ハケ	
68	22		弥生土器	甕	S H05	2/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内：10Y R7/6　明黄褐 外：5Y R5/4　にぶい赤褐	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
69	22		弥生土器	甕	S H05	2/8	雲母中少、長石・石英大多	内外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部マメツ　体部指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部下半ヘラミガキ	
70	22	29	弥生土器	甕	S H05	6/8	雲母小少、長石・石英中普	内：7.5Y R5/6　明褐 外：5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
71	22		弥生土器	甕	S H05	7/8	雲母小少、長石・石英大少	内：5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
72	22		弥生土器	甕	S H05	6/8	長石・石英大多	内：7.5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R4/4　褐	ヘラケズリ	ハケ後ヘラミガキ	
73	22		弥生土器	甕	S H05	2/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：5Y R5/4　にぶい赤褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
74	22		弥生土器	鉢	S H03	6/8	長石石英・中少、その他中普	内：10Y R6/4　浅黄橙 外：10Y R6/2　灰黄褐	ハケ	タタキ後ハケ	
75	22		弥生土器	鉢	S H05	4/8	長石・石英大普、その他大少	内：10Y R6/6　黄橙 外：10Y R8/4　浅黄橙	マメツ	タタキ、マメツ	
76	22		弥生土器	鉢	S H05	5/8	長石・石英少普	内外：5Y R6/6　橙	ハケ後ヘラミガキ	板ナデ、指オサエ	
77	23		弥生土器	鉢	S H05	2/8	長石・石英中普、その他大少	内外：10Y R8/4　浅黄橙	マメツ	マメツ	
78	23		弥生土器	鉢	S H05	4/8	雲母小少、長石・石英少普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	

土器観察表３

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
79	23		弥生土器	鉢	S H05	3/8	密母小少、長石・石英大少	内:7.5Y R4/3 褐 外:7.5Y R4/3 褐	ハケ	口縁部ヨコナデ 以下ハケ	
80	23		弥生土器	鉢	S H05	2/8	雲母小多、長石・石英大普、その他小少	内外：5Y R5/4 にぶい赤褐	口縁部ヨコナデ 体部板ナデ	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	
81	23	29	弥生土器	高杯	S H05	6/8	雲母小少、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R8/3 淺黄橙	口縁・底部ヨコナデ 脚部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部板ナデ 脚部ヘラミガキ	杯部外面沈線７条 穿孔１孔
82	23		弥生土器	壺	S H05	2/8	密母小少、長石・石英大多、その他中少	内外：7.5Y R 6/6 橙	口縁部ヨコナデ 頸部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ 頸部ハケ	
83	23	29	弥生土器	底部	S H05	8/8	密母小少、角閃石大少、長石・石英大少、その他中少	内：5Y R5/6 明赤褐 外：5Y R5/8 明赤褐	板ナデ	タタキ後ナデ	
84	23		弥生土器	小型丸底土器	S H05	1/8	密母小少、長石・石英大多	内：7.5Y R5/6 明褐 外：5Y R6/8 橙	マメツ 体部ヘラケズリ	マメツ	
85	23		弥生土器	鼓塩土器	S H05	6/8	角閃石小少、長石・石英中少、その他中少	内外：5Y R6/4 にぶい橙	マメツ、指オサエ	板ナデ	
87	25		弥生土器	壺	S H06	2/8	密母小少、長石・石英大普、その他中少	内外：7.5Y R6/6 橙	マメツ	マメツ	口縁端部沈線３条
88	25		弥生土器	壺	S H06	小片	雲母小普、角閃石中少、長石・石英中普、その他小少	内外：7.5Y R6/6 橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
89	25		弥生土器	壺	S H06	小片	密母小多、角閃石小少、長石・石英中少	内外：7.5Y R5/4 にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	
90	25		弥生土器	壺	S H06	4/8	雲母小普、長石・石英中多、その他中多	内：10Y R5/4 にぶい黄褐 外：7.5Y R5/4 にぶい褐	口縁部・頸部ヨコナデ、指オサエ 体部指オサエ	マメツ	
91	25		弥生土器	壺	S H06	2/8	雲母小少、長石・石英大多、その他大普	内外：7.5Y R6/6 橙	マメツ、指オサエ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 体部タタキ後ハケ、マメツ	
92	25		弥生土器	甕	S H06	2/8	長石・石英中普	内:10Y R6/3 にぶい黄橙 外:10Y R6/4 にぶい黄橙	指オサエ	マメツ	
93	25		弥生土器	甕	S H06	3/8	雲母小少、長石・石英大多、その他大多	内：7.5Y R5/4 にぶい褐 外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ 体部上半指オサエ、ハケ、下半板ナデ	口縁部ヨコナデ 体部タタキ後ハケ	
94	25		弥生土器	甕	S H06	2/8	雲母小少、長石・石英中少、その他中少	内：10Y R7/4 にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 体部ハケ	
95	25		弥生土器	甕	S H06	小片	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大多、その他中普	内：10Y R7/4 にぶい黄橙 外：10Y R6/3 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ 体部板ナデ	口縁部ヨコナデ 体部タタキ後ナデ	
96	25		弥生土器	甕	S H06	小片	雲母小少、長石・石英小普、その他中少	内：7.5Y R5/4 にぶい褐 外：7.5Y R5/3 にぶい褐	口縁部ヨコナデ 体部板ナデ	口縁部ヨコナデ 体部板ナデ	
97	25		弥生土器	甕	S H06	3/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内外：5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ後ナデ	口縁部ヨコナデ 体部タタキ後ハケ	
98	25		弥生土器	甕	S H06	小片	雲母小少、長石・石英大少	内:10Y R4/1 褐灰 外：7.5Y R5/4 にぶい褐	口縁部ヨコナデ 体部ハケ後板ナデ	指オサエ後ハケ	
99	25		弥生土器	甕	S H06	4/8	雲母小普、長石・石英中普	内:5Y R6/4 にぶい橙 外:7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ 体部指オサエ	口縁部ヨコナデ 体部マメツ	
100	25		弥生土器	小型丸底土器	S H06	4/8	雲母小普、長石・石英大普、その他中少	内外：7.5Y R6/6 橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ 体部板ナデ、指オサエ、ヘラケズリ	口縁部マメツ 体部板ナデ	
101	25		弥生土器	小型丸底土器	S H06	2/8	密母小少、長石・石英中少、その他中少	内：10Y R5/4 にぶい黄褐 外：7.5Y R5/4 にぶい褐	ナデ	ハケ	
102	25		弥生土器	甕	S H06	4/8	密母小少、角閃石大普、長石・石英大多、その他大少	内：10Y R6/3 にぶい黄橙 外：10Y R5/3 にぶい黄褐	口縁部ヨコナデ 体部指オサエ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 体部指オサエ、マメツ	
103	25		弥生土器	甕	S H06	4/8	雲母小少、長石・石英大少	内：2.5Y 3/1 黒褐 外：2.5Y 4/2 暗灰黄	口縁部ヨコナデ 体部上半ハケ、下半板ナデ	口縁部ヨコナデ 体部タタキ後ハケ	
104	25		弥生土器	甕	S H06	1/8	密母中多、長石・石英大普、その他大少	内外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ 体部指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ 体部ハケ	

土器観察表４

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
105	25		弥生土器	甕	S H06	3/8	雲母小少、長石・石英大多、その他小少	内：5Y R6/8　橙 外：5Y R5/8　明褐色	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
106	25		弥生土器	甕	S H06	4/8	雲母小少、長石・石英大多	内外：5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ナデ、下半ヘラミガキ	
107	25		弥生土器	壺	S H06	2/8	雲母小普、角閃石小少、長石・石英大普、その他小少	内：5Y R6/6　橙 外：5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部上半ナデ、指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ナデ、下半ヘラミガキ	
108	25		弥生土器	底部	S H06	8/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大普	内外：10Y R5/3　にぶい黄褐	ヘラケズリ	マメツ	
109	25		弥生土器	底部	S H06	3/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大多、その他中普	内外：7.5Y R6/6　橙	ハケ、指オサエ	ハケ	
110	25		弥生土器	鉢	S H06	7/8	雲母小少、長石・石英中少、その他中少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	ナデ	
111	25		弥生土器	底部	S H06	5/8	雲母小普、長石・石英大普	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R5/4　にぶい赤褐	指オサエ	ヘラミガキ	
112	25		弥生土器	底部	S H06	6/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内：7.5Y R7/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ヘラケズリ	タタキ後ハケ	
113	25	29	弥生土器	高杯	S H06	7/8	雲母小少、長石・石英中普、その他中普	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	ハケ、板ナデ	
114	25	30	弥生土器	鉢	S H06	7/8	雲母小少、長石・石英中少、その他中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ナデ、タタキ	
115	26		弥生土器	壺	S H06	5/8	長石・石英大多、その他大普	内：5Y R6/4　にぶい橙 外：5Y R5/4　にぶい赤褐	頸部マメツ　体部指オサエ、板ナデ	頸部マメツ　体部タタキ、マメツ	
116	26	30	弥生土器	壺	S H06	5/8	長石中少	内：2.5Y 5/1　黄灰 外：5Y R6/6　橙	頸部マメツ　体部ハケ、指オサエ	頸部マメツ　体部タタキ、ヘラミガキ、ハケ、マメツ	
117	26		弥生土器	壺	S H06	6/8	雲母小少、長石・石英中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ハケ　体部ヘラケズリ	タタキ後ハケ、ナデ	
118	26		弥生土器	甕	S H06	小片	角閃石小少、長石・石英大多、その他大少	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ハケ	マメツ	
119	26		弥生土器	底部	S H06	6/8	雲母小少、長石・石英大普	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	板ナデ、マメツ	ハケ	
120	26		弥生土器	甕	S H06	2/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内外：5Y R6/6　橙	口縁部ハケ後ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
121	26		弥生土器	甕	S H06	3/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内：10Y R5/4　にぶい黄褐 外：7.5Y R3/6　明褐	マメツ、指オサエ	マメツ	
122	26		弥生土器	甕	S H06	2/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	
123	26		弥生土器	底部	S H06	6/8	雲母小普、長石・石英大普	内外：10Y R6/6　明黄褐	マメツ	ヘラミガキ	
124	26		弥生土器	高杯	S H06	2/8	雲母小普、長石・石英中多	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R6/8　橙	マメツ	マメツ	
125	26	30	弥生土器	鉢	S H06	8/8	雲母小普、長石・石英大多、その他小少	内：5Y R3/6　明赤褐 外：2.5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部四分割ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後四分割ヘラミガキ	
126	26		弥生土器	高杯か鉢	S H06	4/8	雲母小少、長石・石英大普、その他大少	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R3/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部四分割ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
127	29	30	弥生土器	甕	S H09	8/8	長石・石英大多	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：5Y R5/4　にぶい赤褐	口縁部ヨコナデ、板ナデ　体部指オサエ、板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ	
128	29	30	弥生土器	壺	S H09	8/8	雲母小少、長石・石英大多	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：5Y R6/8　橙	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半板ナデ	口縁部タタキ後ヨコナデ　体部タタキ後板ナデ	
129	29		弥生土器	甕	S H09	4/8	雲母小普、長石・石英中少	内：2.5Y 4/1　黄灰 外：2.5Y 5/1　黄灰	口縁部ハケ後ヨコナデ　体部板ナデ、指オサエ	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部ハケ、ナデ	

土器観察表 5

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
130	29		弥生土器	甕	SH09	1/8	雲母小少、長石・石英大含	内外：7.5YR6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ、マメツ	
131	29		弥生土器	甕	SH09	2/8	長石・石英大多	内：10YR5/4　にぶい黄褐 外：7.5YR5/4　にぶい褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
132	29		弥生土器	甕	SH09	1/8	雲母小多、角閃石中少、長石・石英中少、その他小含	内外：5YR5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
133	29		弥生土器	甕	SH09	小片	雲母小少、長石・石英大含	内外：7.5YR6/6　橙	ヨコナデ、指オサエ、ハケ	ヨコナデ	
134	29		弥生土器	底部	SH09	3/8	雲母小少、長石・石英大多	内：7.5YR5/4　にぶい褐 外：7.5YR5/3　にぶい褐	指オサエ後板ナデ	ハケ	
135	29		弥生土器	底部	SH09	3/8	雲母小少、長石・石英大含、その他中少	内：7.5YR5/4　にぶい褐 外：10YR5/3　にぶい黄褐	板ナデ	ハケ	
136	29		弥生土器	底部	SH09	4/8	長石・石英大含	内外：7.5YR6/6　橙	板ナデ	タタキ後ナデ	
137	29		弥生土器	底部	SH09	8/8	長石・石英大少	内：10YR6/4　にぶい黄橙 外：10YR6/3　にぶい黄橙	ハケ	ナデ	
138	29	30	弥生土器	高杯	SH09	4/8	雲母小少、長石・石英大含	内外：10YR6/4　にぶい黄橙	ナデ	体部ナデ　脚部ヘラケズリ	
139	29		弥生土器	鉢	SH09	1/8	雲母小多、長石・石英中少	内外：10YR5/4　にぶい黄褐	ヘラミガキ	タタキ後板ナデ、ナデ	
140	29	30	弥生土器	鉢	SH09	8/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：5YR6/8　橙	ヘラミガキ	ハケ、底部ヘラケズリ、指オサエ	本来圧痕
141	29		弥生土器	鉢	SH09	7/8	長石・石英大含、その他大少	内外：10YR7/4　にぶい橙	ハケ後ヘラミガキ	ヘラケズリ	
142	29	31	弥生土器	鉢	SH09	8/8	長石・石英大含	内：5YR5/8　明赤褐 外：7.5YR7/6　橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
143	29		弥生土器	製塩土器	SH09	5/8	雲母小少、長石・石英中含	内：10YR5/3　にぶい黄褐 外：7.5YR5/4　にぶい褐	体部マメツ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
144	29		弥生土器	製塩土器	SH09	4/8	長石・石英大多	内外：5YR5/4　にぶい赤褐	脚部指オサエ	脚部指オサエ	
145	29		弥生土器	製塩土器	SH09	8/8	雲母大少、長石・石英大少、その他大少	内：10YR6/4　にぶい黄橙 外：7.5YR7/3　にぶい橙	マメツ	脚部板状工具による圧痕、マメツ	
146	29		弥生土器	製塩土器	SH09	5/8	雲母大少、長石・石英中含、その他大含	内外：5YR6/6　橙	マメツ	板状工具による圧痕	
147	29		弥生土器	ミニチュア	SH09	3/8	長石・石英大含、その他大少	内：10YR6/3　にぶい黄橙 外：10YR6/4　にぶい黄橙	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	
148	29		弥生土器	ミニチュア	SH09	6/8	長石・石英大含、その他中含	内外：7.5YR6/6　橙	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	
149	31		弥生土器	壺	SH10	2/8	長石・石英大多	内外：2.5Y6/2　灰黄	指オサエ、マメツ	マメツ	
150	31		弥生土器	甕	SH10	5/8	雲母小少、長石・石英大多	内：10YR4/1　褐灰 外：10YR5/3　にぶい黄褐	ハケ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
151	31		弥生土器	甕	SH10	2/8	雲母小少、長石・石英小少、その他中少	内外：10YR6/4　にぶい黄橙	口縁部ハケ　体部板ナデ	タタキ後ナデ	
152	31	31	弥生土器	甕	SH10	6/8	長石・石英大少、その他大少	内外：10YR8/2　灰白	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	マメツ	
153	31		弥生土器	底部	SH10	4/8	雲母小少、長石・石英大多	内：5YR5/8　明赤褐 外：10YR6/6　明黄褐	底部指オサエ	タタキ後ハケ	
154	31		弥生土器	底部	SH10	7/8	雲母小少、長石・石英大含	内：10YR7/4　にぶい黄橙 外：7.5YR5/4　にぶい褐	指オサエ後板ナデ	タタキ後ハケ　底部指オサエ	
155	31		弥生土器	高杯	SH10	2/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中含	内：5YR7/8　橙 外：7.5YR6/4　にぶい橙	板ナデ	指オサエ、脚部ハケ、マメツ	穿孔4孔
156	31		弥生土器	底部	SH10	5/8	長石・石英大含、その他中含	内：2.5Y6/3　にぶい黄 外：7.5YR6/4　にぶい橙	指オサエ、板ナデ、マメツ	タタキ後板ナデ、マメツ	
157	31		弥生土器	鉢	SH10	4/8	長石・石英大多、その他中少	内外：7.5YR6/4　にぶい橙	ナデ	ナデ	
158	31		弥生土器	鉢	SH10	7/8	長石・石英大多、その他中少	内：7.5YR6/4　にぶい橙 外：10YR6/4　にぶい黄橙	口縁部指オサエ、以下板ナデ	タタキ後ナデ	

土器観察表6

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
159	31		弥生土器	鉢	S H10	4/8	雲母小少、長石・石英大普、その他小少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ	□縁部ヨコナデ、以下ハケ	
160	31		弥生土器	鉢	S H10	8/8	密母小少、長石・石英中多	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	板ナデ	指オサエ後板ナデ	
161	31		弥生土器	製塩土器	S H10	6/8	角閃石中多、長石・石英中普、その他中少	内外：2.5Y6/3　にぶい黄	脚部板ナデ	体部　ヘラケズリ　脚部　板ナデ	
162	31		土師器	甕	S H10	2/8	長石・石英中多、その他中多	内：5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
163	33	31	弥生土器	壺	S H11	3/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大普	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：5Y R7/6　橙	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ　以下ハケ	□縁部内面にヘラ描き沈線6条 □縁部外面に山形文を施す
164	33		弥生土器	壺	S H11	2/8	雲母小多、長石・石英中少	内：10Y R4/2　灰黄褐 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　頸部・体部上半ハケ　体部下半ハケ後ヘラミガキ	
165	33		弥生土器	壺	S H11	2/8	雲母小多、長石・石英中普、その他中普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ハケ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
166	33		弥生土器	壺	S H11	2/8	密母小普、長石・石英中普、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
167	33	31	弥生土器	甕	S H11	6/8	密母小普、長石・石英大多、その他小少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後板ナデ	
168	33		弥生土器	甕	S H11	3/8	密母小少、長石・石英大少	内：5Y R6/8　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ヘラケズリ後板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
169	33		弥生土器	甕	S H11	4/8	角閃石小少、長石・石英大多、その他中少	内外：5Y R5/6　明赤褐	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	
170	33		弥生土器	甕	S H11	小片	雲母小普、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
171	33		弥生土器	甕	S H11	3/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大少、その他少少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ハケ　体部ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
172	33	31	弥生土器	甕	S H11	7/8	密母小少、長石・石英大多、その他大多	内：7.5Y R8/4　淡黄橙 外：7.5Y R7/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ヘラミガキ	
173	33		弥生土器	甕	S H11	4/8	密母大多、長石・石英大普	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ、ハケ　体部指オサエ、以下ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ、以下ハケ後ヘラミガキ	
174	33		弥生土器	甕	S H11	2/8	雲母小少、長石・石英小少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
175	33		弥生土器	甕	S H11	2/8	雲母小普、長石・石英中少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部上半ヨコナデ、以下指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
176	33		弥生土器	底部	S H11	7/8	雲母大普、長石・石英大多	内：5Y R3/2　暗褐色 外：5Y R5/6　明褐色	ヘラケズリ、指オサエ	ヘラミガキ	
177	33		弥生土器	底部	S H11	6/8	雲母小少、長石・石英中普	内：5Y R6/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	板ナデ	ハケ	
178	33		弥生土器	鉢	S H11	小片	雲母小普、長石・石英大多、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外:10Y R5/2　灰黄褐	□縁部ヨコナデ　底部ハケ	□縁部ヨコナデ　底部ハケ	
179	33		弥生土器	鉢	S H11	小片	雲母小普、角閃石中少、長石・石英大普、その他小少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　底部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　底部ヘラケズリ	
180	33		弥生土器	高杯か鉢	S H11	小片	雲母小普、長石・石英中普	内：7.5Y R6/6　橙 外：5Y R6/8　橙	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ	
181	33		弥生土器	高杯か鉢	S H11	小片	雲母小普、長石・石英小普	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　底部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　底部ヘラケズリ	
182	33	31	弥生土器	鉢	S H11	8/8	長石・石英大普、その他中普	内外：5Y R5/6　明赤褐	ハケ後ヘラミガキ	ハケ	
183	33		弥生土器	鉢	S H11	7/8	雲母小普、長石・石英大多、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ	ナデ	

土器観察表 7

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
184	33		弥生土器	鉢	S H11	3/8	長石・石英大多、その他中少	内:10Y R6/4　にぶい黄橙 外:7.5Y R5/4　にぶい褐	マメツ	指オサエ、マメツ	
185	33		弥生土器	底部	S H11	3/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中少	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R4/4　にぶい赤褐	ハケ	ハケ、指オサエ	
186	33		弥生土器	小型丸底土器	S H11	3/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：5Y R5/6　明赤褐	指オサエ、ヨコナデ	口縁部ヘラミガキ　体部ヨコナデ	
187	33		弥生土器	小型丸底土器	S H11	4/8	雲母中多、長石・石英中少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	
188	33		弥生土器	ミニチュア	S H11	小片	雲母小少、長石・石英中普	内:5Y R5/6　明赤褐 外:10Y R6/4　にぶい黄橙	指オサエ	板ナデ	
189	34	31	弥生土器	砲錘車	S H11	8/8	雲母小少、長石・石英中少	内外2.5Y 8/3　浅黄	ナデ	ナデ	
191	36		弥生土器	甕	S P02	2/8	長石・石英大普	内:7.5Y R5/3　にぶい褐 外:7.5Y R5/2　灰褐	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
192	36		弥生土器	甕	S P02	小片	雲母中少、角閃石中普、長石・石英大普	内外：7.5Y R6/8　橙	マメツ	体部ハケ	
193	36		弥生土器	製塩土器	S P02	2/8	長石・石英小少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	脚部指オサエ	体部板ナデ　脚部指オサエ	
194	36		弥生土器	製塩土器	S P23	4/8	雲母小少、長石・石英中普、その他中普	内外：5Y R5/4　にぶい赤褐	脚部ナデ	脚部指オサエ	
195	39		弥生土器	壺	S R01	3/8	長石・石英大多、その他中少	内:10Y R7/3　にぶい黄橙 外:5Y R6/6　橙	板ナデ	ハケ	
196	39		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	頸部に刺突文
197	39		弥生土器	壺	S R01	2/8	長石・石英中少、その他中普	内:2.5Y 8/2　灰白 外:2.5Y 7/1　灰白	ハケ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
198	39		弥生土器	壺	S R01	4/8	雲母小普、長石・石英大普、その他中普	内外：7.5Y R7/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ、頸部ハケ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
199	39		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母大普、長石・石英大多、その他中少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ハケ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
200	39		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母大普、長石・石英中普	内：10Y R5/2　灰黄褐 外：10Y R4/2　灰黄褐	ナデ	ナデ	口縁端部山形文、波状文
201	39		弥生土器	壺	S R01	1/8	長石・石英大多、その他小少	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：7.5Y R6/6　橙	頸部ヘラミガキ、マメツ	体部ハケ、マメツ	貼り付け刻み目突帯
202	39		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大少、その他大少	内：7.5Y R5/8　明褐 外：7.5Y R6/6　橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
203	39		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母小少、角閃石大普、長石・石英中少、その他中少	内：2.5Y 6/2　灰黄 外：5Y R6/6　橙	指オサエ　マメツ	マメツ	
204	39	31	弥生土器	壺	S R01	7/8	雲母大普、長石・石英大普、その他大少	内外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	マメツ	
205	39		弥生土器	壺	S R01	4/8	雲母小多、角閃石中少、長石・石英大普、その他中少	内：5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R5/8　明赤褐	マメツ	マメツ	刻み目突帯
206	39		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母中普、角閃石小少、長石・石英中普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
207	39		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母中普、角閃石中少、長石・石英大普、その他中少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	粗オサエ、ナデ	マメツ	
208	39		弥生土器	壺	S R01	8/8	雲母小普、角閃石中普、長石・石英大普、その他大少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R4/6　褐	指オサエ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、マメツ	
209	39	31	弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小多、長石・石英大普	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R7/6　橙	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ後板ナデ	穂抱な線刻
210	39		弥生土器	壺	S R01	4/8	雲母小少、長石・石英大多	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/6　明黄褐	口縁部板ナデ　体部指オサエ、ナデ	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	

土器観察表 8

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
211	39		弥生土器	壺	S R01	4/8	長石・石英大少	内：2.5Y7/3　浅黄 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部タタキ後ヨコナデ　体部タタキ	
212	39		弥生土器	壺	S R01	3/8	長石・石英大少、その他小少	内：2.5Y7/3　浅黄 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ハケ、指オサエ	タタキ後ハケ	
213	39		弥生土器	甕	S R01	1/8	長石・石英大普、その他中少	内：10Y R8/3　浅黄橙 外：7.5Y R7/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ、マメナデ	
214	39		弥生土器	壺	S R01	3/8	長石・石英大普、その他中少	内：7.5Y R7/4　にぶい橙 外：5Y R8/4　淡橙	口縁部マメツ　体部指オサエ後板ナデ	口縁部マメツ　体部タタキ、マメツ	
215	39		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母大多、長石・石英大普	内外：2.5Y6/2　灰黄	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
216	39		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y7/2　灰黄	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
217	39		弥生土器	甕	S R01	3/8	長石・石英大多	内外：2.5Y8/2　灰白	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ、マメツ	
218	39		弥生土器	甕	S R01	3/8	雲母小普、長石・石英大多、その他中普	内：10Y R4/1　褐灰 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
219	40		弥生土器	甕	S R01	1/8	長石・石英小少、その他小少	内外：2.5Y7/3　浅黄	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ナデ	
220	40		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母中普、角閃石中普、長石・石英小少、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
221	40		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英大普	内：5Y4/1　灰 外：5Y R4/8　赤褐	指オサエ、マメツ	マメツ	
222	40		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英大多、その他大少	内：2.5Y R6/8　橙 外：5Y R6/8　橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
223	40		弥生土器	壺	S R01	3/8	長石・石英中普、その他大普	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ハケ　体部マメツ	ハケ、マメツ	
224	40		弥生土器	壺	S R01	4/8	長石・石英中少、その他小少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	指オサエ後板ナデ	タタキ後板ナデ	
225	40		弥生土器	壺	S R01	6/8	長石・石英大多	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：10Y R4/1　褐灰	指オサエ後ナデ	板ナデ、マメツ	
226	40		弥生土器	甕	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
227	40		弥生土器	底部	S R01	7/8	長石・石英大普、その他中少	内：2.5Y7/2　灰黄 外：7.5Y R7/4　にぶい黄橙	体部指オサエ、板ナデ　脚部指オサエ	体部指オサエ後板ナデ　脚部指オサエ、板状工具によるHE痕	
228	40		弥生土器	底部	S R01	5/8	長石・石英大多	内：5Y R7/6　橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	マメツ、脚部ハケ	指オサエ、板ナデ、マメツ	
229	40		弥生土器	高杯	S R01	2/8	長石・石英大普、その他大少	内外：7.5Y R8/1　灰白	指オサエ、マメツ	ハケ、マメツ	
230	40		弥生土器	高杯	S R01	3/8	長石・石英大少、その他小少	内外：2.5Y8/3　淡黄	指オサエ、ハケ	指オサエ、ハケ	穿孔1孔
231	40		弥生土器	高杯	S R01	小片	長石・石英中少、その他小普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
232	40	32	弥生土器	甕	S R01	3/8	雲母小普、長石・石英大普、その他中少	内：10Y R1.7/1　黒（うるし） 外：5Y R6/6　橙	不明	指オサエ後ナデ	漆付着
233	40	32	弥生土器	甕	S R01	5/8	長石・石英中多、その他中普	内：10Y R4/2　灰黄褐 外：10Y R5/2　灰黄褐	不明	口縁部ヨコナデ、以下マメツ、板ナデ	漆付着
234	40		弥生土器	高杯か鉢	S R01	1/8	雲母中普、長石・石英大多、その他中普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ、マメツ　体部ヘラケズリ、マメツ	口縁部ヨコナデ、マメツ　体部ヘラケズリ	
235	40		弥生土器	高杯か鉢	S R01	小片	長石・石英中少、その他中少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	

土器観察表 9

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
236	40		弥生土器	高杯小鉢	S R01	小片	雲母小巻、角閃石中巻、長石・石英大巻、その他大少	内：7.5Y R6/6 橙 外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
237	40		弥生土器	高杯小鉢	S R01	小片	長石・石英中少、その他小巻	内：10Y R6/2 灰白 外：10Y R7/3 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
238	40		弥生土器	鉢	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英大多	内外：2.5Y 6/3 にぶい黄	口縁部ヨコナデ、マメツ	口縁部ヨコナデ、マメツ	
239	40		弥生土器	鉢	S R01	7/8	長石・石英大少、その他中少	内外：2.5Y 8/3 淡黄	マメツ	指オサエ、マメツ	
240	40		弥生土器	鉢	S R01	3/8	岩母小少、角閃石小少、長石・石英中少	内：10Y R7/4 にぶい黄橙 外：10Y R6/3 にぶい黄橙	ナデ	ナデ	
241	40		弥生土器	底部	S R01	4/8	長石・石英大巻、その他大少	内：10Y R4/2 灰黄褐 外：7.5Y R7/6 橙	不明	マメツ	
242	40	巻頭	弥生土器	鉢	S R01	1/8	長石・石英大巻、その他小巻	内：7.5Y R7/6 橙 外：7.5Y R6/6 橙	ハケ	マメツ	漆付着
243	40	32	弥生土器	鉢	S R01	3/8	岩母小少、長石・石英大多	内外：7.5Y R6/6 橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
244	40		弥生土器	小型丸底土器	S R01	1/8	岩母中少、角閃石小巻、長石・石英中少	内外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部指オサエ後ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	
245	40		弥生土器	小型丸底土器	S R01	4/8	雲母中巻、長石・石英大巻	内：2.5Y 5/2 暗灰黄 外：5Y R6/6 橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
246	40		弥生土器	小型丸底土器	S R01	4/8	雲母小少、長石・石英大巻、その他中巻	内外：10Y R3/1 黒褐	ナデ	上半ハケ、下半ナデ	
247	40		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	角閃石中巻、長石・石英大少、その他小少	内：5Y 4/1 灰 外：7.5Y R6/3 にぶい褐	マメツ	体部板ナデ　脚部指オサエ	
248	40		弥生土器	製塩土器	S R01	5/8	雲母小少、角閃石中少、長石・石英中少その他小少	内外：10Y R4/2 灰黄褐	指オサエ、板ナデ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
249	40		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	雲母小少、長石・石英大多	内外：5Y R5/6 明赤褐	ナデ	マメツ　脚部指オサエ	
250	40		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	長石・石英大巻	内：10Y R6/4 にぶい黄橙 外：10Y R5/3 にぶい黄褐	指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
251	40		弥生土器	製塩土器	S R01	7/8	角閃石中少、長石・石英中巻	内外：2.5Y 7/2 灰黄	体部板ナデ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
252	40		弥生土器	製塩土器	S R01	6/8	岩母小少、角閃石中巻、長石・石英大巻、その他中少	内外：7.5Y R6/6 橙	板ナデ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
253	40		弥生土器	製塩土器	S R01	6/8	角閃石小少、長石・石英中少、その他小巻	内：10Y R6/3 にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4 にぶい橙	指オサエ、板ナデ	体部板ナデ　脚部指オサエ	
254	40		弥生土器	製塩土器	S R01	4/8	雲母小巻、角閃石中巻、長石・石英大多	内外：7.5Y R6/6 橙	体部板ナデ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
255	40		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	長石・石英大巻	内外：2.5Y 8/3 淡黄		マメツ	
256	40		土師質土器	杯	S R01	4/8	雲母小巻、長石・石英中少、その他中巻	内外：7.5Y R7/6 橙	マメツ	マメツ	
257	41		弥生土器	壺	S R01	2/8	長石・石英大巻	内：2.5Y 5/2 暗灰黄 外：7.5Y R7/4 にぶい橙	マメツ	マメツ	口縁端部沈線３条
258	41		弥生土器	壺	S R01	7/8	雲母中巻、長石・石英大多	内：7.5Y R6/4 にぶい橙 外：10Y R6/4 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、以下マメツ	口縁部ハケ後ヨコナデ　頸部ハケ	
259	41		弥生土器	壺	S R01	7/8	岩母小少、長石・石英大多、その他中巻	内外：10Y R7/2 灰黄	口縁部ヨコナデ　頸部ナデ　体部指オサエ、ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部以下ハケ後ナデ	
260	41	32	弥生土器	壺	S R01	8/8	長石・石英中巻、その他中巻	内：2.5Y R6/8 橙 外：7.5Y R7/6 橙	マメツ　頸部ハケ	ヨコナデ　頸部ヘラミガキ	
261	41		弥生土器	壺	S R01	5/8	長石・石英大巻	内：2.5Y 8/4 淡黄 外：10Y R 8/4 浅黄橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
262	41		弥生土器	壺	S R01	小片	長石・石英中少	内：5Y R6/6 橙 外：5Y R6/6 橙	マメツ	マメツ	口縁端部沈線３条

土器観察表10

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
263	41		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小砂、角閃石中少、長石・石英小砂、その他大少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
264	41		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母中少、角閃石中砂、長石・石英中少	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部以下ハケ	
265	41		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小少、角閃石中砂、長石・石英中砂、その他中少	内外：5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ	口縁部ヨコナデ　頸部ナデ	沈線２条
266	41		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中少	内外：5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
267	41		弥生土器	壺	S R01	1/8	角閃石中多、長石・石英中多、その他大少	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	指オサエ、マメツ	マメツ	沈線２条
268	41		弥生土器	壺	S R01	3/8	雲母小少、角閃石中砂、長石・石英大多	内：10Y R6/2　灰黄褐 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部指オサエ後板ナデ　体部上半ハケ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ、ヘラミガキ	
269	41	32	弥生土器	壺	S R01	7/8	その他小砂	内：5Y R6/6　橙 外：5Y R6/8　橙	ハケ	ハケ	櫛付沓
270	41		弥生土器	壺	S R01	8/8	長石・石英小多、その他中少	内：5Y R7/3　にぶい橙 外：5Y R8/4　淡橙	ハケ、板ナデ	ハケ	櫛付沓
271	41	32	弥生土器	壺	S R01	6/8	長石・石英大砂、その他大砂	内外：2.5Y 8/2　浜白	頸部板ナデ　不明	頸部指オサエ後ハケ　体部上半ハケ後板ナデ、下半ハケ	
272	41	33	弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大多、その他大少	内外：10Y R7/2　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、板ナデ　体部上半ハケ、下半板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
273	41	33	弥生土器	甕	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大砂、その他中少	内外：7.5Y R7/6　橙	口縁部ハケ　体部上半ハケ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ヘラミガキ	線刻
274	41		弥生土器	甕	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大砂	内：7.5Y R6/6　橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	ハケ2種	口縁～体部上半ヨコナデ　体部下半ハケ２種	
275	41		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英大多、その他小少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
276	42		弥生土器	甕	S R01	1/8	長石・石英大多、その他中砂	内外：5Y R6/6　橙	板ナデ、マメツ	マメツ	
277	42		弥生土器	甕	S R01	3/8	雲母小砂、長石・石英中少、その他小少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ハケ後ナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
278	42		弥生土器	甕	S R01	2/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大砂、その他大砂	内外：7.5Y R7/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
279	42		弥生土器	甕	S R01	3/8	長石・石英大多、その他中少	内：5Y 5/1　灰 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
280	42		弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大多、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁・体部上半指オサエ後ナデ　体部下半ヘラケズリ	指オサエ、マメツ	
281	42		弥生土器	甕	S R01	2/8	雲母小砂、長石・石英大砂	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ、ヘラミガキ	
282	42	33	弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母中砂、長石・石英大砂、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
283	42		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大砂、その他中砂	内：2.5Y 5/1　黄灰 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
284	42		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母小多、長石・石英小少	内：10Y R2/1　黒 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	
285	42		弥生土器	甕	S R01	5/8	雲母大砂、長石・石英大少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R4/1　褐灰	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ後ナデ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ヘラミガキ	
286	42	33	弥生土器	甕	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大砂、その他中少	内：10Y R5/4　にぶい黄褐 外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
287	42	33	弥生土器	底部	S R01	8/8	長石・石英大多、その他大砂	内：7.5Y R6/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	体部上半ハケ後ナデ、下半指オサエ	体部タタキ　脚部指オサエ	
288	42		弥生土器	底部	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大砂	内外：10Y R5/2　灰黄褐	胸部ヨコナデ	脚部指オサエ後ハケ	

土器観察表11

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
289	42		弥生土器	底部	S R01	4/8	長石・石英大多、その他大少	内:7.5Y R6/6　橙 外:10Y R6/3　にぶい黄橙	ハケ	ヘラケズリ	穿孔１孔
290	42		弥生土器	甕	S R01	8/8	長石・石英大昔、その他大少	内:2.5Y4/1　黄灰 外:10Y R6/4　にぶい黄橙	ヘラケズリ	ハケ	
291	42		弥生土器	甕	S R01	8/8	角閃石大多、その他大少	内:7.5Y R7/6　橙 外:10Y R7/4　にぶい黄橙	指オサエ、板ナデ、マメツ	板ナデ、マメツ	穿孔１孔
292	42		弥生土器	甕	S R01	8/8	長石・石英大昔、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙	板ナデ	板ナデ	穿孔１孔
293	42		弥生土器	高杯	S R01	2/8	雲母小多、長石・石英大昔	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
294	42	33	弥生土器	高杯	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大昔、その他中少	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ナデ	脚部ヘラミガキ、ヨコナデ	穿孔２孔?
295	42		弥生土器	高杯	S R01	5/8	長石・石英大多、その他小少	内外：5Y R5/6　明赤褐	マメツ	マメツ	穿孔３孔
296	42		弥生土器	高杯	S R01	1/8	雲母小昔、長石・石英中多、その他中昔	内外：5Y R5/6　明赤褐	マメツ	マメツ	穿孔２孔
297	42		弥生土器	高杯	S R01	2/8	雲母小少、角閃石少昔、長石・石英中昔、その他大少	内外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
298	42	34	弥生土器	高杯	S R01	8/8	雲母中昔、長石・石英中昔、その他中昔	内外：5Y R6/6　橙	口縁部ヘラミガキ　脚部指ナデ、ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ　脚部指オサエ、板ナデ	穿孔６孔（２孔１対）
299	43		弥生土器	高杯小鉢	S R01	1/8	雲母小昔、長石・石英大昔、その他中少	内：5Y R6/6　橙 外：2.5Y R6/8　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	マメツ　体部ヘラケズリ	
300	43		弥生土器	高杯小鉢	S R01	1/8	長石・石英大多	内外：5Y R6/8　橙	口縁部ヨコナデ、マメツ	マメツ　体部ヘラケズリ	
301	43		弥生土器	高杯小鉢	S R01	1/8	雲母中少、角閃石中昔、長石・石英中昔	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	
302	43		弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大昔・その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
303	43		弥生土器	高杯小鉢	S R01	小片	雲母小多、角閃石中昔、長石・石英大昔	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
304	43		弥生土器	高杯	S R01	小片	雲母小少、角閃石中多、長石・石英中昔	内：7.5Y R6/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	板ナデ	ナデ	穿孔２孔（２孔１対?）
305	43		弥生土器	鉢	S R01	8/8	長石・石英大多、その他中少	内：5Y R5/6　明褐色 外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　以下ハケ	口縁部ヨコナデ　以下板ナデ、マメツ	
306	43		弥生土器	鉢	S R01	6/8		内：10Y R6/3　浅黄橙 外：10Y R6/4　浅黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	タタキ後ナデ、マメツ	
307	43		弥生土器	鉢	S R01	4/8	雲母小多、長石・石英大多、その他大少	内：5Y R6/6　橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	指オサエ、ハケ	指オサエ、ナデ	
308	43		弥生土器	鉢	S R01	1/8	雲母中昔、長石・石英大昔	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ハケ	口縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
309	43		弥生土器	鉢	S R01	小片	長石・石英大昔、その他中昔	内：7.5Y R6/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ナデ	タタキ後ナデ	
310	43		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母小昔、長石・石英中少、その他中少	内：5Y R6/8　橙 外：5Y R5/8　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
311	43		弥生土器	底部	S R01	3/8	雲母小少、長石・石英大昔、その他大少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	体部板ナデ、ヘラケズリ　脚部板ナデ	体部板ナデ脚部指オサエ	
312	43		弥生土器	底部	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大昔、その他大少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	体部板ナデ　脚部指オサエ後板ナデ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ後板ナデ	
313	43		弥生土器	小型丸底土器	S R01	3/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　胴部ヘラケズリ	ヘラミガキ	
314	43		弥生土器	小型丸底土器	S R01	7/8	雲母小昔、長石・石英中昔	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ハケ後ヨコナデ　体部ヘラミガキ	

土器観察表12

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
315	43		弥生土器	小型丸底土器	S R01	8/8	密母中砂、角閃石中少、長石・石英大砂、その他大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	体部上半指オサエ、ナデ、下半ヘラケズリ	体部上半ヨコナデ、下半ヘラミガキ	
316	43		弥生土器	小型丸底土器	S R01	8/8	粗母小砂、角閃石中多、長石・石英少砂、その他小少	内：2.5Y 6/3　にぶい黄 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
317	43	⑥,34	弥生土器	甕	S R01	3/8	密母小少、長石・石英大砂、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　以下不明	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、マメツ	煤付着
318	43	34	弥生土器	甕	S R01	7/8	密母小少、長石・石英中砂、その他小少	内外：2.5Y7/2　灰黄	不明	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	煤付着
319	43	34	弥生土器	甕	S R01	4/8	密母小少、長石・石英中砂	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	ナデ	煤付着
320	43		弥生土器	甕	S R01	2/8	角閃石中少、長石・石英大砂、その他中砂	内：2.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/6　橙	ナデ　体部指オサエ	ナデ	煤付着
321	43	34	弥生土器	甕	S R01	7/8	密母小少、長石・石英中多	内外：7.5Y R6/6　橙	指オサエ後板ナデ	ナデ	煤付着
322	43		弥生土器	底部	S R01	4/8	長石・石英大砂	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	板ナデ	タタキ	
323	43		弥生土器	底部	S R01	6/8	密母小少、長石・石英大砂、その他中少	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	指オサエ	ハケ、マメツ	
324	43	35	弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	密母小少、長石・石英大砂、その他大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	体部ナデ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
325	43	35	弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	密母小少、角閃石中少、長石・石英大砂	内外：2.5Y6/2　灰黄	指オサエ、板ナデ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
326	43		弥生土器	管状土錘	S R01	4/8	長石・石英大多、その他中少	内外：10Y R5/3　にぶい黄褐		指オサエ、ナデ	
332	45		弥生土器	壺	S R01	3/8	密母小少、長石・石英大砂、その他中少	内外：7.5Y R7/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　頸部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ、ヨコナデ	
333	45	35	弥生土器	壺	S R01	2/8	密母小砂、角閃石中少、長石・石英中砂	内外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部指オサエ後ヨコナデ　頸部板ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部板ナデ、ハケ	
334	45		弥生土器	壺	S R01	2/8	密母小多、長石・石英中少、その他中少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：10Y R4/4　褐	口縁部ヨコナデ、ハケ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	タタキ後ハケ	
335	45		弥生土器	壺	S R01	5/8	密母小少、長石・石英大少	内外：2.5Y 8/3　淡黄	口縁部ヨコナデ　体部上半ナデ、マメツ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
336	45		弥生土器	壺？	S R01	小片	密母中少、長石・石英大少、その他中砂	内：N2/　黒(浴) 外：5Y R6/6　橙	不明	マメツ	煤付着
337	45		弥生土器	底部	S R01	8/8	密母小少、長石・石英大砂、その他小少	内外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	指オサエ、マメツ	煤付着
338	47		弥生土器	壺	S R01	7/8	長石・石英大多	内：10Y R8/2　灰白 外：10Y R8/3　浅黄橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
339	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	密母小砂、角閃石中少、長石・石英中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	ヨコナデ	
340	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	密母中多、長石・石英中砂	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	頸部指オサエ後ナデ　体部指オサエ	頸部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	
341	47		弥生土器	壺	S R01	小片	密母小少、長石・石英中少、その他中砂	内外：10Y R8/3　浅黄橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
342	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	密母小砂、長石・石英大多	内外：2.5Y7/3　浅黄	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ハケ	
343	47		弥生土器	壺	S R01	3/8	密母小少、長石・石英大多	内外：10Y R7/2　にぶい黄橙	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
344	47		弥生土器	壺	S R01	小片	長石・石英大砂、その他中砂	内外：5Y R6/8　橙	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁端部波状文
345	47	35	弥生土器	壺	S R01	小片	長石・石英小少、その他小少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
346	47		弥生土器	壺	S R01	小片	長石・石英大多、その他中砂	内：2.5Y7/1　灰白 外：2.5Y6/1　黄灰	ヨコナデ	ヨコナデ	

土器観察表13

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
347	47	36	弥生土器	壺	S R01	7/8	長石・石英大多	内：2.5Y4/1　黄灰 外：10Y R6/3　浅黄橙	マメツ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	口縁端部斜格子文 頸・体部間に刺み目突帯
348	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英大皆	内：2.5Y5/1　黄灰 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部マメツ　頸部ハケ　体部指オサエ後ハケ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ　体部ハケ	□縁端部に横線波状文
349	47	36	弥生土器	壺	S R01	7/8	雲母小少、角閃石中少、長石・石英中少、その他大少	内：10Y R6/1　褐灰 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	頸部ハケ　体部上半指オサエ、下半ハケ	頸部ハケ　体部タタキ後ハケ	上下に刺突文(列点文)を配した刺み目突帯
350	47		弥生土器	壺	S R01	3/8	雲母小皆、角閃石中少、長石・石英大少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ	□縁部ヨコナデ	
351	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小皆、角閃石小少、長石・石英大皆、その他中皆	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　頸部指オサエ	□縁部ヨコナデ　頸部板ナデ	
352	47		弥生土器	壺	S R01	8/8	雲母小少、長石・石英大多	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ、ハケ　頸部以下指オサエ、ナデ	ヨコナデ、ハケ	
353	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小皆、角閃石小皆、長石・石英大少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	
354	47		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母大皆、長石・石英大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁・頸部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　頸部以下ハケ	
355	47		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中少、その他小皆	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
356	47		弥生土器	壺	S R01	3/8	雲母小少、長石・石英小少、その他小少	内外：2.5Y7/3　浅黄	指オサエ	ヘラミガキ	
357	48		弥生土器	壺	S R01	5/8	雲母小皆、長石・石英大皆、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　頸・体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁・頸部ヨコナデ　体部ハケ後ヘラミガキ	
358	48	36	弥生土器	壺	S R01	5/8	雲母中少、長石・石英中皆、その他中皆	内：2.5Y7/3　浅黄 外：7.5Y 6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　頸・体部上半マメツ、下半ヘラミガキ	頸部へラ描沈による線刻
359	48		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母中皆、角閃石中皆、長石・石英大少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ	
360	48		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母中皆、長石・石英中皆	内外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	マメツ、ハケ	
361	48		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母中皆、長石・石英中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
362	48		弥生土器	壺	S R01	3/8	雲母中少、角閃石中少、長石・石英小皆	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	指オサエ後ナデ	マメツ	
363	48	36	弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大少、その他中少	内外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部上半タタキ、下半タタキ後板ナデ	
364	48		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母小皆、長石・石英大皆	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ、マメツ	
365	48		弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英中皆、その他中多	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ、指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部上半タタキ、下半タタキ後ハケ	
366	48	36	弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大皆、その他中皆	内外：2.5Y8/3　淡黄	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	
367	48		弥生土器	甕	S R01	7/8	雲母大多、長石・石英中少	内：2.5Y3/1　黒褐 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ハケ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
368	48		弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英中皆	内外：2.5Y7/3　浅黄	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ、マメツ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ、マメツ	
369	48		弥生土器	甕	S R01	5/8	長石・石英大少、その他中少	内外：2.5Y8/2　灰白	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ、ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ナデ	
370	48		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英中少、その他小皆	内：10Y R4/2　灰黄褐 外：10Y R7/2　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
371	48		弥生土器	甕	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大皆、その他中少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ハケ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ナデ	

土器観察表14

番号	掲図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
372	49		弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母中砂、長石・石英大少、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
373	49		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英大多	内：5Y8/2　灰白 外：2.5Y8/2　灰白	□縁部ヨコナデ、ハケ　体部指オサエ、マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
374	49		弥生土器	壺	S R01	2/8	長石・石英大多、その他中砂	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ、マメツ	
375	49		弥生土器	壺	S R01	2/8	長石・石英大多	内：10Y R8/3　浅黄橙 外：2.5Y8/2　灰白	□縁部ハケ、マメツ　体部指オサエ、マメツ	□縁部マメツ　体部タタキ後ハケ、マメツ	
376	49		弥生土器	甕	S R01	3/8	長石・石英大多	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ナデ	
377	49		弥生土器	甕	S R01	6/8	長石・石英大多	内：10Y R4/2　灰黄褐 外：5Y R7/6　橙	板ナデ	マメツ	
378	49		弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大多	内外：7.5Y R7/6　橙	指オサエ、ナデ	タタキ、マメツ	
379	49	36	弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大普	内外：2.5Y7/3　浅黄	□縁・体部上半指オサエ後ナデ、下半ヘラケズリ	□縁部指オサエ　体部マメツ	
380	49		弥生土器	甕	S R01	6/8	長石・石英中少、その他中少	内外：10Y R8/3　浅黄橙	□縁部ハケ　体部上半指オサエ後ハケ、下半指オサエ	ハケ	
381	49		弥生土器	甕	S R01	2/8	長石・石英大多	内外：2.5Y8/2　灰白	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
382	49		弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英大多、その他中普	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	
383	49		弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英大普、その他中普	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部指オサエ後板ナデ、ハケ	□縁部指オサエ後ハケ　体部ハケ	
384	49		弥生土器	甕	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英大少	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：10Y R7/2　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
385	49		弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英中普、その他小少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ハケ後ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
386	49		弥生土器	甕	S R01	小片	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内：7.5Y R7/4　にぶい橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
387	49		弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英中少、その他大少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部マメツ　体部板ナデ	□縁部マメツ　体部マメツ	
388	49	36	弥生土器	甕	S R01	小片	雲母小普、長石・石英中普	内外：2.5Y7/3　浅黄	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
389	49		弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英大普、その他小少	内：2.5Y7/3　浅黄 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ハケ	
390	49		弥生土器	底部	S R01	6/8	長石・石英中少、その他小普	内外：10Y R7/2　にぶい黄橙	ヘラケズリ、指オサエ	ハケ後ヘラミガキ	
391	50		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母中普、長石・石英中普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部上半ナデ、下半ヘラミガキ	煤付着
392	50		弥生土器	壺	S R01	1/8	雲母中少、角閃石小普、長石・石英中普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ハケ後ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
393	50		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母中少、角閃石中少、長石・石英中少、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
394	50		弥生土器	壺	S R01	2/8	角閃石中普、長石・石英中少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
395	50		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中少、その他中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
396	50	36	弥生土器	壺	S R01	7/8	長石・石英大普、その他中普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	
397	50		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母小少、角閃石小普、長石・石英小普、その他小少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、マメツ	

土器観察表15

番号	神図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
398	50		弥生土器	底部	S R01	5/8	雲母小少、長石・石英大普	内：10Y R4/6　褐 外：10Y R4/3　にぶい黄褐	ヘラケズリ、板ナデ	ハケ、ヘラミガキ	底付壺
399	50		弥生土器	底部	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大普	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R7/6　橙	板ナデ	板ナデ	木葉圧痕
400	50		弥生土器	底部	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英中普	内：10Y R4/1　褐灰 外：7.5Y R7/4　にぶい橙	板ナデ	タタキ	木葉圧痕
401	50		弥生土器	底部	S R01	6/8	長石・石英大多、その他小少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	板ナデ	タタキ	木葉圧痕
402	50		弥生土器	底部	S R01	6/8	雲母中普、長石・石英大少	内：2.5Y 6/3　にぶい黄 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	板ナデ	板ナデ	木葉圧痕
403	50		弥生土器	甕	S R01	8/8	雲母中普、長石・石英中普、その他小少	内：10Y R5/1　褐灰 外：7.5Y R7/4　にぶい橙	ハケ、指オサエ	タタキ	穿孔１孔
404	50		弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大多、その他大少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	板ナデ	板ナデ、指オサエ	穿孔１孔
405	50		弥生土器	甕	S R01	3/8	長石・石英大普	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ハケ、マメツ	マメツ	穿孔２孔
406	50		弥生土器	底部	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内：2.5Y 3/1　黒褐 外：10Y R6/3　浅黄橙	ハケ	ハケ後ヨコナデ	
407	50	37	弥生土器	高杯	S R01	4/8	長石・石英中少、その他中少	内外：7.5Y R6/3　浅黄橙	マメツ	マメツ	穿孔４孔
408	50		弥生土器	高杯	S R01	2/8	長石・石英中少、その他小少	内外：5Y R6/6　橙	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
409	50		弥生土器	高杯	S R01	1/8	雲母小普、長石・石英大少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	赤色顔料付着
410	50		弥生土器	高杯	S R01	5/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ナデ	
411	50		弥生土器	高杯	S R01	小片	長石・石英大少、その他中普	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
412	50		弥生土器	高杯	S R01	小片	長石・石英中多	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、マメツ	
413	50		弥生土器	高杯	S R01	3/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中多	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：5Y R6/6　橙	マメツ	マメツ	穿孔１孔
414	50		弥生土器	高杯	S R01	4/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中普、その他中少	内外：2.5Y 7/3　浅黄	ナデ	ナデ	穿孔４孔
415	50		弥生土器	高杯	S R01	6/8	長石・石英大普	内：7.5Y R8/2　灰白 外：2.5Y R7/4　淡赤橙	マメツ	マメツ	穿孔４孔
416	50		弥生土器	高杯	S R01	8/8	雲母小少、長石・石英大普、その他小少	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ナデ	ヘラミガキ、マメツ	穿孔４孔
417	51	37	弥生土器	高杯	S R01	7/8	雲母大普、角閃石小少、長石・石英中普、その他中少	内外：5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部四分割ヘラミガキ　脚部ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
418	51		弥生土器	高杯	S R01	8/8	角閃石中少、長石・石英中普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	体部四分割ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ	体部板ナデ、ヘラケズリ　脚部板ナデ	
419	51		弥生土器	高杯	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：5Y R5/8　明赤褐	ヘラケズリ	ナデ	穿孔２孔（２孔１対）
420	51		弥生土器	高杯	S R01	小片	雲母小普、角閃石小少、長石・石英小普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ヘラケズリ	ヘラミガキ	穿孔１孔
421	51		弥生土器	高杯か鉢	S R01	小片	角閃石小少、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
422	51		弥生土器	鉢	S R01	小片	雲母小普、角閃石小少、長石・石英大普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ、マメツ	
423	51		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母小普、長石・石英大多	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	

土器観察表16

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
424	51	37	弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母中少、長石・石英大多	内外：2.5Y7/2　灰黄	□縁部ヨコナデ　体部回分割ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
425	51		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母中普、角閃石中普、長石・石英中普、その他中少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部回分割ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
426	51	37	弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英中普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
427	51		弥生土器	鉢	S R01	2/8	雲母中普、長石・石英大少	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：2.5Y4/1　黄灰	□縁部ヨコナデ、指オサエ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
428	51		弥生土器	鉢	S R01	小片	雲母中多、角閃石中少、長石・石英中少	内外：5Y R6/8　橙	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ、マメツ	
429	51		弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母小普、長石・石英大多	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	マメツ	
430	51		弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	
431	51		弥生土器	鉢	S R01	7/8	長石・石英大普、その他中少	内：10Y R6/3　浅黄橙 外：10Y R8/2　灰白	ハケ、マメツ	マメツ	
432	51		弥生土器	鉢	S R01	7/8	長石・石英大多	内：2.5Y R6/8　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ、マメツ	ナデ、マメツ	底部ヘラ描き
433	51		弥生土器	鉢	S R01	4/8	雲母小少、長石・石英中普、その他小少	内：2.5Y6/3　にぶい黄 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ハケ	タタキ後ナデ	
434	51	37	弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母小多、長石・石英大少、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ	指オサエ、ナデ	
435	51		弥生土器	鉢	S R01	4/8	雲母小少、長石・石英大多	内外：7.5Y R7/4　にぶい橙	ハケ	タタキ後ナデ	
436	51		弥生土器	鉢	S R01	5/8	雲母中多、長石・石英中普	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　底部指オサエ	上半マメツ　下半ヘラケズリ	
437	51		弥生土器	鉢	S R01	4/8	雲母中少、長石・石英中普、その他中普	内：5Y R6/8　橙 外：5Y R7/6　橙	板ナデ、マメツ	板ナデ、マメツ	
438	52		弥生土器	鉢	S R01	8/8	雲母中普、長石・石英大少	内：2.5Y R5/6　明赤褐 外：5Y R5/4　にぶい赤褐	ハケ、指オサエ	指オサエ、ナデ	
439	52		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母中少、長石・石英大普、その他大普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ	ナデ	
440	52		弥生土器	鉢	S R01	1/8	雲母小少、長石・石英大少	内外：2.5Y7/3　淡黄	ハケ、マメツ	ハケ、マメツ	
441	52		弥生土器	鉢	S R01	5/8	雲母中普、長石・石英中少	内：10Y R3/4　にぶい黄褐 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	板ナデ	タタキ後ナデ	
442	52		弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母中多、長石・石英中普	内外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	ナデ、マメツ　底部ヘラケズリ	
443	52		弥生土器	鉢	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	ハケ後ヘラミガキ	タタキ後ナデ、ヘラケズリ	
444	52	37	弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母中少、長石・石英中少、その他中少	内：5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/6　橙	指オサエ、マメツ	タタキ、マメツ	
445	52		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	ハケ	マメツ	
446	52		弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母大普、長石・石英大少	内外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	タタキ後ナデ	
447	52		弥生土器	鉢	S R01	7/8	雲母小少、長石・石英大普	内：7.5Y R7/2　明褐灰 外：10Y R7/2　にぶい黄橙	ハケ、マメツ	マメツ	
448	52		弥生土器	鉢	S R01	7/8	長石・石英大普、その他中少	内外：2.5Y7/3　浅黄	指オサエ、ナデ	タタキ、ヘラケズリ、ナデ	
449	52		弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英中少、その他中少	内外：5Y R7/6　橙	ハケ	タタキ	
450	52	37	弥生土器	鉢	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y6/3　にぶい黄	指オサエ後板ナデ　脚部指オサエ	体部指オサエ後板ナデ　脚部指オサエ	
451	52		弥生土器	鉢	S R01	5/8	長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	ハケ	タタキ後ナデ	
452	52		弥生土器	鉢	S R01	3/8	雲母中少、長石・石英大普	内外：2.5Y7/2　灰黄	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	

土器観察表17

番号	掲図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
453	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	2/8	角閃石小少、長石・石英中普	内：10Y R6/4 にぶい黄橙 外：10Y R6/3 にぶい黄橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ 体部ヘラケズリ、指オサエ	口縁部ヘラミガキ 体部指オサエ、ヘラミガキ	
454	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	3/8	雲母中普、長石・石英中普、その他大少	内外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ 体部指オサエ	マメツ	
455	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	小片	雲母小少、角閃石大普、長石・石英中少	内：2.5Y6/2 灰黄 外：10Y R6/3 にぶい黄橙	指オサエ後ヨコナデ	マメツ	
456	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	小片	雲母小少、長石・石英大普	内：7.5Y R6/3 にぶい褐 外：7.5Y R5/4 にぶい褐	指オサエ後ヨコナデ 体部指オサエ、板ナデ	口縁部上半ヨコナデ 下半・体部ヘラミガキ	
457	52	38	弥生土器	小型丸底土器	S R01	3/8	雲母中少、角閃石中少、長石・石英中少、その他中少	内外：7.5Y R6/6 橙	マメツ、指オサエ	マメツ	
458	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	5/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：7.5Y R6/4 にぶい橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ	ヘラミガキ	
459	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	8/8	長石・石英大普、その他大普	内：5Y R6/6 橙 外：10Y R6/4 にぶい黄橙	指オサエ、マメツ	ヘラミガキ	
460	52	38	弥生土器	小型丸底土器	S R01	8/8	長石・石英大少、その他中少	内：7.5Y R7/4 にぶい橙 外：10Y R7/3 にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ 底部指オサエ後ナデ	口縁部上半ヨコナデ 下半・体部ハケ	
461	52		弥生土器	小型丸底土器	S R01	8/8	角閃石中少、長石・石英大普	内：2.5Y R3/1 黄灰 外：7.5Y R7/6 橙	指オサエ、マメツ	指オサエ、マメツ	
462	52		弥生土器	製塩土器	S R01	6/8	角閃石小少、長石・石英大少、その他小普	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：10Y R6/3 にぶい黄橙	体部指オサエ 脚部指オサエ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
463	52		弥生土器	製塩土器	S R01	7/8	角閃石中普、長石・石英中普	内：10Y R7/3 にぶい黄橙 外：7.5Y R7/4 にぶい橙	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
464	52		弥生土器	製塩土器	S R01	7/8	雲母小普、長石・石英大少	内：10Y R6/4 にぶい黄橙 外：7.5Y R5/3 にぶい褐	板ナデ	ヘラケズリ	
465	52		弥生土器	製塩土器	S R01	5/8	雲母中多	内外：2.5Y6/3 にぶい黄	板ナデ	ヘラケズリ	
466	52		弥生土器	製塩土器	S R01	5/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：10Y R7/3 にぶい黄橙	板ナデ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
467	52		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	雲母小普、長石・石英大少	内外：2.5Y5/2 暗灰黄	体部板ナデ 脚部ナデ	体部ヘラケズリ 脚部板ナデ	
468	52		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	雲母小少、角閃石中少、長石・石英中少	内外：2.5Y6/2 灰黄	体部指オサエ 脚部指オサエ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
469	52		弥生土器	製塩土器	S R01	8/8	雲母小少、角閃石小普、長石・石英大普、その他小普	内：10Y R6/3 にぶい黄橙 外：10Y R6/4 にぶい黄橙	体部ナデ、指オサエ 脚部指オサエ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
470	52		弥生土器	製塩土器	S R01	6/8	長石・石英大普	内：2.5Y4/1 黄灰 外：10Y R5/2 灰黄褐	板ナデ	体部ヘラケズリ 脚部指オサエ	
471	52		弥生土器	製塩土器	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大普	内：10Y R7/4 にぶい黄橙 外：10Y R7/3 にぶい黄橙	マメツ 脚部指オサエ	体部マメツ 脚部指オサエ	
472	52		弥生土器	製塩土器	S R01	3/8	長石・石英大少	内外：10Y R6/4 にぶい黄橙	板ナデ	体部タタキ 脚部指オサエ	
473	52		弥生土器	ミニチュア	S R01	7/8	長石・石英大普、その他小少	内外：10Y R7/3 にぶい黄橙	指オサエ後ナデ	マメツ	
474	52	38	弥生土器	ミニチュア	S R01	8/8	長石・石英中普、その他中普	内外：10Y R8/3 浅黄橙	口縁部ハケ 体部指オサエ	指オサエ	
475	52		弥生土器	ミニチュア	S R01	6/8	その他小少	内外：2.5Y8/2 灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	
476	52		弥生土器	器種不明	S R01	小片	雲母小普、長石・石英大少	内：10Y R5/2 灰黄褐 外：10Y R6/4 にぶい黄橙	マメツ	マメツ	ヘラ描による線刻
477	52	38	弥生土器	壺	S R01	小片	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内：10Y R7/3 にぶい黄橙 外：10Y R1.7/1 黒	ヨコナデ	ヨコナデ	櫛付簾
478	52		弥生土器	壺	S R01	小片	雲母中多、長石・石英大普、その他中少	内：2.5Y5/3 黄褐 外：2.5Y6/3 にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ	櫛付簾
479	52		弥生土器	壺	S R01	2/8	雲母中普、角閃石少普、長石・石英少普、その他中少	内外：5Y R6/6 橙	不明	ヨコナデ	櫛付簾
480	53	3	弥生土器	壺	S R01	2/8	長石・石英大多、その他中普	内：7.5Y R7/6 橙 外：5Y R7/6 橙	不明	ハケ、マメツ	櫛付簾

土器観察表18

番号	掃図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
481	53	38	弥生土器	甕	S R01	7/8	長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y8/3　淡黄	不明	マメツ	櫛付着
482	53	38	弥生土器	甕	S R01	6/8	雲母小少、長石・石英大多、その他小少	内：10Y R1.7/1　黒 外：2.5Y6/2　にぶい黄	不明	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	櫛付着
483	53	39	弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英中骨、その他中多	内外：7.5Y R7/4　にぶい橙	ハケ	ハケ	櫛付着
484	53	3	弥生土器	甕	S R01	小片	長石・石英中少、その他小骨	内:5Y R7/8　橙 外:7.5Y R7/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部不明	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	櫛付着
485	53	39	弥生土器	鉢	S R01	2/8	雲母小少、長石・石英小少、その他小少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	不明	ナデ	櫛付着
486	53	39	弥生土器	鉢	S R01	4/8	雲母中骨、角閃石小少、長石・石英大少	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：5Y R7/4　にぶい橙	ハケ	ハケ	櫛付着
487	53		弥生土器	底部	S R01	2/8	長石・石英大多	内：10Y R5/2　灰黄褐 外：5Y R6/6　橙	マメツ	マメツ	櫛付着
488	53		弥生土器	底部	S R01	小片	長石・石英大骨	内：2.5Y6/3　にぶい黄 外：10Y R3/1　黒褐	不明	ハケ	櫛付着
496	56		弥生土器	壺	S R02	5/8	雲母小少、長石・石英中多、その他中骨	内：10Y R5/2　灰黄褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁・頸部ヨコナデ　体部指オサエ	口縁・頸部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ	
497	56	40	弥生土器	壺	S R02	6/8	雲母小少、長石・石英大骨	内：10Y R8/3　浅黄橙 外：10Y R8/2　灰白	口縁部ヨコナデ　頸部マメツ	ヨコナデ	口縁部に山形文、刻み目
498	56		弥生土器	壺	S R02	1/8	雲母中骨、角閃石小少、長石・石英少少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　頸部以下指オサエ、マメツ	口縁部ヨコナデ　頸部ヨコナデ　体部マメツ	
499	56		弥生土器	壺	S R02	1/8	雲母小少、角閃石中骨、長石・石英小少、その他小少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
500	56		弥生土器	壺	S R02	小片	雲母中骨、長石・石英中少	内外：2.5Y7/2　灰黄	マメツ	マメツ	
501	56		弥生土器	壺	S R02	小片	角閃石中少、長石・石英中少、その他小少	内：2.5Y7/3　浅黄 外：2.5Y6/3　にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁端部に竹管文
502	56	40	弥生土器	壺	S R02	小片	雲母小骨、長石・石英大少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁端部山形文、波状文
503	56	40	弥生土器	甕	S R02	2/8	雲母小多、角閃石小少、長石・石英少骨	内外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部タタキ、マメツ	
504	56		弥生土器	甕	S R02	2/8	長石・石英中少、その他小骨	内：2.5Y7/2　灰黄 外：2.5Y7/3　浅黄	マメツ	マメツ	
505	56		弥生土器	鉢	S R02	3/8	雲母小多、長石・石英中骨、その他中少	内：7.5Y R7/4　にぶい橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半タタキ後ヘラミガキ	
506	56		弥生土器	高杯か鉢	S R02	3/8	雲母小少、長石・石英大骨、その他大少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部マメツ　体部ヘラケズリ	
507	56		弥生土器	鉢	S R02	4/8	長石・石英大多、その他大骨	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R7/6　橙	板ナデ	板ナデ	
508	56		弥生土器	鉢	S R02	小片	角閃石中骨、長石・石英中骨	内外：5Y R6/6　橙	ヘラケズリ、指オサエ	マメツ	
509	56		弥生土器	甑	S R02	小片	長石・石英大骨	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：2.5Y7/3　浅黄	指オサエ	タタキ、マメツ	穿孔１孔
510	56		弥生土器	土錘	S R02	5/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y7/2　灰黄		指オサエ後ナデ	
511	56	40	弥生土器	土鈴	S R02	4/8	長石・石英大多	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	指オサエ、ナデ	ナデ、マメツ	穿孔１孔
512	56	40	弥生土器	小型丸底土器	S R02	6/8	雲母中骨、長石・石英大少、その他中少	内：10Y R4/1　褐灰 外：10Y R6/2　灰黄褐	指オサエ後ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部マメツ　体部ヘラミガキ	
513	56		弥生土器	小型丸底土器	S R02	2/8	雲母中骨、角閃石大少、長石・石英中骨	内外：2.5Y6/3　にぶい黄	口縁部指オサエ、マメツ	マメツ	
514	56		弥生土器	小型丸底土器	S R02	2/8	雲母小骨、角閃石中少、長石・石英中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部指オサエ、ヨコナデ　体部ヘラケズリ	マメツ	

土器観察表19

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
516	57		弥生土器	壺	S R 02	1/8	雲母小少、角閃石中少、長石・石英中普、その他大少	内外：2.5Y 8/2　灰白	マメツ	マメツ	
517	57		弥生土器	壺	S R 02	小片	雲母小多、長石・石英大多、その他中少	内：5Y R 6/6　橙 外：7.5Y R 5/6　明褐	ヨコナデ	ヨコナデ	□縁端部に半截竹管文
518	57	40	弥生土器	壺	S R 02	2/8	長石・石英大普、その他中多	内：10Y R 5/1　褐灰 外：5Y R 7/4　にぶい橙	□縁・頸部マメツ　体部指オサエ	マメツ	竹管文、半截竹管文、山形文、波状文等で加飾
519	57		弥生土器	壺	S R 02	1/8	雲母小多、長石・石英中普、その他中少	内：2.5Y 5/2　暗灰黄 外：2.5Y 4/1 黄灰	ヨコナデ　板ナデ	ヨコナデ	四線文６条
520	57		弥生土器	壺	S R 02	1/8	長石・石英大普、その他大少	内外：2.5Y 8/3　淡黄	マメツ	マメツ	
521	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母中少、長石・石英大普、その他中普	内外：7.5Y R 6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　頸部指オサエ後ナデ	マメツ	
522	57	40	弥生土器	壺	S R 02	8/8	雲母小普、長石・石英大多、その他小普	内：5Y R 5/4　にぶい赤褐 外：7.5Y R 6/4　にぶい橙	□縁部マメツ　頸部指オサエ後ナデ	□縁部ヨコナデ　頸部ナデ	
523	57		弥生土器	壺	S R 02	1/8	雲母中多、角閃石中普、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R 6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　頸部板ナデ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
524	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：10Y R 6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ後ナデ	□縁部ヨコナデ　頸部ハケ	
525	57		弥生土器	壺	S R 02	5/8	雲母小多、長石・石英大多	内：7.5Y R 5/3　にぶい褐 外：7.5Y R 6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ハケ	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
526	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母小普、長石・石英中普	内外：7.5Y R 5/3　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　頸部・体部指オサエ	□縁・頸部ヨコナデ　体部板ナデ	
527	57		弥生土器	壺	S R 02	小片	雲母中普、長石・石英大普	内外：7.5Y R 5/6　明褐	ヨコナデ	ヨコナデ	□縁端部に半截竹管文、ヘラ描き沈線１条
528	57	40	弥生土器	壺	S R 02	6/8	雲母中普、角閃石小普、長石・石英中普、その他中少	内外：7.5Y R 5/6　明褐	□縁部指オサエ後ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半板ナデ	□縁部ヨコナデ、以下マメツ	
529	57		弥生土器	壺	S R 02	4/8	角閃石中普、長石・石英中普、その他中普	内外：7.5Y R 6/6　橙	指オサエ、板ナデ	指オサエ、ヘラミガキ	
530	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大多、その他小少	内：10Y R 3/1　黒褐 外：10Y R 6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
531	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母中少、長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y 6/3　にぶい黄	□縁部ヨコナデ　体部上半板ナデ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
532	57		弥生土器	壺	S R 02	4/8	雲母小多、長石・石英大普、その他大少	内：10Y R 5/2　灰黄褐 外：7.5Y R 6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後タタキ後ナデ	
533	57	41	弥生土器	壺	S R 02	6/8	長石・石英大少	内外：10Y R 8/3　浅黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ、ハケ	
534	57		弥生土器	壺	S R 02	1/8	長石・石英大普、その他小少	内：7.5Y R 6/4　にぶい橙 外：10Y R 6/3　にぶい黄橙	マメツ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ、ハケ	
535	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母小少、長石・石英中多	内外：10Y R 7/3　にぶい黄橙	□縁部板ナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
536	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	雲母小少、長石・石英中少	内外：7.5Y R 6/4　にぶい橙	□縁部マメツ　体部板ナデ	□縁部タタキ後ナデ　体部タタキ	
537	57		弥生土器	壺	S R 02	2/8	長石・石英中普、その他小少	内外：10Y R 6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	
538	58		弥生土器	壺	S R 02	6/8	長石・石英大多、その他小少	内：2.5Y 8/3　淡黄 外：10Y R 8/3　淡黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	□縁・体部上半タタキ後ヨコナデ、下半板ナデ	
539	58		弥生土器	壺	S R 02	1/8	雲母小普、長石・石英中少	内外：7.5Y R 6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ、マメツ	
540	58		弥生土器	壺	S R 02	小片	長石・石英中多	内外：2.5Y 6/4　にぶい黄	□縁部指オサエ、ヨコナデ　体部ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ	□縁端部沈線３条

土器観察表20

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
541	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	雲母小砂、長石・石英大少、その他小少	内：2.5Y7/3　浅黄 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ハケ　体部タタキ後ナデ	
542	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	長石・石英大多、その他小少	内外：10Y R5/3　にぶい黄褐	□縁部指オサエ、ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
543	58		弥生土器	甕	S R02	6/8	雲母大多、長石・石英大多	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部板ナデ	□縁部ヨコナデ　体部タタキ後ハケ、マメツ	
544	58	41	弥生土器	甕	S R02	6/8	雲母小少、長石・石英大多	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ハケ　体部ハケ後ナデ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
545	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中少	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：2.5Y7/3　淡黄	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ヘラミガキ	
546	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	長石・石英大多	内外：7.5Y R4/2　灰褐	指オサエ、マメツ	マメツ	
547	58		弥生土器	甕	S R02	小片	雲母中少、長石・石英中普	内外：2.5Y6/3　にぶい黄	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
548	58		弥生土器	甕	S R02	小片	長石・石英中普、その他小香	内外：2.5Y7/3　浅黄	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
549	58		弥生土器	甕	S R02	4/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中香	内外：7.5Y R7/6　橙	□縁部マメツ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部マメツ　体部ハケ	
550	58		弥生土器	甕	S R02	4/8	雲母大普、長石・石英大普、その他大少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
551	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	雲母小普、長石・石英小少	内：2.5Y R5/6　明赤褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
552	58		弥生土器	甕	S R02	4/8	長石・石英大多、その他中少	内：7.5Y R4/4　褐 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部上半板ナデ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
553	58		弥生土器	甕	S R02	1/8	雲母中普、角閃石中少、長石・石英中普、その他小少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	指オサエ、マメツ	マメツ	
554	58		弥生土器	甕	S R02	4/8	雲母小多、角閃石小少、長石・石英中普、その他小少	内外：5Y R5/6　明赤褐	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
555	58		弥生土器	甕	S R02	1/8	雲母中多、角閃石中少、長石・石英中普、その他大少	内外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ後板ナデ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
556	58		弥生土器	甕	S R02	1/8	雲母小少、長石・石英大少、その他中少	内外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
557	58		弥生土器	甕	S R02	2/8	雲母小少、角閃石中普、長石・石英小少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
558	58		弥生土器	甕	S R02	4/8	雲母中多、角閃石中普、長石・石英中少、その他中普	内：10Y R5/4　にぶい黄褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ハケ	
559	58		弥生土器	甕	S R02	1/8	雲母小普、角閃石中普、長石・石英中少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	□縁部ヨコナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	□縁部ヨコナデ　体部上半ハケ、下半ハケ後ヘラミガキ	
560	58		弥生土器	甕	S R02	小片	雲母小少、角閃石中普、長石・石英中少、その他中普	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部指オサエ	□縁部ヨコナデ　体部ハケ	
561	59		弥生土器	底部	S R02	7/8	雲母小少、長石・石英大普、その他小少	内外：2.5Y7/3　浅黄	板ナデ、マメツ	タタキ後ハケ、マメツ	
562	59		弥生土器	底部	S R02	8/8	長石・石英大普	内外：10Y R8/3　浅黄橙	ハケ	ヘラケズリ	
563	59		弥生土器	底部	S R02	5/8	長石・石英大多、その他中少	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	ナデ、マメツ	タタキ後ナデ	
564	59		弥生土器	底部	S R02	7/8	長石・石英大多、その他大香	内：2.5Y7/4　浅黄 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	マメツ	ヘラケズリ	
565	59		弥生土器	底部	S R02	4/8	長石・石英大普、その他大少	内：2.5Y6/3　灰黄 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	板ナデ	マメツ（下半板ナデ）	
566	59		弥生土器	底部	S R02	4/8	長石・石英大多	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：2.5Y6/3　にぶい黄	指オサエ、ナデ	ハケ、マメツ	
567	59		弥生土器	底部	S R02	5/8	長石・石英中多、その他中少	内：2.5Y5/1　黄灰 外：10Y R7/2　にぶい黄橙	指オサエ後ハケ	タタキ後ハケ	

土器観察表21

番号	縮図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
568	59		弥生土器	底部	S R02	5/8	雲母小砂、長石・石英大砂	内外：7.5Y R6/6　橙	ハケ	ハケ	
569	59		弥生土器	底部	S R02	8/8	雲母中少、長石・石英中砂、その他中砂	内外：2.5Y 8/3　淡黄	指オサエ、マメツ	マメツ(板状工具による圧痕)	
570	59		弥生土器	底部	S R02	5/8	雲母小少、長石・石英大多	内：7.5Y R7/4　にぶい橙 外：2.5Y 7/3　浅黄	ヘラケズリ	ヘラミガキ	
571	59		弥生土器	底部	S R02	7/8	雲母中多、角閃石中砂、長石・石英中砂、その他大少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	ヘラケズリ、指オサエ	ヘラミガキ	
572	59		弥生土器	底部	S R02	7/8	雲母中砂、角閃石大砂、長石・石英中砂、その他中少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R4/3　にぶい黄褐	マメツ	ヘラミガキ	
573	59		弥生土器	底部	S R02	6/8	雲母小少、長石・石英大砂	内：2.5Y 6/3　にぶい黄 外：2.5Y　6/2　灰黄	ナデ	ハケ、指オサエ	
574	59		弥生土器	底部	S R02	8/8	雲母小少、長石・石英中砂	内外：2.5Y 5/2　暗灰黄	マメツ	板ナデ後ヘラミガキ	赤色顔料付着
575	59		弥生土器	底部	S R02	7/8	雲母小少、長石・石英大砂	内：2.5Y 6/3　にぶい黄 外：2.5Y 7/4　浅黄	ハケ	タタキ後ナデ	木葉圧痕
576	59		弥生土器	底部	S R02	4/8	長石・石英大多、その他中砂	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	マメツ	板ナデ、マメツ	木葉圧痕
577	59		弥生土器	高杯	S R02	2/8	長石・石英大多	内外：5Y R6/8　橙	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
578	59		弥生土器	高杯	S R02	小片	雲母小多、長石・石英大砂、その他中砂	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	
579	59		弥生土器	高杯	S R02	小片	角閃石中砂、長石・石英中砂、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	ヘラケズリ	マメツ	穿孔２孔（２孔１対?）
580	59		弥生土器	高杯	S R02	6/8	雲母中少、長石・石英中砂	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	体部四分割ヘラミガキ　脚部板ナデ	板ナデ	穿孔３孔
581	59		弥生土器	高杯	S R02	2/8	雲母中砂、角閃石小少、長石・石英中少、その他中少	内：7.5Y R4/2　灰褐 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	ヘラケズリ	ナデ	穿孔２孔
582	59	41	弥生土器	高杯	S R02	6/8	雲母中多、長石・石英中砂、その他中少	内：10Y R6/2　灰黄褐 外：10Y R5/2　灰黄褐	板ナデ	指オサエ、ナデ	穿孔２孔（２孔１対）
583	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	1/8	雲母中砂、長石・石英小少、その他大少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
584	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	4/8	雲母小砂、角閃石中砂、長石・石英大砂、その他大砂	内外：5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
585	59		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母中砂、角閃石小少、長石・石英中砂、その他中砂	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
586	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	1/8	角閃石大砂、長石・石英大砂	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/6　橙	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
587	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	小片	雲母小少、長石・石英中多、その他中少	内外：2.5Y 7/3　浅黄	□縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
588	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	小片	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大砂、その他大砂	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ハケ後ヘラミガキ	□縁部マメツ　体部ヘラケズリ	
589	59		弥生土器	高杯か鉢	S R02	小片	雲母中砂、角閃石小少、長石・石英中少、その他大少	内：10Y R6/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	
590	59		弥生土器	鉢	S R02	小片	雲母中砂、角閃石小少、長石・石英中砂その他中少	内：5Y R5/8　明赤褐 外：7.5Y R5/6　明褐	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
591	60		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母小多、長石・石英大多	内外：7.5Y R5/6　明褐	□縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
592	60		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母小砂、角閃石中少、長石・石英中砂、その他中砂	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	□縁部ヨコナデ　体部ハケ後ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
593	60		弥生土器	鉢	S R02	2/8	角閃石少砂、長石・石英大砂、その他大少	内：7.5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	□縁部ヨコナデ　体部四分割ヘラミガキ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ後ヘラミガキ	
594	60		弥生土器	鉢	S R02	4/8	雲母小砂、角閃石大多、長石・石英中砂	内外：7.5Y R5/6明褐	□縁部ヨコナデ　体部マメツ	□縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	

土器観察表22

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
595	60		弥生土器	鉢	S R02	4/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英大普、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
596	60		弥生土器	高杯か鉢	S R02	4/8	雲母小普、角閃石中普、長石・石英中普、その他大普	内：5Y R5/6　明赤褐 外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	口縁部マメツ　体部ヘラケズリ	
597	60		弥生土器	高杯か鉢	S R02	1/8	長石・石英大普	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
598	60		弥生土器	高杯か体	S R02	2/8	長石・石英大多、その他大少	内外：10Y R8/4　浅黄橙	マメツ	口縁部マメツ　体部ヘラケズリ	
599	60		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母中多、角閃石中普、長石・石英中少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	ヘラケズリ	
600	60		弥生土器	鉢	S R02	2/8	長石・石英大普	内外：2.5Y 8/3　淡黄	ハケ	ハケ	
601	60		弥生土器	鉢	S R02	5/8	長石・石英大多、その他中普	内：2.5Y 7/3　浅黄 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ハケ	板ナデ	
602	60		弥生土器	鉢	S R02	8/8	雲母中多、長石・石英中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	
603	60		弥生土器	鉢	S R02	7/8	その他中少	内：2.5Y 8/3　淡黄 外：10Y R6/4　浅黄橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ、指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ、指オサエ	
604	60		弥生土器	鉢	S R02	7/8	雲母小普、長石・石英大多	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ	マメツ	
605	60		弥生土器	鉢	S R02	6/8	雲母小少、長石・石英大多、その他大多	内：7.5Y R7/3　にぶい橙 外：7.5Y R5/6　明褐	ナデ	タタキ後ナデ	
606	60		弥生土器	鉢	S R02	小片	雲母中少、長石・石英大普	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：2.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	マメツ	
607	60		弥生土器	鉢	S R02	2/8	角閃石小少、長石・石英中普	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
608	60		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母小少、長石・石英中普、その他中少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、体部マメツ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
609	60		弥生土器	鉢	S R02	2/8	雲母小少、長石・石英中少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：2.5Y R5/6　明赤褐	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ後ナデ	口縁部ヨコナデ　体部板ナデ、マメツ	
610	61		弥生土器	鉢	S R02	1/8	雲母中普、長石・石英大普、その他小少	内外：2.5Y 7/3　浅黄	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ、マメツ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
611	61		弥生土器	鉢	S R02	小片	雲母小少、長石・石英大少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
612	61		弥生土器	鉢	S R02	6/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中普、その他中普	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	マメツ	マメツ	
613	61		弥生土器	鉢	S R02	小片	角閃石小少、長石・石英大多、その他中少	内外：2.5Y 7/3　浅黄	マメツ	マメツ	
614	61	41	弥生土器	壺	S R02	8/8	雲母小普、長石・石英大多、その他中普	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部不明	口縁部ヨコナデ　体部マメツ、ヘラケズリ	線付壺
615	61	41	弥生土器	底部	S R02	4/8	長石・石英大普、その他小普	内：5Y R6/6　橙 外：5Y R7/6　橙	ハケ	ハケ後ナデ	線付壺
616	61		弥生土器	小型丸底土器	S R02	7/8	角閃石中普、長石・石英中普、その他中少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R6/6　橙	口縁部指オサエ後ナデ　体部上半指オサエ、下半ヘラケズリ	マメツ	
617	61	41	弥生土器	小型丸底土器	S R02	8/8	雲母小普、角閃石小少、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
618	61		弥生土器	小型丸底土器	S R02	2/8	雲母中普、角閃石小少、長石・石英大普、その他大少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部板ナデ	マメツ	
619	61		弥生土器	小型丸底土器	S R02	2/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中普	内外：7.5Y R6/6　橙	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ、ヘラミガキ	
620	61		弥生土器	小型丸底土器	S R02	小片	雲母小少、角閃石中普、長石・石英小普、その他中少	内：10Y R6/4　にぶい橙 外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部指オサエ後ナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ　体部マメツ	
621	61		弥生土器	小型丸底土器	S R02	小片	雲母小少、角閃石小少、長石・石英中少	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ナデ　体部板ナデ	

土器観察表23

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
622	61	41	弥生土器	製塩土器	S R02	6/8	雲母小少、角閃石小少、長石・石英小少	内：7.5Y R5/6　明褐 外：10Y R5/6　黄褐	体部板ナデ　脚部指オサエ	体部タタキ後板ナデ　脚部指オサエ	
623	61	41	弥生土器	製塩土器	S R02	4/8	角閃石小少、長石・石英大普、その他小少	内外：7.5Y R5/3　にぶい褐	体部指オサエ、マメツ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部板状工具の圧痕	
624	61		弥生土器	製塩土器	S R02	5/8	雲母小少、角閃石小普、長石・石英大普	内外：2.5Y7/3　浅黄	体部マメツ　脚部指オサエ	体部　ヘラケズリ	
625	61		弥生土器	製塩土器	S R02	5/8	角閃石中少、長石・石英中普、その他小少	内：7.5Y R5/4　にぶい褐 外：7.5Y R4/3　褐	体部指オサエ、マメツ　脚部指オサエ	体部ヘラケズリ　脚部指オサエ	
626	61		弥生土器	製塩土器	S R02	7/8	長石・石英大多	内外：10Y R6/3　にぶい黄橙	体部板ナデ　脚部指オサエ	体部ハケ　脚部指オサエ	
627	62	42	土師器	皿	S K01	1/8	長石・石英大普	内：7.5Y R7/6　橙 外：5Y R6/6　橙	回転ナデ	回転ナデ	
628	62	42	土師器	瓮	S K01	1/8	雲母小少、長石・石英中多、その他大少	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	口縁部ハケ　体部上半ハケ後指オサエ、下半板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ、下半指オサエ後ハケ	
629	62	42	須恵器	杯蓋	S K01	3/8	長石・石英小少	内外：5Y6/2　灰オリーブ	回転ナデ	回転ナデ	
630	62	42	須恵器	皿	S K01	1/8	長石・石英小少	内外：5Y7/1　灰白	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	
631	62	42	須恵器	皿	S K01	1/8	長石・石英中少	内外：5Y7/1　灰白	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	
632	64	42	青磁	椀	S D03	1/8	その他少普	釉：2.5G Y6/1　オリーブ灰 胎：2.5Y7/1　灰白	施釉	鎬蓮弁、施釉	
633	64		土師器	鉢	S D03	小片	長石・石英大多	内：7.5Y R4/1　褐灰 外：7.5Y R7/4　にぶい橙	ヨコナデ	ナデ	
634	64		土師器	土鍋	S D03	小片	雲母中普、長石・石英大多	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ　体部ナデ	
635	64		陶器	瓮	S D03	小片	長石・石英小少	内：2.5Y5/1　黄灰 外：2.5Y5/2　暗灰黄	回転ナデ	回転ナデ	備前焼
636	66	42	陶器	椀	S X01	3/8	精緻	釉：5Y8/3　淡黄 胎：5Y R5/2　灰褐	施釉	櫛毛目、施釉	肥前系
637	66		陶器	椀	S X01	2/8	精緻	釉：N8/　灰白 胎：5Y6/1　灰	施釉	施釉	
638	66		陶器	皿	S X01	3/8	精緻	釉：2.5Y3/2　黒褐 胎：10Y R7/3　にぶい黄橙	施釉	底部無釉	肥前系、砂目積
639	66		陶器	皿	S X01	4/8	精緻	釉：10Y R5/1　褐灰 胎：10Y R5/2　灰黄褐	施釉	無釉	肥前系、砂目積
640	66	42	磁器	瓶	S X01	8/8	精緻	釉：7.5G Y6/1　明緑灰 胎：5Y8/1　灰白	施釉	施釉	
641	66		陶器	スリ鉢	S X01	小片	長石・石英大多、その他大普	内：10Y R6/2　灰黄褐 外：2.5Y R4/2　灰赤	回転ナデ後卸目	回転ナデ	備前焼
642	68		陶器	スリ鉢	S D04	2/8	長石・石英大少	内外：2.5Y R6/6　橙	回転ナデ後卸目	回転ナデ	明石焼
643	68		陶器	スリ鉢	S D04	3/8	長石・石英大少	内外：10R5/6　赤	回転ナデ後卸目	回転ナデ	明石焼
644	68		陶器	鉢	S D04	3/8	長石・石英大少	内：7.5Y R6/4　にぶい橙 外：7.5Y R5/4　にぶい褐	回転ナデ	回転ナデ	
645	68			軒丸瓦	S D04	小片		内外：N2/1　黒			巴文、逆珠文
646	68			軒丸瓦	S D04	小片		内外：N4/　灰			巴文
647	68			土管	S D04	4/8	雲母中普、長石・石英中普、その他中少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
648	68	42	瓦質土器	鉢部	S D04	小片	長石・石英中少、その他小普	内外：5Y3/1　オリーブ黒	回転ナデ	ヘラ描き	
649	68		土師器	鉢	S D04	2/8	長石・石英大普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ　貼り付け圧痕	
650	68			土管	S D05	小片	長石・石英中普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
651	70		弥生土器	鉢	東夜丘地区	2/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内：7.5Y R5/6　明褐 外：7.5Y R6/8　橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ	
652	70		弥生土器	底部	東夜丘地区	4/8	雲母小少、長石・石英大普、その他大少	内外：10Y R6/4　にぶい黄橙	体部上半ハケ、ナデ　下半指オサエ	ナデ	

土器観察表24

番号	掲図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
653	70		土師器	小皿	東段丘地区	6/8	長石・石英中少、その他小少	内：10Y R7/3　におい黄橙 外：10Y R8/3　浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ　底部回転ヘラ切り	
654	70		土師器	小皿	東段丘地区	4/8	長石・石英中少、その他中普	内外：10Y R7/3　におい黄橙	回転ナデ	口縁部回転ナデ　底部回転ヘラ切り	
655	70		陶器	甕	東段丘地区	小片	長石・石英大多	内：10Y R5/2　灰黄褐 外：2.5Y R4/2　灰赤	回転ナデ	回転ナデ	備前焼
657	71	42	縄文土器	浅鉢	東谷地区	小片	長石・石英中少、その他小少	内：2.5Y5/2　暗灰黄 外：2.5Y4/1　黄灰	ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ　体部貝殻条痕	口縁内面に沈線1条、穿孔1孔
658	71		弥生土器	壺	東谷地区	7/8	雲母小普、長石・石英大少、その他中少	内外：7.5Y R6/6　橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	口縁端部に山形文、竹管文
659	71		弥生土器	壺	東谷地区	小片	長石・石英大少	内外：10Y R5/2　灰黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁端部に山形文
660	71		弥生土器	壺	東谷地区	2/8	雲母小少、長石・石英大普	内外：10Y R7/6　明黄褐	マメツ	マメツ	
661	71		弥生土器	甕	東谷地区	2/8	長石・石英大普、その他中少	内：7.5Y R7/6　橙 外：7.5Y R6/6　橙	口縁部ヨコナデ　体部指オサエ後板ナデ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
662	71		弥生土器	鉢	東谷地区	7/8	雲母小少、長石・石英大多、その他中普	内外：7.5Y R5/4　におい褐	体部指オサエ後板ナデ　脚部へラケズリ、ナデ	指オサエ、マメツ	
663	71		弥生土器	小型丸底土器	東谷地区	4/8	雲母中普、長石・石英小少、その他少中	内外：7.5Y R5/6　明褐	口縁部指オサエ後ヨコナデ　体部ヘラケズリ	口縁部ハケ　体部ヘラミガキ	
664	71		弥生土器	甕	東谷地区	3/8	雲母小普、長石・石英中普、その他小普	内外：2.5Y R5/6　明赤褐	不明	マメツ	櫛付巻
665	71	43	弥生土器	器種不明	東谷地区	小片	雲母小少、長石・石英大普	内：10Y R7/4　におい黄橙 外：10Y R6/4　におい黄橙	ハケ	ナデ	ヘラ描きによる線刻
666	71			土管	東谷地区	3/8	雲母中普、長石・石英中普	内：7.5Y R5/3　におい褐 外：10Y R6/3　におい黄橙	口縁部ヨコナデ　体部ハケ、指オサエ	口縁部ヨコナデ　体部ハケ	
667	72		土師器	杯	西段丘地区	5/8	長石・石英大少、その他小少	内外：10Y R8/3　浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ　底部回転ヘラ切り	
668	72		土師器	土釜	西段丘地区	小片	長石・石英大普、その他中少	内：5Y R6/6　橙 外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	指オサエ、マメツ	
669	72		土師器	土釜	西段丘地区		雲母小少、長石・石英大普	内外：10Y R7/4　におい黄橙		ナデ	
670	72		陶器	皿	西段丘地区	8/8	精緻	内：2.5G Y7/1明オリーブ灰 外：5Y7/2　灰白	施釉	一部施釉	肥前系　砂目積
671	73		弥生土器	壺	西谷地区	2/8	雲母小少、長石・石英大普、その他中少	内外：10Y R6/4　におい黄橙	マメツ	マメツ	
672	73		弥生土器	壺	西谷地区	2/8	長石・石英大多、その他中少	内：2.5Y6/2　灰黄 外：2.5Y7/3　浅黄	マメツ	マメツ	
673	73		弥生土器	底	西谷地区	2/8	雲母小多、長石・石英大	内外：7.5Y R6/6　橙	マメツ	マメツ	竹管文・沈線1条、ヘラ描き文
674	73	43	弥生土器	甑	西谷地区	7/8	長石・石英大多	内：5Y4/1　灰 外：2.5Y6/2　灰黄	板ナデ	タタキ、マメツ	穿孔6孔
675	73	43	弥生土器	小型丸底土器	西谷地区	2/8	長石・石英大少、その他中普	内：7.5Y R7/6　橙 外：7.5Y R5/4　におい褐	マメツ	口縁部ハケ　体部マメツ	櫛付巻
676	73	43	弥生土器	小型丸底土器	西谷地区	5/8	雲母中少、角閃石小少、長石・石英小少	内外：10Y R6/4　におい黄褐	指オサエ後ヨコナデ、ナデ	口縁部マメツ　体部ヘラミガキ	
677	73	43	須恵器	蓋杯	西谷地区	7/8	長石・石英中少	内：N8/　灰白 外：5Y8/1　灰白	回転ナデ	回転ナデ	焼き
678	73		土師器	土釜	西谷地区	小片	長石・石英中多	内外：10Y R6/3　におい黄橙		指オサエ、マメツ	

土器観察表25

番号	挿図	図版	種類	器種	遺構名	残存率	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
683	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英中普、その他小多	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	不明	マメツ	櫛付着
684	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母中少、長石・石英中普、その他中少	内：7.5Y R7/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	不明	マメツ	櫛付着
685	77		弥生土器	底部	S R 01	小片	長石・石英中普、その他小少	内外：7.5Y R6/4　にぶい橙	マメツ	マメツ	櫛付着
686	77		弥生土器	底部	S R 01	小片	長石・石英大多	内：2.5Y R6/6　橙 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ハケ	タタキ、マメツ	櫛付着
687	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母大多、長石・石英中多、その他中普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ヘラケズリ	不明	櫛付着
688	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少	内外：7.5Y R5/4　にぶい褐	指オサエ	不明	櫛付着
689	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母中多、長石・石英中多、その他中少	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ヘラケズリ	マメツ	櫛付着
690	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英中普	外：7.5Y R6/4　にぶい橙	不明	マメツ	櫛付着
691	77		弥生土器	壺	東谷地区	小片	長石・石英小少、その他小普	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	ナデ、不明	ナデ	櫛付着
692	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英小少	内：10Y R8/2　灰白 外：10Y R6/3　にぶい黄橙	不明	タタキ	櫛付着
693	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英大普、その他中普	内：10Y R7/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/6　橙	不明	不明	櫛付着
694	77		弥生土器	壺	S R 01	小片	雲母中少、長石・石英大普、その他中普	内外：5Y R5/6　明赤褐	不明	不明	櫛付着
695	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母中普、長石・石英中普	内：10Y R5/3　にぶい黄褐 外：2.5Y 4/2　暗灰黄	指オサエ後板ナデ、ヘラケズリ	ハケ後ヘラミガキ	櫛付着
696	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大普、その他中少	内外：2.5Y 8/2　灰白	不明	タタキ	櫛付着
697	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英小少、その他小少	内：2.5Y 6/2　灰黄 外：10Y R7/4　にぶい黄橙	指オサエ	不明	櫛付着
698	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大多、その他中普	内：10Y R6/1　褐灰 外：5Y R7/6　橙	ハケ	マメツ	櫛付着
699	77		弥生土器	鉢	S R 01	小片	雲母中多、長石・石英中普、その他大少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：10Y R2/1　黒	不明	不明	櫛付着
700	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大普、その他小多	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	不明	マメツ	櫛付着
701	77		弥生土器	器種不明	東谷地区	小片	雲母小普、長石・石英小普、その他中少	内：10Y R6/3　にぶい黄橙 外：7.5Y R6/4　にぶい橙	マメツ	マメツ	櫛付着
702	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大少、その他中少	内：5Y R6/6　橙 外：2.5Y R7/8　橙	不明	ハケ	櫛付着
703	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英大普	内外：5Y R7/6　橙	不明	不明	櫛付着
704	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英小少、その他小少	内外：2.5Y 6/2　灰黄	指オサエ	板ナデ	櫛付着
705	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大普、その他大少	内外：5Y R7/8　橙	マメツ	マメツ	櫛付着
706	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英小普、その他小少	内外：10Y R7/4　にぶい黄橙	不明	不明	櫛付着
707	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	長石・石英大多	内：10Y R7/4　にぶい黄橙 外：10Y R7/6　明黄褐	ナデ	ナデ	櫛付着
708	77		弥生土器	器種不明	S R 01	小片	雲母小少、長石・石英大多、その他中普	内外：10Y R7/3　にぶい黄橙	不明	不明	櫛付着

土器観察表26

報告番号	挿図番号	図版番号	器種	遺構名	重量(g)	材質	備考
49	17	29	打製石斧	ＳＨ02	39.34	緑泥片岩	基部欠損
86	23		石鏃	ＳＨ05	0.59	サヌカイト	凹基式
190	34		凹み石	ＳＨ11	512.64		一面に敲打痕
327	44		石鏃	ＳＲ01	2.46	サヌカイト	
328	44	35	有舌尖頭器	ＳＲ01	9.97	サヌカイト	磨滅
329	44	35	スクレイパー	ＳＲ01	30.43	サヌカイト	
330	44		太型蛤刃石斧	ＳＲ01	147.92	緑泥片岩	基部・刃部欠損
331	44	35	砥石	ＳＲ01	744.87		四面に擦痕
489	53		石鏃	ＳＲ01	1.67	サヌカイト	
490	53		石鏃未製品	ＳＲ01	3.24	サヌカイト	
491	53	39	打製石斧	ＳＲ01	68.62	サヌカイト	
492	53		スクレイパー	ＳＲ01	37.33	サヌカイト	
493	53		スクレイパー	ＳＲ01	30.2	サヌカイト	
494	54		砥石	ＳＲ01	1067.06		
515	56		石鏃	ＳＲ02	10.58	サヌカイト	凹基式
679	74		スクレイパー	東谷地区包含層	4.7	サヌカイト	
680	74	43	石錘	西谷地区包含層	146.12		
681	74		砥石	西谷地区	361.66		二面に擦痕
682	74		砥石	西段丘地区	1500.92		二面に擦痕

石器観察表

図　　版

遺跡付近空中写真（左が北、ステレオ、昭和37年撮影）（縮尺約1/5,000）

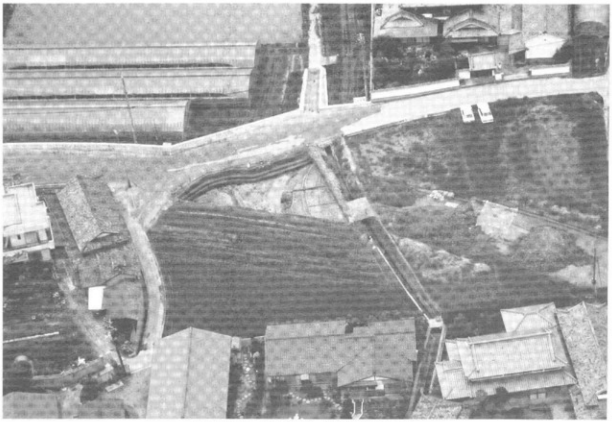
図版2

遺跡付近空中写真（左が北、ステレオ、昭和37年撮影）（縮尺約1/5,000）

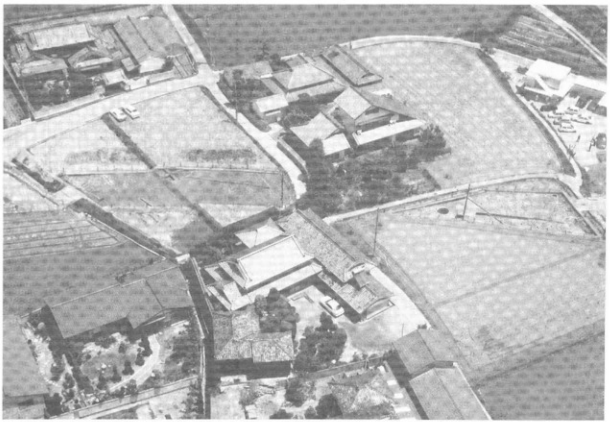
東段丘地区　掘削状況（西北上空から）

東谷地区　掘削状況（東北上空から）

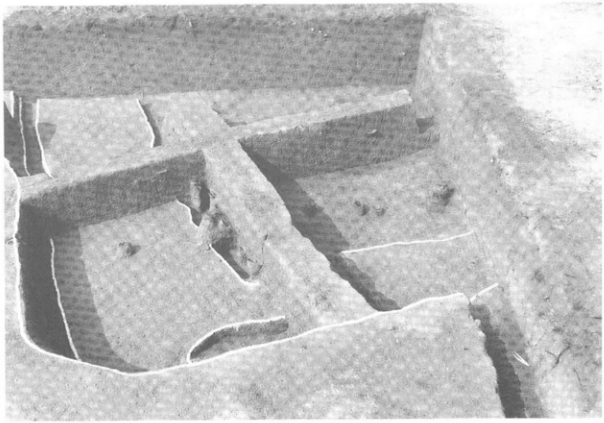
図版4



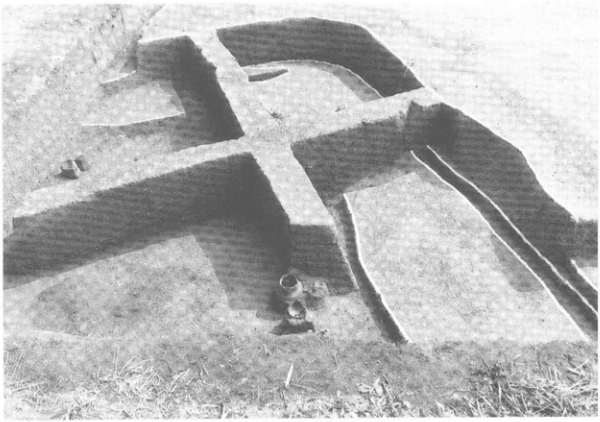
西谷地区　掘削状況（西南上空から）



西段丘地区　掘削状況（西上空から）



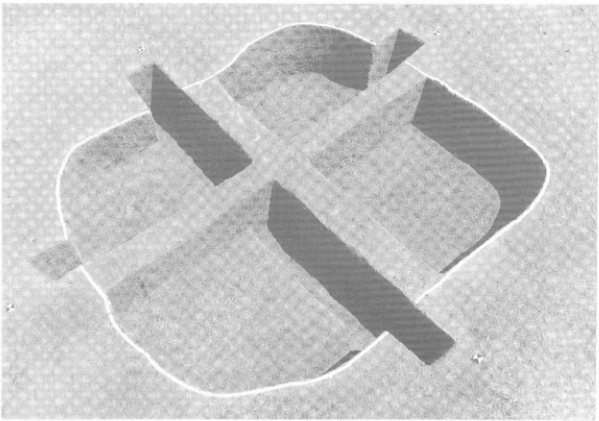
ＳＨ01　掘削状況（西南から）



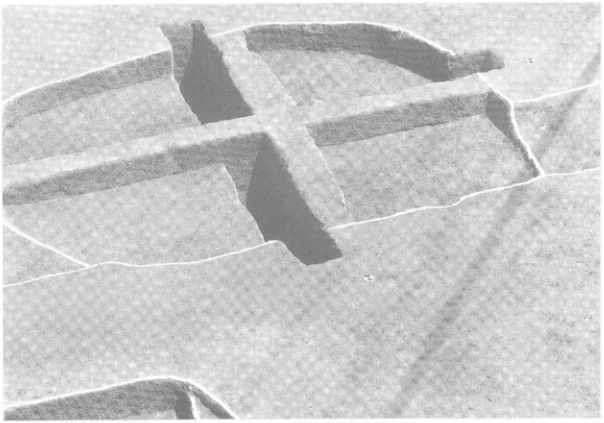
ＳＨ01　掘削状況（東北から）

図版6

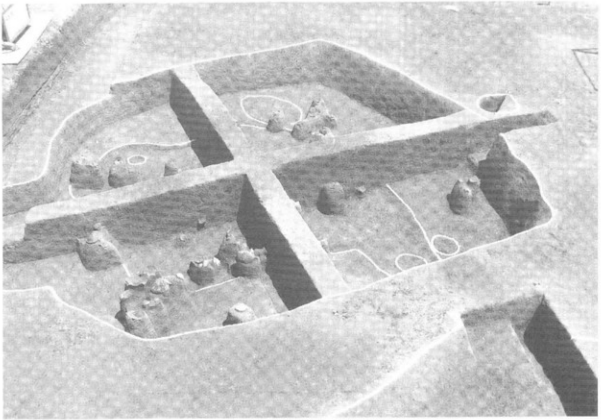
ＳＨ01　完掘状況（西南から）



ＳＨ02　完掘状況（西北から）

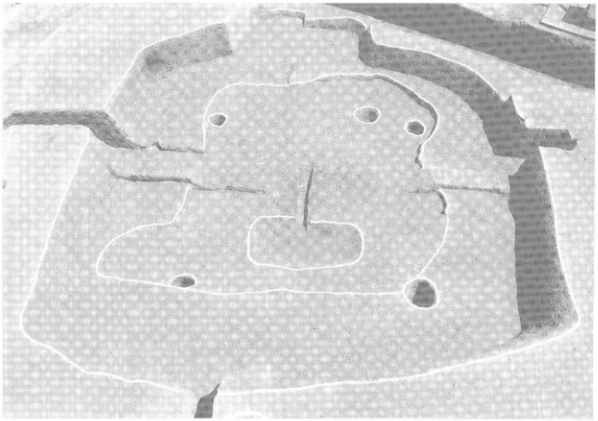


ＳＨ03　完掘状況（西北から）

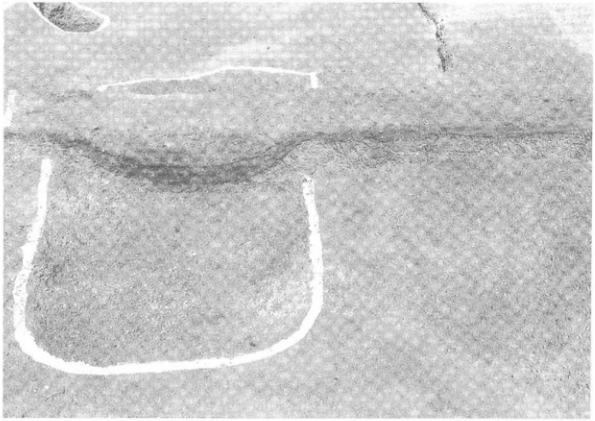


ＳＨ05　掘削状況（西から）

図版8

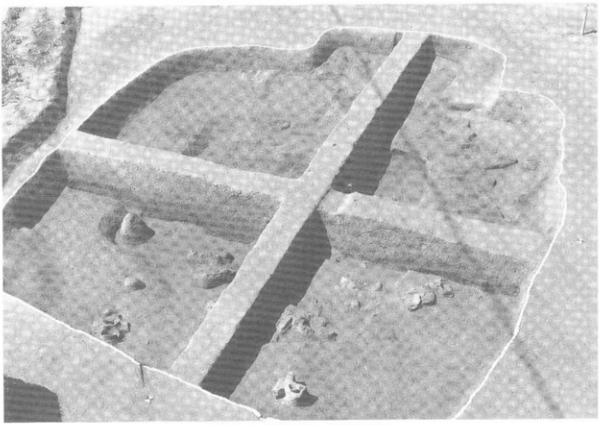


ＳＨ05　完掘状況（南から）



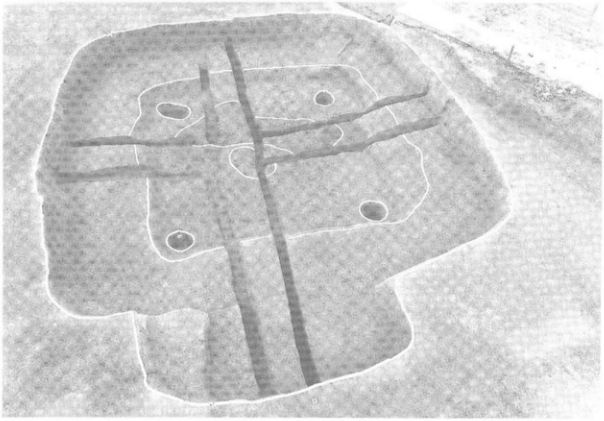
ＳＨ05　炉等断面（東から）

ＳＨ06　掘削状況（東から）

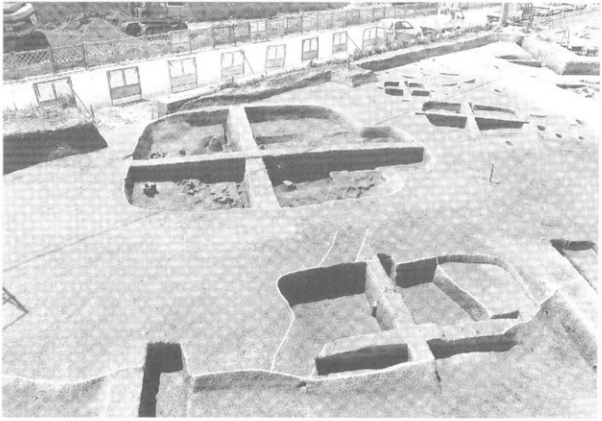


ＳＨ06　掘削状況（東南から）

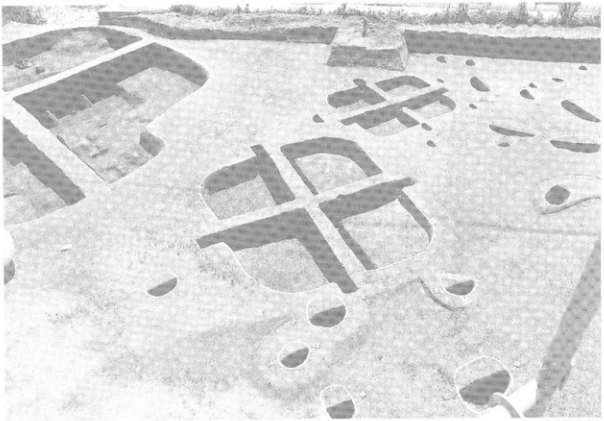
図版10



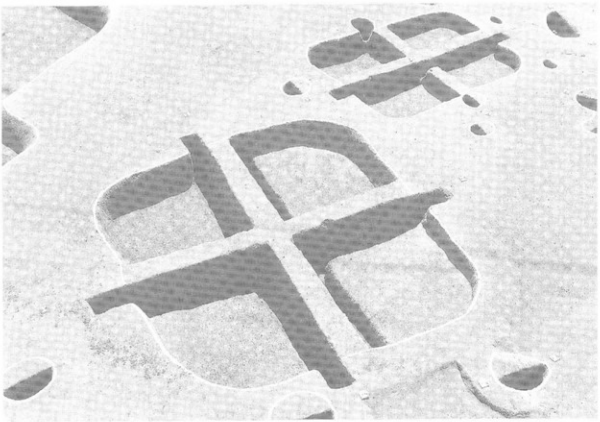
ＳＨ06　完掘状況（北から）



東段丘地区　掘削状況（東から）

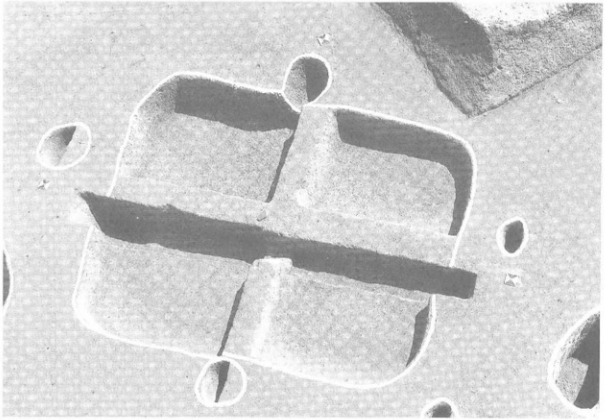


東段丘地区　掘削状況（北から）

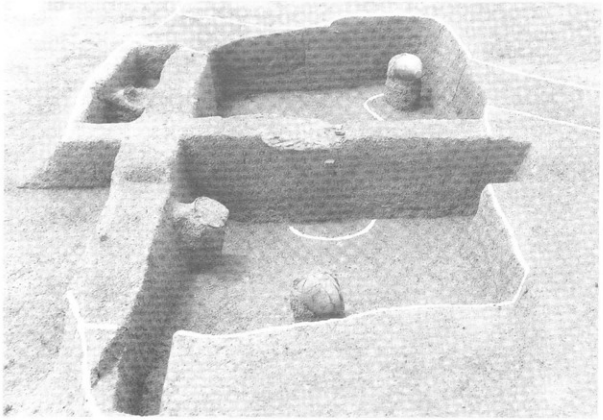


ＳＨ07、 08完掘状況（東北から）

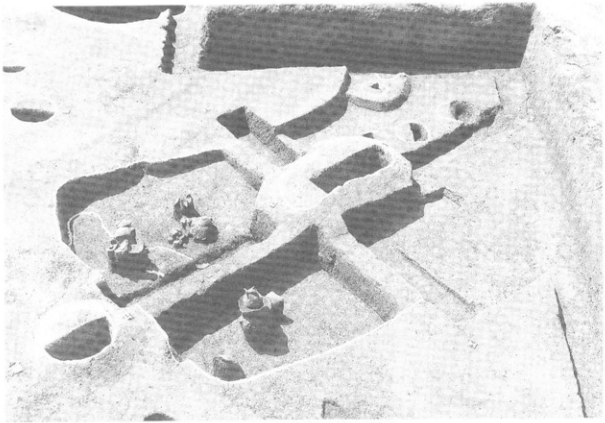
図版12



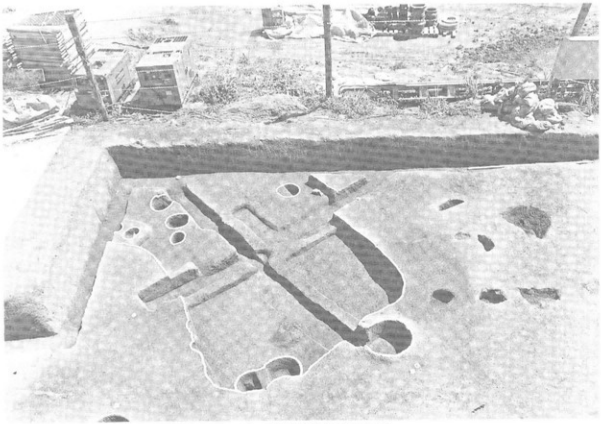
ＳＨ08完掘状況（東北から）



ＳＨ09　掘削状況（東北から）

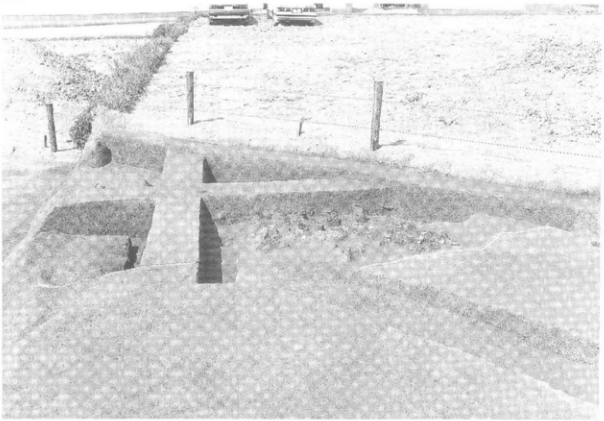


ＳＨ10　掘削状況（東南から）



ＳＨ10　完掘状況（南西から）

図版14



ＳＨ11　掘削状況（南から）

ＳＨ11　完掘状況（東南から）